

170209その他の事業－その他における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
2022	1	10 ～ 12	発掘調査現場で、被災者は、ドラグ・ショベルの運転者として調査範囲の掘削した土砂の移動や掘削した土砂を積み上げた地山の成形等を行っていた。その際に、地山の頂上の平地の端で作業していたドラグ・ショベルが斜面に向かって転倒し、被災者がドラグ・ショベルのヘッドガードと地面に胸部付近を挟まれた。その後、被災者は、搬送された医療機関で数日後に死亡した。	142	2	1～9
2022	1	18 ～ 20	業務終了後、従業員駐車場にて、自家用車に乗る前に、車止めに躓き、転倒し、駐車場外周部の側溝に右側頭部を強打したもの。	419	2	100 ～ 299
2022	2	14 ～ 16	図書館の設備運転管理等を受託する事業者の所属労働者1名が、同図書館3階の4か所にあるバルコニーのルーフドレン（ベランダの排水溝のつまり防止のための金物）の点検清掃を行った際に、誤って地上へ墜落（高さ9.1m）し死亡したもの。	418	1	300 ～ 499
2022	2	20 ～ 22	当該事業場の荷捌き場において、被災者は一人でトラックの荷台に積み込まれている生簀内の鯛を荷捌き場の生簀に移し替える作業をしていたと推測される。夜になってから、漁師が荷捌き場近くを訪れたところ、トラックの後方の地面に被災者が仰向けに倒れているところを発見され、後頭部骨折により死亡したもの。	221	1	1～9
2022	2	10 ～	実験棟（13階建）の屋上の高圧受電設備の警報鳴動があったため、設備管理責任者である被災者が、状況確認のためエレベーターで13階まで上	413	1	1～9

		12	がり、13階からは階段で屋上に向かった。その後、電灯交換工事業者の者が、13階から屋上の間の階段の踊場で倒れている被災者を発見した。			
2022	3	12 ～ 14	教官（被災者）と訓練生は、着陸後すぐに離陸するタッチアンドゴー訓練のため、飛行機に乗り込み、空港を離陸し、その後着陸を試みたが何らかの原因で墜落して2名とも死亡したものの。	239	18	10～ 29
2022	3	16 ～ 18	養殖ほやに取り付けていた計測機器を取り外すため、3名（漁業協同組合の労働者1名、事業場Aの労働者1名、個人事業主（船長）1名）が乗船した漁船が漁港を出港後、何らかの原因により漁船が転覆し、被災者と労働者は海上で発見され、その後、全員の死亡が確認されたもの。なお、救命胴衣は着用していた。	239	18	10～ 29
2022	3	6 ～ 8	被災者は被災事業場の事務所に自家用車で出勤し、敷地内に駐車後、車を降りて、事務所に向かって歩いていたところ、災害発生日前日に降った雪と路面の段差で足を滑らせて、後方に転倒したもの。被災後、病院へ搬送され、頭部の手術を受けた後、容態が悪化し、災害発生日から数日後に死亡したもの。	418	2	1～9
2022	4	8 ～ 10	漁業監視船の操船兼監視を行う者である被災者が単独で監視船に乗船して監視業務を行っていたところ、連絡がつかなくなり、捜索によって、転覆して海上に浮いていた監視船と、海底に沈んで溺死した被災者が発見されたもの。	239	18	100 ～ 299
2022	4	8 ～ 10	10階建てマンションの8階ベランダの床に設置されている避難梯子のワイヤー交換作業を2名で行っていた。対象の避難梯子を8階から7階に降ろしたところ、4～5段目が錆等により固着していたため、十分に伸びきらなかった。被災者は、ワイヤーの交換作業を8階から試みたが作業困難であったため、対象の避難梯子に足を掛けたところ、固着していた梯子が伸びきり、その反動により7階ベランダから地上に墜落した。	371	1	1～9
		10	放水路内の点検に使用する高所作業車（重量0.98トン）をトラッククレーン（吊り上げ荷重2.6トン）を使い放水路底に吊り下ろす作業中、トラッククレーンが横転し、すぐ横の放水路（深さ16.4m）底に転			

2022	5	～ 12	落。その際、トラックの荷台上で補助作業をしていた被災者及びトラックの運転席側キャビン後ろにある操作レバーでクレーンの運転をしていた関連会社所属労働者がトラックと共に転落、死亡した。	212	2	1～9
2022	5	～ 10 ～ 12	放水路内の点検に使用する高所作業車（重量0.98トン）をトラッククレーン（吊り上げ荷重2.6トン）を使い放水路底に吊り下ろす作業中、トラッククレーンが横転し、すぐ横の放水路（深さ16.4m）底に転落。その際、トラックの運転席側キャビン後ろにある操作レバーでクレーンの運転をしていた被災者及びトラックの荷台上で補助作業をしていた関連会社所属労働者がトラックと共に転落、死亡した。	212	2	1～9
2022	6	～ 16 ～ 18	被災労働者は、会議場の照明点検作業に従事していたが、点検作業中、天井裏を移動しているとき、石膏ボード製の天上板を踏み抜き、約17メートル下のホールに墜落した。被災労働者は、病院に搬送されたのち、死亡が確認された。	416	1	1～9
2022	6	～ 12 ～ 14	客先へ向かうため、路側帯を歩いていたところ、普通貨物自動車に後ろから衝突され、くも膜下出血により入院加療中であったが、同日死亡したものの。	231	17	100 ～ 299
2022	6	～ 0 ～ 2	被災者は客の車を運転代行し、市内中心部から片側1車線の直線道路を西進中、何らかの理由で道路左側の縁石に接触して対向車線に飛び出し、ガードパイプを突き破って用水に転落、運転席側を下に横転した形になり、溺死したものの。	231	17	10～ 29
2022	7	～ 12 ～ 14	被災者は荷物用エレベーターの保守点検作業のため、1階乗り場と2階乗り場の間で搬器を止めた状態で、一人でピット内に設置されている昇降梯子に昇り1階乗り場のスライドドアの溝清掃を行っていた。翌日、搬器と1階乗り場のドアの溝付近に上半身を挟まれている被災者が発見された。	214	7	1～9
2022	8	～ 10	店舗臨店のため、出張により災害発生場所へ赴いた。被災者は店舗駐車場に乗用車を駐車し車外に出たところ、乗用車が後進し始めたことにより、	231	7	1～9

		12	運転席のドアに押され、体勢を崩し倒れ、後進し続けた乗用車の下敷きになったもの。			
2022	8	8 ～ 10	6600Vキュービクル点検作業時、左手が交流6600Vの電力ケーブルに触れ感電、腹部に電流が抜け、腹部に電撃傷を負った。	352	13	30～ 49
2022	8	22 ～ 24	被災者は運転代行を依頼した客の自動車の運転を終え、当該自動車から随伴用軽自動車の助手席に乗り込む際に、道路脇から用水路（深さ約1.07m）に転落した。被災者は転落した際に頸椎を損傷し、病院に搬送され治療を受けていたが、低酸素脳症にて心肺停止となり、死亡した。	418	1	1～9
2022	9	14 ～ 16	電気設備保全業務契約先での作業を終えて、軽ワゴン車に一人で乗り帰社中、高速道路で単独事故により車が横転した。横転した際、肩から上が助手席の窓枠から飛び出し、路面と横転した車体との間に挟まれた状態であった（その場で死亡が確認された）。	231	17	50～ 99
2022	9	8 ～ 10	被災者は駅舎跨線部に設置されているベランダ状の点検デッキ上にて台風14号通過後の駅舎跨線部外壁破損有無を確認していたところ、点検デッキの床面として敷かれていたグレーチングの一部にずれが生じていたため、その状態を確認すべくずれが生じていたグレーチングに近づいたところ、被災者が乗っていたグレーチングが突如外れ、約10m下の線路上に外れたグレーチングと共に墜落した。	416	1	10～ 29
2022	9	12 ～ 14	被災者は、建物1階の鉄製扉（空気圧でスライドする）と扉枠に挟まれた状態で発見された。救急搬送されたが死亡したもの。	419	7	10～ 29
2022	9	14 ～ 16	介護老人保健施設の職員が、利用者のリハビリをするため、中庭を見たところ、頭から血を流している被災者を発見した。被災者の作業予定及び災害発生後の冷温水機の状態等から、被災者は、空調用冷温水機の調整後、屋上を歩いて地上に戻ろうとしたところ、墜落したものと推定できる。	414	1	100 ～ 299
		16				

2022	10	～ 18	山岳内で樹木の育成調査を終えて戻るために獣道を移動していたところ、足を滑らせ、最大勾配約70度の斜面を約80メートル滑落したもの。	711	1	1～9
2022	11	～ 20	同僚が被災者に退勤のための連絡をするも応答がなかったため、社内を捜索したところ、雑品庫電気室に設置しているキュービクル式高圧受電設備の前で倒れている被災者を発見したもの。死因は感電死であった。	352	13	50～ 99
2022	11	～ 18	リース会社からトラクターショベル4台を当該事業場の車両置場に移送させた後、翌日の作業準備のため、車両置場から資材置場の詰所へ徒歩で移動していたところ、後方から来た一般乗用車にはねられたもの。	231	17	1～9
2022	12	～ 16	被災者は、畑での作業を終え、社有車を運転し、事業場へ向けて道路上を走行していたところ、凍結路面でスリップして対向車線にはみ出し、同車線を行きかえしてきた大型トラックと衝突したもの。	231	17	1～9
2022	12	～ 14 16	年末年始の挨拶のため、宿泊先に車で移動中、高速道路の橋梁終了部で、運転中の車がスリップしたことにより対向車線（下り線）にはみ出し、助手席側が対向車と正面衝突し、助手席に同乗していた被災者が死亡したものの。	231	17	100 ～ 299
2022	12	～ 8	被災者が、港内にある事務所から作業場所に向かって、途中の共有倉庫出入口付近を徒歩で移動中、コンテナを倉庫内に搬入するため後進中のフォークリフト（別事業場の労働者が運転）に激突され、死亡したもの。	222	6	10～ 29
2021	1	～ 16 18	ゴルフ場内の貯水池内において、被災者を含む潜水士3名と陸上員1名の計4名で貯水池内（水深4.5m）のゴルフボールの回収作業を行っていた。被災者は貯水池の底に沈んだゴルフボールを回収しながら自分の位置を確認するため2回浮上し、その後も作業を続け、3回目の浮上時に手をばたつかせてそのまま沈んでいったため、近くで作業をしていた別の潜水士が被災者を救助し、病院に救急搬送されたが後日死亡した。	713	10	1～9
2021	1	～	有料駐輪場管理業務に就く被災者は、片側3車線道路の中央分離帯に配置された有料駐輪場の利用者から呼び出しがあったため、中央分離帯の有料駐輪場に出向き対応をしていた。被災者は、有料駐輪場から管理事務所に	231	17	300 ～

		18	戻ろうとして横断歩道を渡り始めたところ、交差点を左折しようとして侵入してきた自動車に撥ねられた。			499
2021	1	10 ～ 12	ビルの地下2階駐車場内の炭酸ガスを使用する消火設備のボンベ室で、消火設備の定期点検を行っていたところ、炭酸ガスボンベから二酸化炭素が噴き出し、点検していた作業員2名（事業者A所属うち1名は代表者）が死亡したもの。また、作業員の他同ビルの警備室にいた警備員1名（事業者B所属）も二酸化炭素を吸引し、病院に搬送された。	514	12	1～9
2021	2	0 ～ 2	被災者は、出張のため、出張先（国外）へ到着後、2週間の隔離を終え、後日出張先国内で移動し、現地社員と会議や会食を行った。さらにその数日後の夕刻、会食予定場所に被災者が現れないことから、宿泊ホテルに連絡したところ、居室で倒れているところをホテルの従業員に発見された。現地病院に緊急搬送されたものの、死亡が確認された。	911	90	1000 ～ 9999
2021	2	14 ～ 16	打合せのために出張した帰り道、被災者が軽自動車を運転していたところ、対向車線から中央分離帯を乗り越えてきた自動車に衝突されたもの。	231	17	10～ 29
2021	2	14 ～ 16	顧客先の高圧受電設備の点検を行っていたところ、高圧充電部分に触れたことにより感電したもの。	352	13	100 ～ 299
2021	3	16 ～ 18	商業施設屋上でオレンジ色バンドで縊頸したもの。（自殺）	921	90	1～9
2021	3	0 ～ 2	被災労働者は、「うつ病エピソード（F32）」を発症したものと判断した。また、「仕事内容・仕事量の（大きな）変化を生じさせる出来事があった」に該当する出来事を評価し、その心理的負荷の強度は「強」と判断した。	921	90	500 ～ 999
2021	4	10 ～ 12	午後、配達のために被災場所を訪れた者が、12tのタンクローリーと2tのタンクローリーの間にはさまれている被災者を発見した。タンクローリーの間で両手を上げ、左わき腹が挟まれている状態であった。	221	7	50～ 99

2021	5	12 ～ 14	被災者他5名で子会社の倉庫の屋根上に設置されたソーラーパネルを清掃中に、被災者は事務所屋根から倉庫屋根に移動しようとしたところ約7メートル下に墜落し死亡した。被災者は、本社に所属する労働者であり、災害当日は、子会社の倉庫で、出張作業を行っていたもの。	415	1	50～ 99
2021	5	0 ～ 2	複数の同僚が新型コロナウイルスに感染した職場の同一フロアで勤務していたところ、被災者は新型コロナウイルスの症状が現れたため、同日PCR検査を実施したところ陽性と判明し、数日後に死亡した。	911	90	100 ～ 299
2021	5	0 ～ 2	被災者は、新型コロナウイルスに感染していた同僚の労働者とともに同一の事業場内で勤務していたことから、同ウイルスに感染したもの。感染源となった同僚が陽性判定を受けたため所属事業場が休業となり、被災者は自宅待機していたが、後日、亡くなっているところを家族に発見された。なお、被災者は亡くなる数日前に体調不良となり、PCR検査を受け陽性であることが確認されている。	911	90	30～ 49
2021	5	16 ～ 18	エレベーター開閉扉のワイヤーロープ交換作業を終えた被災者が、エレベーターピットから外に出る際、エレベーターの操作方法を点検用運転から自動運転に切り替えた後、1階に着床していたエレベーターを2階に上げるようにかご内にいた共同作業者に指示、共同作業者がエレベーターを上昇させたところ、下降してきたカウンターウエイトに激突したと推定される。	214	6	1～9
2021	6	8 ～ 10	神社の境内において提灯かけに電線を設置するため、玉垣の上（高さ129.7センチメートル）で作業していたところ墜落したもの。被災者はその後入院加療を続けていたが、死亡したもの。	419	1	1～9
2021	6	0 ～ 2	緊急事態宣言下、頻繁な移動を伴う出張を繰り返し、多人数の業務関係者と接する中、被災者は新型コロナウイルスの感染の症状が現われ、受診した翌日PCR検査で陽性が判明し、数日後死亡した。	911	90	50～ 99
2021	6	12 ～	高さ約3mの位置にある量水標の補修のため、長さ3.2mのはしご（脚立）を使って昇降中、高さ約1.5mの位置から墜落したもの。被災者は	371	1	50～

		14	翌日、骨盤骨折のため死亡。当該現場の業務は保守点検の業務で1日の出張作業。			99
2021	6	12 ～ 14	朝から被災者は事業場の敷地内のビニールハウスの裾部分を土に埋める作業を行っており、数時間後に作業を中断して事業場へ戻った。その数分後までは事業場に被災者の姿が確認されているが、正午過ぎには姿が認められなかったところ、駐車場の自家用車内で倒れており、死亡したもの。	921	90	30～ 49
2021	7	10 ～ 12	崩壊道路の復旧工事において、地山の掘削を行った後、浮石を取り除き責任者が確認した後、作業員2名で測量を開始した。しかし被災者の後方の法面が湧水や既設の石積ブロック壁が原因となり結果、取り残しがあり、掘削上部から岩石が落下して転がり、被災者の腰部に当たり骨盤部を骨折した。当初は命に別状はなく治療を継続していたが、被災者の既往症もあり症状が悪化、ガス壊疽により死亡した。	711	4	10～ 29
2021	7	0 ～ 2	新型コロナウイルス感染症の感染が後で判明した労働者と出張した際、自動車内の同乗や会議の出席など、長時間を行動を共にしていた。受検したPCR検査により陽性が判明し、数日後38度の高熱があり、容体悪化により、病院に入院して治療を受けたものの、死亡した。	911	90	300 ～ 499
2021	8	8 ～ 10	労働者4名が乗用車に同乗して別事業場に向かう途中、交差点を右折していたところ、対向車線を直進してきたトレーラーと衝突した（4名のうち2名が死亡、2名が休業）。	231	17	10～ 29
2021	8	8 ～ 10	労働者4名が乗用車に同乗して別事業場に向かう途中、交差点を右折していたところ、対向車線を直進してきたトレーラーと衝突した（4名のうち2名が死亡、2名が休業）。	231	17	10～ 29
2021	8	0 ～ 2	新型コロナウイルス感染症による。被災者は、店舗（事業場性無し）で勤務していた。同フロア内で勤務していた者が新型コロナウイルス感染症の陽性判定を受け、被災者は自宅待機となった。その後PCR検査を受検し、陽性判定を受けた。さらにその後、症状が悪化し入院、後日死亡した。	911	90	50～ 99
		6				

2021	8	8	出張先へ向かう途中、電車乗り換えのため駅ホーム上を歩いていたところ転倒し、後頭部を強く打ち、緊急搬送され、その後死亡した。	417	2	30～ 49
2021	10	12～ 14	トラックの荷台から事業場2階の倉庫へ、階段を使用して荷物を搬入している作業中、1階で大きな音がしたため、2階にいた同僚が音がした1階に向かったところ、1階の階段付近に被災者がうつ伏せになって倒れていた。ドクターヘリにより医療機関に搬送されたが、死亡したもの。災害発生状況を目撃した者はいない。	417	2	10～ 29
2021	10	14～ 16	被災者は、境内の樹木剪定管理に従事しており、災害発生日も自身で決めた範囲の剪定作業を行っていた。同僚が作業場所から離れた場所から声を掛けたところ返答がなかったので、作業場所へ確認に行ったところ、脚立の横に倒れている被災者が発見された。後日、脳挫傷により死亡し、剪定作業中に脚立から墜落した可能性が高いと考えられるが現認者がいないので災害発生状況は不明である。	371	1	1～9
2021	12	10～ 12	被災者は、ごみをごみ集積場所に置きに行くため、ごみ袋をもち、屋外階段を下りている途中、足を滑らせ、墜落したもの。現認者は確認されていない。	413	1	1～9
2020	1	16～ 18	第一倉庫内において、最大荷重2.5トンのフォークリフトのフォークにパレットを差し込み、約3メートルの高さまでリフトし、そのパレットの脇に梯子を立てかけていたそばで、被災者が倒れているところを発見され、救急搬送された。被災者は後日脳挫傷により死亡した。発見時、被災者は保護帽、墜落制止用器具は着用していなかった。	222	1	10～ 29
2020	2	6～ 8	準中型トラックを回送する業務を行っていた被災者が、高速道路下り線走行中、非常駐車帯に停車していた小型トラックに追突し、その衝撃でハンドル等に身体をはさまれ、多発性外傷により死亡。準中型トラックの助手席にいた同乗者が胸骨骨折、小型トラックの車外にいた別事業場の運転手も右腕打撲。	221	17	10～ 29
			敷地内にある資材置場において、被災者はフォークリフトにより足場等の			

2020	2	8 ～ 10	資材を卸した後、荷を積まずフォークを最大に上げた状態で北東方向に直進し、南東方向に旋回したところ、フォークリフトが傾き始め、運転席左側から外に放り出された被災者が、転倒してきたフォークリフトの運転席フレームに頭部を挟まれ死亡したものの。	222	2	10～ 29
2020	2	6 ～ 8	資材置場に土砂を搬入するダンプトラックが通行したことで傷んだ道路に鉄板（縦約1.5メートル、横約3.0メートル、厚さ約8ミリメートル）を敷くため、ドラグ・ショベルのバケットに付属するフックに1枚の鉄板をつり下げ、もう1枚の鉄板を同バケットの上に載せ、同ドラグ・ショベルを走行させて運搬していたところ、同バケットの上に載せていた鉄板が落下し、付近にいた被災者の頭部に当たった。	142	4	1～9
2020	3	6 ～ 8	オークションで購入したトラックを引き取り、帰る途中に仮眠をとろうとしたが、トラックの暖房がきかなかったため、トラックの荷台（箱車）に載せていた社用車のエンジンをかけ仮眠していたところ、一酸化炭素中毒により死亡したものの。	514	12	10～ 29
2020	3	14 ～ 16	被災者は一人で2階へ上るエスカレーターの異音対応をし、2階降り口付近で、自動運転にして足踏みで異音確認中、踏段（水平の踏面と縦の蹴込み板が一体化の部品でステップとも呼ぶ）2枚を踏段チェーンから外した開口部が後方から来て、当該開口部（横1m×縦80cm（2枚分）、深さ1m）に落ち、降り口まで運ばれ、くし板（くし歯（踏面の溝に対応）が下面に並ぶ固定板）と後続の踏段に挟まれ、腹部が切断された。	229	7	1～9
2020	3	8 ～ 10	被災者は、被災事業場本社からワゴン車（社有車）を運転し、支店へ移動するため、片側1車線の町道（平らな直線道路、乾燥状態）の十字路の交差点内を走行中、一時停止標識を無視し、同交差点内に進入した乗用車の左後部に衝突し、反動でワゴン車が横転、被災者は、頭部を強打し死亡したものの。なお、乗用車の運転者に怪我はなかった。	231	17	50～ 99
2020	4	10 ～ 12	新型コロナウイルス感染症により死亡したものの。	911	90	10～ 29

2020	4	18 ～ 20	新型コロナウイルス感染症により死亡したもの。	911	90	10～ 29
2020	4	20 ～ 22	出張先で1日の業務を終え夕食後、宿泊先ホテルの2階客室に戻ったあと、同客室外のバルコニーから地上へ転落したもの。被災者は、飲酒していたものの泥酔状態ではなく、バルコニーには約1.1mの手すりがあった。	416	1	100 ～ 299
2020	5	10 ～ 12	被災者は、地山の崩壊調査のため、山林の中腹から下方に向かって斜面を下っていたところ、足を滑らせて約30m滑落し、意識がなく頭から血を流した状態で砂防堰堤上に横たわった状態で発見されたが、その後、搬送された病院で死亡が確認されたもの。	711	1	30～ 49
2020	5	20 ～ 22	被災者は災害当日お昼頃、出先にて電話設備の緊急対応への業務命令を受けて、出先よりバイクで事業場へ直行し、夕方に事業場に到着した。夜に業務を終えて、バイクで自宅へ向けて事業場を出発した。国道の信号機のない三叉路をバイクで直進中、対向車が右折した際に、被災者と衝突したもの。	231	17	10～ 29
2020	6	12 ～ 14	刑務所内における施設の清掃業務として、熊手竹ほうきを使用し、正門の近くにある植込みのソテツの木に張られたクモの巣の除去を行っていたところ、急に倒れこみ、頭部を強打したもの。	999	2	100 ～ 299
2020	7	14 ～ 16	大麦等が入ったフレコンバッグ（1袋の重量1t）が保管されている、支所の低温倉庫内において、同僚が運転するフォークリフトを使用して床に置いてあったフレコンバッグ一袋を移動させ、被災者が次の作業のため隣りに置いてある一袋のフレコンバッグ上でフォークリフトを待っていたところ、被災者の背後にあった4段積みフレコンバッグが倒れ、下敷きになったもの。	611	5	1～9
2020	7	0 ～ 2	自家用車の中で練炭自殺している被災者が発見されたもの。繁忙な業務や上司からの叱責より精神障害（うつ病）を発症した。	921	90	100 ～ 299

2020	7	12 ～ 14	被災者は、施設の敷地内において、当該施設に備わっているボイラーの燃料タンクへの燃料（木質ペレット）補充作業中、燃料を入れた袋（約7Kg）を抱えながら、当該タンクに備わっている垂直はしごを上っていたところ、体勢を崩し約2.8m下方の地上部に墜落した。被災者は当該施設の管理業務に従事する労働者であり、災害発生時に保護帽を着用していなかった。	371	1	10～ 29
2020	8	10 ～ 12	事務所の1階にある男子便所の個室で、被災者が倒れていたところが、発見された。その後、救急車により搬送されたが、翌日午前中頃に急性硬膜下血腫により死亡に至った。	419	3	10～ 29
2020	8	10 ～ 12	受変電設備保守点検において、工場内に設置してある受変電設備の機器銘板を確認するため、休止中の受変電設備に入り込んだ。入り込む前に、検電器で検電し、無電圧を確認したが、実際には電圧があり、右腕が充電部に触れて感電し、心肺停止となり病院に搬送され治療をしたが死亡した。	352	13	50～ 99
2020	8	12 ～ 14	市内にある会社の工場内に設置されているマシニングセンタの修理作業を出張して行っていたところ、機械内部のパレットチェンジャー（回転扉）に腰などを挟まれ死亡した。	159	7	10～ 29
2020	9	8 ～ 10	出勤したが、体調がすぐれないとのことで椅子に座り帰宅や病院の受診を勧めていたところ、気分が悪くなり、吐きそうだと訴えた後、椅子から床に倒れ、頭部を打った。	921	2	100 ～ 299
2020	10	16 ～ 18	被災者が、県道沿い斜面において、かかり木（胸高直径約25センチメートル、樹高約12メートルの枯れ杉）を倒すために4キログラムのハンマーで当該木を叩いたところ、当該木が谷側に倒れた際に他の立木の枝等に衝突したことで当該木の上部（約5.5メートル）が折れ、折れた上部が被災者の後頭部に直撃した結果、第1及び第2頸髄を損傷し、呼吸不全により死亡するに至った。	712	4	1～9
		10	被災者は、同僚1名とダム堆砂量測定のため、陸上部に設置している杭の測量作業を行っていた。2名で高さ約6メートルから下方にある杭の位			

2020	10	～ 12	置を確認、同僚が昇降ロープが必要と判断し、現場付近に駐車していた車両に取りにいったところ、後方から「ドボン」という音が聞こえた。同僚がすぐに現場に戻ったところ、被災者がダム湖に墜落しており、その後溺死した。	711	1	1～9
2020	10	～ 12	会社敷地内において、被災者が穀物の検査検量作業を行っていたところ、工場内から後退してきたフォークリフトに激突された。被災者は後日、腹部鈍的外傷に伴う敗血症により死亡した。	222	6	30～ 49
2020	10	～ 12	オーガフィーダー（乾式メタン発酵設備）の清掃作業に6名従事。作業指揮者の指示により部下がオーガフィーダーの運転スイッチを押したところ、機械内部に入っていた被災者2名が回転する2軸スクリューに巻き込まれて1名が死亡し、残り1名が被災したものの。	162	7	1～9
2020	11	～ 16	高木の枝の上に乗る、当該高木の剪定作業を行っていた被災者が、乗っていた枝と胴ベルト型安全帯のフックを掛けていた枝が折れ、約4メートル下の土の上に墜落し、側溝に左側頭部を打ち付けた。医療機関に搬送されたが、同日20時40分頃、死亡した。	712	1	10～ 29
2020	11	～ 10	被災者が、脚立と鋸を使用して剪定作業を行っていたところ、脚立（高さ1.2m～1.5m）から地面に落下し、頭部を打撲した。	371	1	10～ 29
2020	12	～ 10	片側一車線の道路において、対向車線からはみ出してきた大型ダンプがトラックと正面衝突した後、トラックの後続車であったワンボックス車にも正面衝突し、ワンボックス車はそのまま側溝（深さ約1m）に転落したものの。ワンボックス車を運転していた労働者は死亡した。	221	17	10～ 29
2020	12	～ 12	被災者は、本社に本社に出社し現任研修及び健康診断を受診した後、自転車で警備現場に向かっていたところ、左折するダンプカー（10t）に出合い頭で自転車ごと巻き込まれ、死亡したものの。	221	17	100～ 299
2020	12	～	被災者は、既設マンション屋上の消防設備の定期点検作業を行っていた。脚立に上って、エレベーター昇降路の外壁に取り付けられた煙感知器を点検し、脚立から降りる際、約17メートル下のコンクリート床に墜落した	414	1	1～9

		16	もの。なお、被災者は墜落制止用器具を装着していたが、フックを掛けていなかった。			
2020	12	20 ～ 22	被災者はホール舞台上で、演奏会に使用した道具の片づけ作業を行っていたが、道具を舞台の「せり」に載せた後、道具が崩壊しないように監視するため、自身もせりの上に乗った。その後、被災者と道具を乗せたせりは電動で約8 m下の大道具倉庫の床に向かって下降したが、被災者はせりの上から大道具倉庫の床に墜落した。	416	1	10～ 29
2020	12	14 ～ 16	被災者は商品の配送のためワゴン車を運転中、圧雪アイスバーンの路面でスリップし、対向車線側の路外にはみ出し、そのまま道路脇の畑に横転したものの。	231	17	10～ 29
2020	12	14 ～ 16	被災者は、荷物が納められたロールボックスパレット（約400 kg）をトラックのテールゲートリフトに移動させこれを下ろそうとしていたところ、ロールボックスパレットとともに転落した。高さは1メートル弱であった。	221	1	50～ 99
2020	12	12 ～ 14	被災者は運転代行を行っていた。次の依頼先である飲食店に向かう途中、交差点を右折中に、反対車線から直進してきた乗用車に衝突され、死亡したものの。	231	17	10～ 29
2019	1	12 ～ 14	被災者が2階事務所内で仮眠していたところ、1階の店舗（本件事業場とは異なる）で出火し、これにより被災者は心肺停止状態で消防隊員に発見される。その後、緊急搬送され救命措置が行われたが、10日後に死亡が確認されたものの。	519	12	1～9
2019	2	10 ～ 12	被災者は、ペット霊園の敷地内の法面にて立木の枝を伐採していたところ、約8メートル墜落したものの。	712	1	10～ 29
2019	2	10 ～ 12	岸壁において、外国から輸入されたコークスの入ったフレコンバッグの検数作業を行っていた被災者が、A社の作業員の運転するフォークリフトに激突されたものの。	222	6	10～ 29

2019	2	14 ～ 16	エレベーターの年次点検作業中、巻上機より発せられる異音について、その原因を調べるため、ピット内にいた被災者が、搬器内にいた部下に指示を出し、搬器を上昇させたところ、下降してきたカウンターウエイトと建物梁により頭部をはさまれ死亡した。	214	7	10～ 29
2019	3	18 ～ 20	被災者は、業務応援で工場へ長期出張をしていたが、この間も支店と応援先を行き来し、両方の業務をこなしていた。被災当日、工場の会議室で打合せ中、急に胸痛を訴えて意識を失い、すぐに病院へ緊急搬送されるも「急性大動脈解離」で死亡。	921	90	10～ 29
2019	3	10 ～ 12	高さ1.8メートルの脚立を使用して立木に登って枝の剪定作業中、高さ約2.6メートルの位置から地面に墜落して入院先の医療機関で死亡した。	712	1	10～ 29
2019	3	12 ～ 14	被災者は保安対応力テストのための現場巡回中、テスト対象場所ではない地下1階の部屋に入り、地下2階ピット吹き抜けに通じる扉を開けて、約6メートル下の地下2階に転落したものの。	418	1	300 ～ 499
2019	4	14 ～ 16	A社の2名と被災者を含む協力会社Bの2名は、打ち合わせのため、事業場から乗用車に同乗し本社に向かった。国道を走行中、対向車線を走行していた軽乗用車がセンターラインを越えて正面衝突した。乗用車の助手席側後部座席の被災者と軽乗用車運転手の2名が死亡、乗用車の運転手・助手席・運転席側後部座席の3名が負傷したものの。	231	17	30～ 49
2019	4	12 ～ 14	自宅の洗面所のドアノブにロープをかけて首を吊っているところを家族が発見した。	921	90	1～9
2019	4	12 ～ 14	被災者は自宅から訪問先へ向かうため、自動車にて走行中、トンネルの入口左側の側壁に衝突し、胸部大動脈損傷により死亡したものの。	231	17	1～9
2019	4	14 ～	出張先の構内で、プレス機械（800kg）の移設のため、フォークリフト（最大荷重2t）を用いて搬送中、床面に段差（最大4.5cm）がある部分を通過した際、プレス機械が左側に横転し、誘導していた被災者が	222	4	30～ 49

		16	建物の壁とプレス機械に挟まれて死亡した。			
2019	4	4 ～ 6	業務による明らかな荷重負荷を受けたことにより「くも膜下出血」を発症させたもの。	921	90	300 ～
2019	5	10 ～ 12	被災者は、会議に出席するため、軽自動車を運転し、自動車道を走行していた。トンネル内（センターポールのための片側1車線）において、対向車線を走行していたワゴン車が前方乗用車を左側（路側帯側）から追い抜こうとした際に乗用車の左側面と接触、弾みでトンネルの路肩部にぶつかった後、対向車線にはみ出して被災者が運転する軽乗用車と正面衝突したものの。	231	17	50～ 99
2019	6	2 ～ 4	午前、運転代行のため、客の車と運転代行会社の車の2台で、客宅に向かっていたところ、客の車を運転する同僚が、被災者の運転する運転代行の車がついてきていないことに気がついた。そのため、同僚は被災者に連絡を取ろうとしたが取れなかった。そうしたところ、被災者の車が市電停留所のクッションドラムに衝突しているとの通報が警察によせられた。被災者は、胸部圧迫により死亡したものの。	231	17	1～9
2019	7	14 ～ 16	港内のフェリー乗り場駐車場において、駐車場に置かれていた中古車の輸送のために進入していたカーキャリア（全長16.8m）が、後進していたところ、フェリー乗船車両（トラック）の誘導員を轢いたもの。	221	7	30～ 49
2019	7	6 ～ 8	建物3階玄関の屋根に上がり、4階の網戸取り付け作業を行っていたときに誤って転落した。	418	1	10～ 29
2019	8	8 ～ 10	防災点検における道路防災点検のため道路脇斜面等の点検・調査を実施している際に被災者が顔の頬付近を蜂に刺された。最寄りの病院へ搬送したが、被災当日の正午頃病院内において様態が急変し心肺停止状態となったことから、救命救急センター併設病院に搬送するも、その後、様態は回復することなく死亡したものの。	719	12	10～ 29

2019	8	20 ～ 22	被災者は港水路測定のため、同僚1人と2名で社用車を使用して、事業場を出発し、高速道路を利用して現場に向かっていた。自動車道上り線を走行中、強い雨が降っていたため、ハンドルが制御不能になり横転した。その後、後続の大型貨物車に追突され、助手席に乗っていた被災者が死亡した。	231	17	1～9
2019	9	16 ～ 18	砂防堰堤の改修工事発注に係る地質調査の準備作業中に川に墜落し、溺れたもの。なお、被災者は、川の対岸にいた作業員の居場所へ行くために、本来の通路である仮橋を通らずに堰堤上を移動し、水通しのコンクリート崩壊箇所（幅約4m）を飛び越えようとしたところ、飛び越えられずに、約10m下へ墜落し川に流され、翌日午後の下流で発見されたもの。	418	10	1～9
2019	9	4 ～ 6	当該事業場において、船舶等に電気供給する設備の運転管理等の業務を請け負っている。被災者は1名で設備点検終了後に、設備異常等に備え建屋内の設備運転管理室に併設された当直部屋で通常は仮眠中の時間帯に、その建屋外で倒れている状態で発見された。発見時は建屋2階の設備搬入用の扉が開放されており、その張出し床の直下で倒れていた。	719	1	1～9
2019	9	12 ～ 14	令和元年9月9日午前から、被災者と同僚の2名で、太陽光発電パネル設置工事の予定場所に自生する希少植物を探し、工事予定エリア外に移植する作業を開始したが、正午頃、同僚とはぐれ被災者が行方不明になった。翌日搜索したところ、付近の草むらの中で倒れて死亡しているのが発見された。	715	11	50～ 99
2019	11	8 ～ 10	木造2階建ての屋根に設置されたソーラーパネルの定期点検のため、住宅の東面から3連はしごを用いて、被災者が屋根に上って作業を行っていたところ、屋根の西側の端部から地上まで墜落したものの。	415	1	10～ 29
2019	11	14 ～ 16	国有林の立木伐採作業現場において、伐採業者がはい積みした伐倒木の寸法計測及び数量確認等の業務を行っていたところ、伐採業者の労働者が運転する車両系木材伐出機械（木材グラップル機）にひかれた。	171	6	10～ 29
			高速道路にて直前に発生した交通事故の車線規制中の災害。別部隊による車線規制が既に行われており、被災者は事故車後方から走ってくる車両に			

2019	11	18 ～ 20	対し発煙筒を振って知らせていた。後方から走ってきた乗用車が規制に気づき、減速して追越車線から走行車線へと車線変更後、さらに後方から来た乗用車が当該車両に続いて車線変更しようとしたが当該車両に追突しそうになり右にハンドルを切ったところ、被災者を撥ねたもの。	231	17	30～ 49
2019	12	14 ～ 16	港の棧橋の端部で、フェリー着岸準備をしていた被災者が海に墜落して死亡したもの。	413	10	10～ 29
2019	12	8 ～ 10	山林内で、台風により傷んだ木の伐木等作業を行っていたが、チェーンソーにより伐木しようとした木（長さ約11メートル）が意図した方向とは反対の方向に倒れたため、玉切り作業を行っていた被災者に直撃し下敷きとなったもの。被災者は病院に運ばれたが搬送先の病院で死亡が確認された。	712	6	30～ 49
2019	12	4 ～ 6	自宅から支店に出張するため、駅まで自家用車を使用し、駅北口付近の駐車場に車を止めたあと、踏切を渡り駅南口付近まで移動した。その後、再び踏切を駅南口から駅北口に向かって渡ろうとしたところ、走行中の特急列車にはねられ死亡したもの。	232	18	50～ 99
2018	1	8 ～ 9	被災者と同僚と一緒にハンドリフトを用いて機械（重量約600kg）を搬出口まで運搬し、機械をジャッキアップ後、被災者が機械の下にりん木を入れ、同僚は次の荷物の準備のため、ハンドリフトを機械置場に戻しに行った。フォークリフトに乗っていた別の同僚が「ガシャン」という物音を聞いたのでフォークリフトを降りて搬出口を見たところ、被災者が頭から血を流して倒れているのを発見した。	612	1	1～9
2018	1	12 ～ 13	トラクターショベルで駐車場の除雪作業中に、誤って約8m垂直に墜落した後、斜面を約6.9m転落した。運転者は、2点シートベルト及び、墜落・飛来兼用型ヘルメット着用、左ドアを開放した状況で、車体屋根部が大きく屈曲損傷し、座席と屋根にはさまれたまま死亡していた。除雪の積雪深さは50cm天候はくもり。視界は良好であった。	225	1	100 ～ 299

2018	2	18 ～ 19	事業場内で就労中、突然椅子から倒れそのまま意識なく、胸部大動脈破綻により死亡。100時間超の時間外労働。	921	90	30～ 49
2018	2	12 ～ 13	ゴルフ練習場の設備の保守・点検作業中、脚立でネットの補修作業中に墜落し、死亡したもの。	371	1	10～ 29
2018	2	8 ～ 9	被災者は、取引先企業の事務所から作業場所へ向かう際、片側一車線の都道の左端を自動二輪車で走行中、運転操作を誤り電信柱に衝突した。病院に搬送されたものの、全身打撲を負って、当日死亡が確認された。	231	17	50～ 99
2018	2	10 ～ 11	県道道路法面からの岩石、岩盤崩壊の状況を確認する道路防災点検業務を行うに当たり、道路下を横断するボックスカルバートの中の土砂の堆積状況等の写真を撮影するため、被災者が道路のガードレールを乗り越え、道路下の法面上に突き出たボックスカルバート（下流側）の天端に降り、さらに下にある小段に降りようとしたところ、13.48m下の川床に転落して死亡したもの。	418	1	1～9
2018	3	10 ～ 11	被災者は、客先工場にて電気設備の月例点検を行っていた。当該工場平屋部の屋上に設置されているキュービクル式高圧受電設備（受電電圧6600V）の内部を点検していたところ、感電し、4.86mの高さから地上に墜落して後日死亡したもの。当該屋上の端部付近には、高さ27cmのパラペットの他には、何もなかった。	352	13	30～ 49
2018	4	10 ～ 11	一般住宅の増築に伴う地質調査を地質調査機械（動力により回転するロッドの直径30ミリメートル）を使用して、労働者2名で地質調査の作業を行っていたところ、被災者の雨合羽の襟が巻き込まれた。その後、搬送先の病院で死亡が確認された（死因は窒息死）。なお、当該作業は当日のみで、約2～3時間で完了する予定であった。また、現地での作業は、地質調査のみであった。	169	7	30～ 49
			集合住宅の地下室にある、キュービクル式高圧受電設備の2ヶ月に1回の月次点検作業中（絶縁監視装置があるため、点検は隔月）、高圧受電盤の			

2018	4	10 ～ 11	計器用変圧器の端子に触れ感電死したもの（接触箇所は6600Vの箇所）。高圧受電盤の扉を開けると、アクリル板が設置されており、月次点検では目視点検程度の箇所でアクリル板を取り外す必要性がない箇所であるが、アクリル板を外して、上半身を入れた状態で端子に触れてしまった。	352	13	10～ 29
2018	5	12 ～ 13	被災者は、自宅の部屋で椅子ごと倒れ、仰向けの状態であったところを妻が発見し、救急車を呼んだがその場でくも膜下出血により死亡が確認されたもの。	921	90	300 ～
2018	5	14 ～ 15	出張先にてタクシーに乗車中、タクシーが反対車線に入りトレーラーと正面衝突した。被災者は頭を強く打ち死亡した。	231	17	1000 ～ 9999
2018	5	14 ～ 15	被災者は出張先である被災地において、舞台装置の点検のためにはしご道を移動している所、およそ13メートル下の床面に墜落し、死亡したものの。	413	1	10～ 29
2018	7	16 ～ 17	自動車道下りインター付近にて、渋滞のため停車中、後方よりトラックに追突され、そのはずみで前方3台に玉突きし、車両が大破した。救急搬送されたが、死亡した。	221	17	100 ～ 299
2018	7	22 ～ 23	運転代行業務を営む事業場において、客の自動車を代行運転する同僚を、軽自動車を運転して伴走していた被災者が道路脇の電柱に激突したものの。	231	17	30～ 49
2018	8	10 ～ 11	2日がかりの予定で朝から、毎月次点検受託先の変電設備（キュービクル）の点検作業に従事していたところ、熱中症にり患し倒れたもの。同僚労働者と午後から交代することが予定されており、事前に電話をしたが被災者の応答はなく、作業場内を搜索したところ、キュービクルの前で意識を失って倒れている被災者を発見した。頭上からの日射に加えて工場用コンプレッサーからの排熱が滞留し、極めて暑い場所となっていた。	715	11	1～9
2018	8	21 ～	葬儀屋の労働者が、葬儀場から会社に戻る際、青信号で交差点に進入したところ、赤信号を無視した乗用車が横方向から進入し、運転席側に衝突さ	231	17	10～

		22	れて死亡したもの。			29
2018	8	12 ～ 13	生産設備に組み込まれたリフターの月例点検のため、現地へ出張し、ホイストの操作ボックスを開いて運転操作をしていた被災者が、足がかりにしていた搬器の囲い又は手すりから約4.7m下方に置いてあった金型上に墜落し、死亡した。	419	1	1～9
2018	8	12 ～ 13	斜面（高さ約130m、勾配約40～45度）において、浮石等の危険性の調査のため、同僚と2名で実地踏査を行っていた。その際、斜面下部からジグザグに登り、浮石等の確認をしていたところ、高さ約100mの地点で足を滑らせ、約20m滑落した。被災直後は意識はあったが、その後、重症胸部外傷で死亡した。	711	1	50～ 99
2018	9	14 ～ 15	空港内に設置された1～2階停止の乗用エレベーターの法定検査中、隣接するエレベーターの異音確認と対処を行うこととした。被災者は、昇降路ピット内に入りかご内の補助者に対し、低速で複数回昇降させたが、異音は再現できなかった。被災者は補助者に通常運転で2階まで上昇するよう指示し、補助者が通常運転で2階に上昇させたところ、被災者は下降してきたカウンターウェイトと壁面との隙間に頸部をはさまれ死亡した。	214	7	10～ 29
2018	9	20 ～ 21	出張先から社用車を運転し帰社途中に高速道路にて社用車がスリップし、横転した。	231	17	1～9
2018	9	0 ～ 1	自動車の運転代行業務中、客の自動車を運転して見通しの良い直線道路を走行していたところ、対向車と正面衝突して死亡したもの。また、本件客の自動車を随伴していた社有車にも衝突したことにより、当該随伴車を運転していた同僚労働者も負傷した。	231	17	30～ 49
2018	9	0 ～ 1	地下駐車場で駐車装置の点検中、機械操作者が、被災者の乗ったパレットを最上部へ上昇移動させた。被災者はパレットに乗ったまま点検作業を行い、その位置での作業が終了したため、機械操作者が被災者の乗ったパレットを下降させようと操作したところ、パレットごと被災者が地下の地	391	1	10～ 29

			面へ墜落したもの。			
2018	10	8 ～ 9	上記支所内、購買倉庫のスレート屋根の雨漏り補修のため、職員6名が屋根に登りブルーシート掛け段取り作業中、被災者が明かり取り部分（ポリカーボネート部材）を踏み抜き約6.21m下に墜落した。（搬送先の病院で、死亡が確認された。）	415	1	30～ 49
2018	10	16 ～ 17	既存する橋梁の耐震補強設計を行うため、清掃・点検作業を3名で行っていた。橋台付近に親綱を設置し、被災者を除く2名が準備等のため一旦現場から離れた。その後、1名が現場に戻ってくる途中で、橋台付近から約20m下の河川に倒れている被災者を発見したもの。	711	1	1～9
2018	10	8 ～ 9	西側入口の高さ3.6メートルのキャノピーに設置されている蛍光灯の交換作業中、被災者は、キャノピー南側右端から開始するため、ヘルメットを装着し、補助者の支持のもと高さ2.3メートルの脚立に上った。被災者は、カバーである金属製の格子のねじをとりはずして地面に下ろそうとしたが、18キログラムの重量を持ちきれなかった。そして、同格子が地面に落ちる反動で、被災者も頭から墜落し、死亡した。	371	1	10～ 29
2018	10	8 ～ 9	被災者は、受電変電施設内において、ガントリークレーン撤去工事に伴う電気ケーブル切断作業を行った後処理として変電盤の中の電気ケーブルの取り外し作業を行っていたとき、6600Vの母線に被災者の頭部が接触して感電により死亡した。	352	13	1～9
2018	11	10 ～ 11	航空基地への揚油作業（沖合200m付近のタンカーからタンクに納品。）を行うため、ゴムボートでタンカーをブイに係留する準備作業を行っていたところ、高波を受けボートが転覆し、作業員5人と自衛隊員1人が海上に投げ出されたもの。直後から被災者は意識なく、災害派遣要請により自衛隊ヘリコプターで救助、本土に搬送されるも、搬送先で死亡が確認された。	713	10	10～ 29
		10	災害発生当日は被災者Aと、Bの2名での作業であり、滝の正確な高さを計測するため、Bは被災者に滝下の岩盤にポールを立ててくるよう指示し、Aは滝側面の遊歩道を通って滝下へ向かった。岩盤に到着するとAが			

2018	11	～ 11	ら連絡が来ることになっていたが、連絡が来なかった。Bは岩盤に行ったが、Aはいなかったため、消防に連絡し、Aを捜索したところ、岩盤より上流の窪み（深さ約1m）に沈んでいたAを発見した。	713	10	1～9
2018	11	～ 13	既設送電鉄塔の点検保守作業後、アース（送電線を鉄塔に接地）取り外し作業を終えた被災者が鉄塔から地上に降りる際、約30メートルの高さから墜落したもの。アース取り外し作業は被災者を含め2名で行われており、降下の際被災者が背負っていた搬送部材の落下を防止するため途中で2名の上下位置を入れ替えようとした際に上側に移動した被災者がバランスを崩し墜落に至ったもの。	418	1	100 ～ 299
2018	12	0 ～ 1	代行運転で、被災者が随伴用の軽自動車を運転し、同僚が運転する客の自動車の後ろを付いて走っていたところ、道路脇の縁石に乗り上げ、街路樹に衝突し、胸等を強く打つ等して死亡した。道路にブレーキ痕はなかった。事故現場は片側1車線の直線であった。	231	17	10～ 29
2017	1	6 ～ 7	出張のため、自宅から高速バスの停留所に向かい横断歩道を歩行中、交差点を右折してきたトラックと接触した。	221	17	100 ～ 299
2017	1	8 ～ 9	ホテル内の乗用エレベーターの点検にあたり、搬器を8階に停止させて搬器内の照明とスイッチを切り、エレベーターの扉を開放した状態にしてから屋上機械室の電磁接触器の部品交換作業を同僚とともにいった。その後、被災者はエレベーターの試運転を行うために、停止している搬器に乗ろうと7階のエレベーターの扉を開けて足を踏み入れたが搬器は8階に停止していたため、そのままエレベーター昇降路内へ墜落した。	414	1	100 ～ 299
2017	1	16 ～ 17	被災者2名は10時30分頃、貯水池の湖面に設置されている水質自動監視装置の保守点検作業を行うため、河川事務所出張所に貯水池に入るためのゲートの鍵を借りに来た。17時頃、事業所から2名と連絡が取れないとの連絡を受けた出張所の職員が貯水池を確認したところ、岸近くにエンジン付きボートと浮いている2名を発見した。ライフジャケットは濡れた	713	10	10～ 29

			状態で岸に置かれていた。			
2017	1	16 ～ 17	被災者2名は10時30分頃、貯水池の湖面に設置されている水質自動監視装置の保守点検作業を行うため、河川事務所出張所に貯水池に入るためのゲートの鍵を借りに来た。17時頃、事業所から2名と連絡が取れないとの連絡を受けた出張所の職員が貯水池を確認したところ、岸近くにエンジン付きボートと浮いている2名を発見した。ライフジャケットは濡れた状態で岸に置かれていた。	713	10	10～ 29
2017	1	12 ～ 13	強化指定選手である被災者が、ナショナルチームの合宿中において、他の選手7名と競技用自転車の練習中、緩やかな下りの右カーブを走行していたところ、中ほどにいた被災者が列から外れ、道路左側のガードロープに衝突し飛び越え、崖下に転落し死亡した。	362	17	300 ～ 499
2017	1	6 ～ 7	大型貨物船（2万2千t）の接岸に伴う係留作業において、綱取り作業船（13t）に2名（船長、機関士）が乗り込み、大型貨物船から降ろされた係船ロープを受け取り作業船に取り付け、岸壁の係留設備まで運ぼうとしていたところ、たるんで海中に沈んだ係船ロープが大型貨物船のスクリューに巻き込まれたため、作業船が海中に引き込まれ転覆・沈没し、投げ出された機関士は救助されたが、船長は沈没船の操舵室で発見された。	239	10	30～ 49
2017	2	10 ～ 11	構内において、同事業場の電気設備定期点検に訪れていた被災者が作業通路を移動中、後方から走行してきたフォークリフトバックレスト部に接触し前方にうつぶせで倒れたところにフォークリフトでひかれた。	222	7	10～ 29
2017	2	14 ～ 15	海上から陸揚げされたGPS波浪観測ブイの点検調査のため、点検業務に先立ち、バッテリー格納室の換気を行うため、被災者がブイ内部に入り、バッテリー格納室のマンホールを開けようとした時に、バッテリー格納室内部に充満していたと思われる可燃性ガスによる爆発が発生し、被災した。また、ブイ上部踊り場で監視していた者も爆風により負傷した。	391	14	1000 ～ 9999
2017	3	16 ～ 17	被災者が運転していた社用車が交差点に進入したところ、右側から直進してきた車両と衝突し、被災者は死亡した。	231	17	10～ 29

2017	4	10 ～ 11	風力発電所にある発電機内でオイルフィルターの交換作業を終え、交換作業に使用した工具等をタワー踊場にあるウインチを使用して地上に吊り下ろすため、被災者は安全帯を使用せずに工具等が入った2つの袋をウインチのフックに掛け、当該ハッチ（約70cm×70cm）を開けたところ、荷がウインチのフックから外れ、外れた荷をつかんだところ、荷とともにハッチから約55m下に転落して脳挫傷により死亡した。	414	1	1～9
2017	4	22 ～ 23	2月より担当業務が品質保証施策業務となり業務量が増加。複数プロジェクトの事実収集、分析、資料作成、会議準備等に従事。4月に気分障害を発病。発病前3か月から発病前2か月にかけて、時間外労働時間数が倍以上増加し、1か月当たり100時間超となった。その後、自宅にて自死の状態で見つされた。	921	90	300 ～
2017	5	6 ～ 7	設計業務に従事していた被災者が自宅で倒れているのが発見され、医療機関に搬送されたが、翌日、くも膜下出血により死亡した。	921	90	50～ 99
2017	5	22 ～ 23	被災者は、農業協同組合の共済部門の事務担当の業務を行っていたが、林道周辺で、自殺しているのを発見された。	921	90	50～ 99
2017	5	4 ～ 5	イベント会場の設営を請け負った当該事業場の労働者5人で会社所有の乗用車に同乗し、自動車道を走行中、トンネル内において、当該乗用車の後輪が脱輪又はパンクし、操舵が不能となり、トンネル内の左側の側壁に衝突した後、再び右側の側壁に衝突し、この衝撃で、乗用車が大破し、後部座席に同乗していた労働者が頭などを強く打ち死亡した。	231	17	1～9
2017	6	12 ～ 13	既設機械式立体駐車場の定期点検作業中、被災者が車両昇降装置のフレームに搭乗した状態での上昇中、フレームと躯体内壁の鉄骨との間に頭部を挟まれた。その結果、被災者の頭部が切断し、約7.9m下のピットまで胴体とともに落下した。	214	7	1～9
		14	被災者は車庫内に駐車していたスクールバスのエンジンを始動させ、暖気運転したまま、降車したところ、無人のバスが逸走したため、制止させる			

2017	6	～ 15	ためにバス前方ある「ドア開閉スイッチ」を操作しようとした際に同バスに轢かれた。	231	7	1～9
2017	7	14 ～ 15	被災者は、河川監視員として釣り人の監視をする業務を行っていたが、普段の帰宅時間になっても自宅に戻らなかったため、捜索したところ災害発生場所付近の川の中で発見された。被災者の一人作業のため目撃者はいないが、状況から原動機付自転車に跨り道路より河川を監視中に誤って道路のガードレールの間から8m下の河川に原動機付自転車ごと転落し溺死したものと史料される。	231	17	1～9
2017	8	0 ～ 1	災害発生時、被災者は中心市街で運転代行業務に従事しており、社用車を運転して、先行する客車に随行していた。信号がない交差点において、一時停止位置で十分に停止せずに進入したところ、右側から直進してきた乗用車に側面から追突された。追突後、社用車は横転し、被災者は車外に投げ出された。被災者は横倒しになった社用車の下敷きとなり、搬送先の病院で死亡が確認された。	231	17	30～ 49
2017	8	6 ～ 7	IC付近で被災者、同僚及び警察官2名が、事故を起こした軽自動車の事故処理を行っていた際、警察官が行う交通誘導に気付かず、大型トラックが追越し車線をそのまま走行し、警察官はコンクリート壁側に逃げたが、被災者がトラックに轢かれ死亡した。また、社有車の助手席に乗車していた同僚労働者が負傷した。	221	17	10～ 29
2017	8	20 ～ 21	倉庫内に4段に積んでいたフレコンバッグ（米が入ったもの。重さ約1トン。高さ約1.1メートル。）の一部に崩れる気配があったため、被災者がはい替えを行うためにフォークリフトを運転して手前のフレコンバッグを移動させようとしたところ、フレコンバッグが崩れ出し、それに気付いた被災者はフォークリフトから降り避難しようとしたが、その方向にフレコンバッグが崩れ、被災者はフレコンバッグの下敷きとなった。	611	5	10～ 29
		16	人工林の生育状況等調査のため、午後1時半頃、被災者ほか3名で林道終点から徒歩で山林に入り、午後2時頃からは、被災者単独で人工林と天然			

2017	9	～ 17	林の境界調査を行っていたが、下山予定時刻の当日午後5時になっても下山せず、翌朝7時30分頃、傾斜50度～60度の崖下の沢のほとりで、心肺停止の状態で座り込んだ状態で発見され、搬送先で死亡が確認された。	711	1	1～9
2017	9	～ 13	病院内の入院患者用の食事を運搬するために設置された小荷物昇降機（停止階4、5、6、7階）の不具合を確認するため、5階の荷の積卸口において戸を全開にして、搬器を50～60センチ下げた状態で、頭部から胸部を昇降路内に入れていたところ、上昇してきた搬器の上部と荷の積卸口にはさまれ、頸椎を骨折し、死亡した。	214	7	1～9
2017	10	～ 17	16 蜂の巣の駆除を依頼され、被災者一人で巣を探していたところ、蜂（オオスズメバチ）に刺された。	719	90	10～ 29
2017	10	～ 15	14 関連会社の監査中に、建屋屋上（約14m）から下方を見下ろしていたところ、地面に墜落した。	418	1	1000 ～ 9999
2017	10	～ 7	6 地元の漁業協同漁組合から台風によるサケ定置網の被害状況の調査を依頼され、被災者は漁組の運転手1人が乗る小型漁船に同乗し、漁港沖約1kmの地点にあるサケ定置網の内部へスキューバ方式により潜水していた。潜水して約20分後に網を引き上げたところ、浮上する横網の下に被災者の姿があった。被災者に意識はなく、身に着けていたボンベや重りは外された状態であった。	379	10	50～ 99
2017	11	～ 13	12 1階建て鉄筋コンクリート造の屋根に溜まった落ち葉の掃除が終了したので、立て掛けたはしごを降りようとしていたところ、約2.6mの高さから誤って墜落し、死亡した。	371	1	10～ 29
2017	12	～ 17	16 被災者は水道施設での作業を終え、事務所に帰社するため、移動手段の原付バイクを運転し、交差点の脇道から右折した。同一方向を直進する大型トラックと衝突し死亡した。	221	17	30～ 49
			被災者は、一人で戸建住宅の完了検査を出張作業にて行っていた。隣接す			

2017	12	8 ～ 9	る建物の外構工事をしていた者が音がしたので行ってみると、被災者が倒れているのを発見した。検査を行っていた建物の敷地と発見された隣地には約1.6メートルの段差があった。	418	1	10～ 29
2017	12	14 ～ 15	被災者が、顧客先より所属事業場に帰るため、自転車にて下り坂を走行中、前方の道路上に停車していた自動車のドアが不意に開いたため、当該ドアと衝突した。	362	17	300 ～ 499
2017	12	10 ～ 11	被災者をホイール式トラクター・ショベルのバケットに乗せ、倉庫の外壁を張る作業を行っていた際に、同機械の運転者が同機械を後退、被災者がバランスを崩しバケットから墜落したところへ同機械を前進させたため、被災者の頭部をタイヤで轢いた。	141	1	50～ 99
2016	1	4 ～ 5	運転代行業を営む被災者所属事業場の軽乗用車が片側2車線の直線道路を走行していたところ、対向車線を走行していた普通乗用車が反対車線に飛び出し、軽乗用車と正面衝突した。軽乗用車に乗務していた被災者2名が車外に投げ出され、運転していた1名が全身を強く打つなどして死亡し、もう1名は両足開放骨折及び内臓損傷等により重体。	231	17	10～ 29
2016	1	12 ～ 13	荷物搬送用エレベーターの点検作業を行っていた被災者が搬器の上端の梁と2階エレベーター出入り口部の上部との間に上半身と右足を挟まれた状態で発見された。	214	7	1～9
2016	2	16 ～ 17	介護老人福祉施設内に設置されたエレベーターのピット内において点検作業を行っていた被災者が、当該エレベーターの釣合い重りと緩衝器の間にはさまれた。	214	7	10～ 29
2016	3	14 ～ 15	フォークリフトを運転し、小型貨物自動車に積まれた牧草束（約900kg）の積み下ろし作業を行おうとしていたところ、高さ76cmのプラットフォームからフォークリフトが転落し、フォークリフトの下敷きとなった。	222	1	1～9
2016	3	9 ～	出勤途中、勤務地の最寄駅から勤務地までの歩いていたところ、心筋梗塞を発症し、死亡した。	921	90	100 ～

		10				299
2016	3	12 ～ 13	長時間労働による心理的負荷により自殺した。	921	90	10～ 29
2016	3	10 ～ 11	マンションに設置されたエレベーターについて、振動音がするとの申し出に基づき点検作業を行っていた。ピット内に被災者が入り、同者が搬器内の作業者に搬器を上昇させるよう指示を出した後、約39cm搬器が上昇した段階で搬器が停止した。その約5分後に搬器内にいた作業者が搬器から出て昇降路ドアの隙間からピット内を見たところ、被災者が搬器とピット壁との間にはさまれていることを発見した。	214	7	30～ 49
2016	4	2 ～ 3	被災者2名は運転代行の仕事で、客を送り届けて会社へ戻るため、軽乗用車で走行中、交差点において乗用車と衝突し死亡した（2名死亡）。	231	17	30～ 49
2016	4	2 ～ 3	被災者2名は運転代行の仕事で、客を送り届けて会社へ戻るため、軽乗用車で走行中、交差点において乗用車と衝突し死亡した（2名死亡）。	231	17	30～ 49
2016	4	11 ～ 12	農業用トラクターで田圃耕起作業を終え、当該トラクターの格納庫へ向うため、市道（未舗装／幅2.5m）を走行中、運転を誤り約1m下の田圃に転落した。	169	17	10～ 29
2016	5	13 ～ 14	業務により公用車を運転中、被災者が運転する公用車がセンターラインをオーバーし、対向車線に進入し、対向車の大型トラックと正面衝突をした。事故により、腹部内臓損傷等により意識不明の状態が続いていたが、死亡した。	231	17	1～9
2016	5	16 ～ 17	水路看視業務中、水路に転落し、約3キロメートル下流でうつ伏せの状態 で死亡していた。	713	10	30～ 49
		19	外出先から帰社する途中、軽乗用車で国道を走行している時、反対車線に			

2016	5	～ 20	はみ出し、対向車線を走行してきたトラックと衝突した。	231	17	1～9
2016	5	8 ～ 9	客先店舗での納品作業中、被災者は「調子が悪い」「胸が痛い」などの症状を訴えながらも休憩を取りながら業務を終わらせ、駐車場に止めていた軽車両に戻り荷台で休むことにした。しばらくして他の者が様子を見にいき、声をかけたところ返事がなく、目と口が半開きで意識がない状態であった。救急搬送したものの搬送先病院で死亡が確認された。	921	90	10～ 29
2016	5	17 ～ 18	被災者は一般廃棄物処理場の管理人であるが、5月17日に事業場と電話で話をしたのを最後に行方不明となり、5月19日に搜索した結果、処理場内の調整池（水深約1.8m）に沈んでいるのが発見された。	713	10	10～ 29
2016	7	21 ～ 22	海外出張中、レストランにおいて、数名の武装グループが人質を取って籠城し、日本人7名を含む約20名を殺害、多数が負傷する事件が発生したものの。	921	90	300 ～ 499
2016	7	21 ～ 22	海外出張中、レストランにおいて、数名の武装グループが人質を取って籠城し、日本人7名を含む約20名を殺害、多数が負傷する事件が発生したものの。	921	90	10～ 29
2016	7	21 ～ 22	海外出張中、レストランにて食事中に武装したテロ集団の爆弾・銃撃により殺害された。	921	90	30～ 49
2016	7	21 ～ 22	海外出張中、レストランにて食事中に武装したテロ集団の爆弾・銃撃により殺害された。	921	90	30～ 49
2016	7	21 ～ 22	海外出張中、レストランにて食事中に武装したテロ集団の爆弾・銃撃により殺害された。	921	90	30～ 49
2016	7	21 ～	海外出張中、レストランにて食事中に武装したテロ集団の爆弾・銃撃により殺害された。	921	90	300 ～

		22						499
2016	7	19 ～ 20	被災者は、追越車線上に停車している事故車両の走行規制の誘導作業を行っていた。その際、別の走行車両が中央分離帯に衝突し、そのまま誘導作業を行っていた被災者をはね飛ばした。	231	17			10～ 29
2016	7	12 ～ 13	原動機付自転車にて出張先の事業場へ向かう途中、走行してきたタクシーと衝突し、74日後に死亡した。	231	17			10～ 29
2016	7	11 ～ 12	自動販売機へ飲料を補充等する業務のため経路を走行していた業務用車両が電柱に衝突し、助手席にいた被災者が死亡、運転手が負傷した。	221	17			30～ 49
2016	7	18 ～ 19	川の流量測量のため、川巾30mの左岸から右岸にロープを渡した。被災者は右岸からロープを伝って左岸に渡っていたところ、中央部付近で突然、体が沈み、姿が見えなくなった。約1時間後、作業場所から2km下流で浮いているところを発見され搬送先の病院で死亡が確認された。	713	10			30～ 49
2016	8	15 ～ 16	標高約100メートルの山頂にある無線中継所のアラーム障害の点検復旧を行うため、単独で入山した労働者が、午後0時頃から午後1時30分頃まで点検復旧作業を行った後下山するも連絡が取れなくなり、翌朝山の斜面で倒れているのを発見された。司法解剖等の結果から熱中症と推定される。	715	11			30～ 49
2016	8	1 ～ 2	被災者は、河川の水量調査を実施後、同僚2名と共に社用車（ピックアップトラック）に乗車して移動中、台風による増水により約8メートル崩落していた橋台付近から車ごと川に転落した。同僚2名は自力で脱出したが、運転していた被災者が行方不明となった。警察、消防等による捜索活動が行われた結果、事故発生現場から数百メートル下流において遺体で発見された。	221	17			100 ～ 299
2016	9	9 ～	被災者は、災害発生時、液化酸素が入ったボンベ内の液化酸素を空のボンベへ移充填（移し替える）するために、移充填元のボンベと移充填先のボンベをホースで繋ぎ、移充填作業を行っていたところ、移充填元のボンベ	519	14			10～ 29

		10	が爆発し、被災者が火傷を負い、病院に救急搬送されたが死亡した。			
2016	9	8 ～ 9	道路建設工事現場において、被災者は、道路端の高欄（コンクリート製囲い）の計測作業をしていた。作業場所の周囲には、工事用ラック式エレベーターが設置されており、被災者が高欄をよじのぼり、エレベーター搬器の下に頭を入れて計測していた時、別の請負作業員がエレベーターの下降操作をし、エレベーター搬器と高欄の間に挟まれ、そのままエレベーターピット9.9m下に落下した。	214	7	1～9
2016	9	8 ～ 9	出張先の研修会場に向かうため、被災者は有料道路の北行き車線（片側1車線）を乗用車で運転走行中、南行き車線を南下してきた乗用車が対向車線をはみ出して前方を遮られ正面衝突した。	231	17	1～9
2016	9	20 ～ 21	被災者は、毎月1回、社で開催される支店長会議に出席した。会議終了後、全員参加の懇親会に出席した後、自宅に帰る途中、駅のホームで転倒、床に頭部を打ち、病院に救急搬送された。搬送先の病院で入院、治療を受けていたが、約1週間後に死亡した。	417	2	1～9
2016	10	12 ～ 13	昼休み休憩中に、当該事業場施設内の4階から自席のある3階へ階段を使用して移動中、4、5段目付近から、3階床まで墜落し、頭部を負傷。外傷性脳内血腫により、発生から11日後に死亡した。	413	1	100 ～ 299
2016	10	9 ～ 10	つり上げ荷重3トンの天井クレーンの月例定期自主検査において、走行試験を行うため、2次下請の被災者と1次下請の作業指揮者がクレーンガータ上に、別の2次下請の操作者が地上にいて、作業指揮者が操作者に合図をしてクレーンを走行したところ、被災者が天井梁とガータ手すりの間に挟まれた。	211	7	30～ 49
2016	10	11 ～ 12	川を下流から上流方向に向かって点検・巡視作業中、川の右岸から左岸へ渡ろうとしたところ、川の流れが急であり、つかえ棒代わりに使用していた測量用の棒が折れ、身体のバランスを崩し、下流方向に流され溺死した。	713	10	1～9
		12	被災者が事業場の資材置場より残土運搬のため8トンダンプトラックを運			10～

2016	10	～	13	転中、追い越し車線に故障のため停車中の大型貨物自動車に追突し、死亡した。	221	17	29
2016	11	～	11	10 霊園内の生け垣の剪定作業を行っていた被災者は、高さ約3.6mの擁壁上から墜落し、死亡した。	418	1	10～ 29
2016	11	～	13	12 災害発生事業場の2階事務所から1階へ向かう屋内階段（14段、高さ3m、幅1.03m）から転落し、頭部打撲により死亡した。	413	1	30～ 49
2016	11	～	22	21 被災者は、ダム管理所の夜間警備及び情報連絡業務を単独で行っていた。午後9時30分頃、施設管理者の担当者に停電通知メールが自動送信されたため、原因調査のために当該担当者が翌日午前0時10分頃にダム管理所を訪れたところ、玄関横に倒れている被災者を発見した。	418	1	100 ～ 299
2016	11	～	10	9 国が委託した河川横断測量業務（他社より再委託）において、他の労働者と2名で川の中（水深50センチ）で測深棒を持ち、測量作業を行っていたが、水際から約40m付近から急激に水深が深くなり、作業を終了して岸へ引き返す際、足元が滑って全身が水中に沈み、流された。その後、被災者は消防等の捜索により現場から約250m下流で救助されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。	713	10	1～9
2016	12	～	14	13 急傾斜地崩壊危険区域台帳を作成する測量のため、同僚は地上で測定器の操作、被災者は法面に登り、ミラーを設置する作業分担で、急傾斜地の測量作業を行っていた。その際に、コンクリート法枠に登っていた被災者が約5.9m（計算値）の高さから墜落した。	418	1	1～9
2016	12	～	12	11 被災者が寺院境内の斜面を切り開いた段状になっている墓地区画の清掃の作業を行っていたところ、枝や枯れ葉を集めるポリ袋が約2m下に落ち、これを熊手で拾い上げようとしたところ墜落した。	418	1	1～9
2015	6	～	9	9 高速道路において、工事規制帯内で橋台の隙間の測定（推定）していたところ、バック走行してきた2tトラックに轢かれたもの。被災者は、高速道路会社より委託を受け、施工管理を行うため、出張作業で工事現場に	221	7	1～9

		10	立ち入っていた。			
2015	8	16 ～ 17	他県の病院で作業を終え、自宅に向かうため社用車のワゴン車を運転中、 高速自動車道のトンネル内上り車線において、車線規制を知らせるための 標識車両に追突し、停車していたところ後続車に衝突された。	221	17	10～ 29
2015	5	14 ～ 15	被災者は、5月22日午後2時頃から水道の検針業務中に行方不明とな り、5月25日に山林で被災者の遺体が埋められた状態で発見されたも の。警察が捜査した結果、被害者は、水道の検針業務のため、一人で加害 者の自宅に赴いたところ、加害者自宅内に引き込まれて加害者に絞殺され た。	921	90	30～ 49
2015	1	19 ～ 20	一級建築士として勤務していたが、長時間労働によりうつ病を発症し、自 宅納屋で縊死しているのを発見されたもの。	921	90	1～9
2015	12	10 ～ 11	島において落石状況を調査していた被災者が夕方になっても駐車場所に戻 らず、翌日の朝、岩山の麓の斜面に倒れているのが発見されたもの。被 災者は島外に所在する事業場から2泊3日の旅程で1人で来ており、この 岩山は調査対象のひとつであった。事業場は建設コンサルタント業を営 んでいる。	711	2	50～ 99
2015	6	15 ～ 16	装鞍所内西側2号馬房につながれた競走馬の馬体検査のため、左側面から 前に出たところ、突然、馬が立ち上がり、馬の左前足が被災者の左肩にか かったため、引き倒され、転倒し頭部を打撲したもの。救急搬送され、 病院にて加療していたが、10月30日に死亡したもの。	719	6	30～ 49
2015	9	9 ～ 10	国道の陸橋の調査業務において、被災者は、高所作業車の作業床の上に乗 り、橋梁の（コンクリート）床板の（打音）検査を行い、それが終了した ため、隣接区間に高所作業車を移動させようとした。そして、被災者が、 高所作業車を操作したところ、被災者の頸部が高所作業車の作業床の手す りと橋梁の床板との間に挟まれたため、病院に搬送したが、（4日後の） 9月19日（午後1時45分）に死亡した。	146	7	1～9

2015	8	4 ～ 5	標記事業場の労働者7名（正社員1名、日雇6名）でイベント会場にワンボックス車で向かう途中、バイパスで側壁に衝突し車が横転した。横転後6人は路側帯に避難していたが、運転手が横転した車に荷物を取るために戻っていたところ、横転した車に大型トラックが衝突したものの。	231	17	1～9
2015	10	8 ～ 9	倉庫会社の岸壁停泊中の貨物船において、品質検査のため、同船に乗り込んでいた被災者が3番ハッチの船倉内で倒れているのを、荷揚げ作業員が発見したもの。なお、貨物船にはトウモロコシが積み重ねられており、発見直後に酸素濃度を測定したところ、基準値を下回っていたもの。	514	12	30～ 49
2015	12	23 ～ 24	主要地方道を先行する代行運転車に後続しながら、橋にて西側に移動中に、対向してきた車両と正面衝突し、車両が大破し死亡したもの。	231	17	1～9
2015	8	1 ～ 2	被災者は代行運転の随伴車を運転していたところ、運転を誤り、道路進行方向左側の電柱に衝突したもの。	231	17	10～ 29
2015	3	13 ～ 14	倉庫内の天井にある火災報知機の法定点検作業中、点検対象の報知器の位置が自動倉庫（積載130kgスタックークレーン適用外）上部であったことから工場のオペレーターに走行停止を確認し、走行範囲内に入っていたところ、他の工場作業員が自動倉庫を操作してしまい、走行レール上を通行していた被災者が走行してきた自動倉庫のフレームと自動倉庫のラックに挟まれたもの。	219	7	10～ 29
2015	3	11 ～ 12	社用払込のため近くのコンビニエンスストアへ徒歩で向かっていたところ、道路が渋滞していたため、被災者が信号機のない場所を横断し車の間を通り抜けた際、車両と歩道の間を走行していた帰宅中競輪選手の自転車と出会い頭に衝突し、左側頭部を打撲・骨折。災害発生から10日後のH27.3.27、13:50死亡確認。	362	17	10～ 29
		16	2階建ての工場にて、派遣社員である被災者は、2階でプラスチック容器の出荷準備作業を行っていた。同僚に、エレベーター（搬器に扉の無い構造）でプラスチック容器を1階まで運ぶよう指示した。同僚は搬器に容器			

2015	10	～ 17	を積載し、自ら下降の押しボタンを押して搬器に乗り込み降下したところ、被災者が搬器を覗き込み、2階床面と搬器の上枠に頭部を挟まれたもの。工場の業種は、その他の事業。	214	7	1～9
2015	8	～ 10	9 浄化センター沈砂池機械室棟3階において、天井に設置された火災報知器の点検作業中、ダクトを通すために設けられていた床面の開口部から地下2階まで墜落したもの。	414	1	1～9
2015	12	～ 9	8 県道付近のボックスカルバートにて、下請事業場の労働者1名とともに、当該ボックスカルバートの点検業務に従事していた被災者が、ボックスカルバートに掛けたはしごの地面から高さ5.5メートルの位置に乗って、当該ボックスカルバートのクラックの点検を行っていたところ、心筋虚血により意識障害を起こし、当該はしごから地面に墜落し、死亡したもの。	371	1	10～ 29
2015	9	～ 24	23 運転代行業に所属する被災者が営業車（社用車）を運転しながら、先行する代行運転車に後続して国道を南下、交差点にて右折する際に、北方向に直進する対向車（トラック）と衝突し、車両が大破、死亡したもの。	231	17	1～9
2015	3	～ 1	0 港湾事務所が所有する船舶に乗り、発注者の検査補助業務を行い、業務終了後、船から岸壁に上陸しようとして3～4m下の海面に転落した。被災者の頭部が船舶のフェンダー（防舷材）と岸壁に挟まれ、被災者は船に引き上げられたが、頭部の損傷が激しく、脳からも出血し、翌日死亡した。	239	1	30～ 49
2015	1	～ 2	被災者は、結婚式場で結婚式の撮影を終了した後、乗用車で次の町に向かった。高速自動車道下り線を運転し、目的のインターチェンジで高速道路を降りようとしたところ、高速道路本線と出口分岐路の間にある分岐点のクッションドラム（緩衝材）に乗用車が突っ込み、その反動で乗用車が飛び、約18メートル離れた分岐路進行方向右側のガードレール及び街灯に運転席から激突した。	231	17	10～ 29
2015	1	～ 23	平成27年1月14日から15日の日程で、東日本大震災復旧関係の打ち合わせのため、出張していたホテルにおいて、チェックアウト時間になっ	921	90	1～9

		24	でも手続きに来なかったため、ホテルの従業員が入室したところ、ベッドに寝たままの状態でした。			
2015	3	5 ～ 6	被災労働者は昭和59年4月1日に製パン会社へ入社後、A事業部へ配置換えになったのち各店店長を経て、店舗管理部門の各営業部等の勤務を行った。平成26年8月にB事務所所長に着任し営業圏内の運営管理部下の人事等の業務に従事した。恒常的な長時間労働が認められ、平成27年3月6日に「うつ病」と診断され、同月9日に事務所内で自殺を図り、同月25日に死亡した。	921	90	1～9
2015	9	14 ～ 15	被災者他3名は円筒状の鉄柱（φ約50cm、長さ約10m、重量約1.6t）の溶接部に対する検査を行っていた。当該鉄柱は横に倒された状態であったため、円周に沿って溶接された箇所のうち、下部溶接部の検査はそのまま出来ないことから、当該鉄柱を回転させる作業を行う必要があった。被災者が当該鉄柱の外周上部に手を掛けて回転させたところ、回転した鉄柱と背後の建屋壁に頭部をはさまれ、死亡したものの。	521	4	100 ～ 299
2015	2	0 ～ 1	被災者は業務中に第一種原動機付自転車に乗車して移動中、港の県道で信号待ちをしていたところ、第三者が前方から怒声等を上げながら被災者の首などを包丁で刺し、心肺停止の状態での病院に搬送されたが、まもなく死亡が確定したものである。平成27年9月14日に遺族から遺族補償一時金支給請求書・葬祭料請求書の提出があり、平成28年1月18日に認定されたもの。	921	90	1～9
2015	10	11 ～ 12	事業場敷地内にある足場に屋根を取り付けるため、隣接する建物の屋根上において作業中、高さ約4メートルの同屋根上から地上に墜落した。	415	1	10～ 29
2015	9	10 ～ 11	被災者は、平成27年9月19日午前10時20分、事業場の労働者により階段踊場で倒れているところを発見され、病院へ搬送され、同日午後3時42分、脳挫傷により死亡した。災害発生時の目撃者はおらず、災害発生時の状況及び発生時刻は不明。	413	1	50～ 99
			被災者は、市発注の測量業務委託において、同僚と水源林の境界を測量す			

2015	1	11 ～ 12	る準備作業として、刈り払い機を用いて、雑草の刈り払いを擁壁上で行っていたところ、4. 8メートル下の道路上に墜落したもの。保護帽の着用や墜落防止措置はなされていなかった。	418	1	1～9
2015	9	14 ～ 15	米の集荷で農家へ向かうため、フォークリフトで公道（歩道）を走行していたところ、脱輪してフォークリフトと共に法面のある用水路側へ転落し、胸部及び腹部が住宅の塀とフォークリフトの間に挟まれたもの。	222	17	10～ 29
2015	2	16 ～ 17	勾配約40度の傾斜地の草刈りを終え、集合場所へ戻る際、何らかの原因により、傾斜地から転落したもの。被災者が最後に目撃されたのは、被災者が転落していた箇所から高さ約5メートル、勾配42. 5度の傾斜地を降りているところであった。ロリップの設置等の墜落防止措置は講じられていなかった。	711	1	1～9
2015	1	10 ～ 11	民有林において、被災者は砂防ダムの建設予定地となる箇所の測量業務に従事していた。被災者は立木の調査を行うため、斜度約45度の斜面を歩行中、足を滑らせ約7メートル下の沢まで滑落し死亡したもの。	711	1	1～9
2015	9	11 ～ 12	9月28日午前11時15分頃、パルプ工場の古紙ヤード内に2段に積み上げられていた古紙ベールの集まりを、専用フォークリフトを使用して1個ずつ工場内に移動させていたところ、2段積み状態の古紙ベールが荷崩れし、上段の古紙ベールが被災者の頭部を圧迫したことにより死亡したと推定される。古紙ベール1個の形状は、直方体（横100cm×縦180cm、高さ109cm、重さ1, 140kg）	611	5	10～ 29
2015	9	15 ～ 16	高速道路建設工事に伴う用地調査のため、被災者と部下の2名は、作業場所である山中に入り、各地権者の領域を目視できるようにするためのテープ貼りの作業等を行った。同作業が終了後、山頂上に置いていたリュックサックを回収するため、部下、被災者の順で山の斜面を登っていたが、部下が振り向いたところ被災者の姿がなく、山中を探したところ、中腹で仰向けで倒れていた被災者を発見した。被災者は、頸椎損傷により死亡した。	711	1	1～9

2015	4	0 ～ 1	発症日前日の午後10時から発症日の午前3時30分まで建設現場事務所において測量業務に従事し、業務終了後に事業場に帰社して仮眠室で就寝中、急性うっ血性心不全を発症し死亡した。なお、被災者は発症前の2か月平均で85時間の時間外労働を行っていた。	921	90	100 ～ 299
2015	6	10 ～ 11	被災者（外国人技能実習生）は、屋外にて、最大荷重2トンのフォークリフトを用いて、ゴミの片づけ作業を行っていたところ、フォークリフトのタイヤが地面（土）の窪みに落ちて横転した。運転していた被災者は、横転したフォークリフトから投げ出され、フォークリフトと地面の間に挟まれて死亡した。	222	2	10～ 29
2015	4	0 ～ 1	通勤途上にビルから飛び降り、直後に救急搬送されたものの、同日の午後1時に死亡した。	921	90	300 ～
2015	12	14 ～ 15	屋内の荷捌場内で、年末大掃除の一環として作業場内の一角を天井からシートで囲う作業をしようと、本来は魚を入れるタンク（長さ2m、幅1m、高さ80cm、重量77kg）に被災者が乗り込み、別の労働者が運転するフォークリフトで高さ約4メートルまで上昇させてブルーシートを天井のレールに緊結する作業をしていたところ、バランスを崩してタンクごとフォークから墜落し、頭を強く打ち死亡したもの。	222	1	10～ 29
2015	3	15 ～ 16	被災者が、軽トラックを配達先住居の駐車場に停車させて降車したところ、無人の軽トラックが後退し、住居前道路脇の側溝に軽トラックが落ち、軽トラックと側溝の土手との間に被災者が挟まれて死亡したもの。配達先住居の駐車場の傾斜角は8度、道路の傾斜角は3度であったもの。	221	6	1～9
2015	1	11 ～ 12	給油所の高さ3.93メートルの屋根の雪おろしをするために梯子を登っていたところ、梯子が滑って倒れたことにより、被災者が梯子から転落して頭部を打撲し病院に搬送された。1月25日（日）午前8時59分に死亡した。	371	1	100 ～ 299
		11	被災者ら3名は、排水機場内の植樹・生垣等の剪定作業を行うこととなった。しばらくして同僚が被災者を呼びに行ったところ、導水路に浮かんで			

2014	1	12	～	いる被災者を発見した。目撃者はいないが、周囲の状況から、被災者は高さ4. 23 mのコンクリート壁のすぐ側の生垣の剪定作業を行っていて、誤って墜落したと思われる。尚、保護帽は被っていなかった。	418	1	1～9
2014	1	15	～	事業場内にて、木に立てかけたドラグショベルのバケット上でチェーンソーを使って枝の伐採作業中、バケット上から約5 m墜落した。	416	1	10～ 29
2014	1	19	～	被災者は、船の荷役の立ち会い業務終了後、事業場へ作業終了の連絡を行った。その後、深夜になっても被災者が帰宅せず、連絡も取れなくなった。後日、海上保安部により遺体が発見され、司法解剖の結果は「溺死の疑い」であった。	713	10	100 ～ 299
2014	2	0	～	転勤、過重労働等の精神的負荷のため、自死に至った。	921	90	300 ～
2014	2	10	～	公園内にて、桜の木に上り、せん定作業を行っていた労働者が、約9. 5 m下の地面に墜落した。	712	1	50～ 99
2014	3	8	～	被災者は、エンジンを掛けたまま乗用車から降り、河川の状況を確認していたところ乗用車が動き出し、背後から轢かれ乗用車の下敷きになった。	231	7	1～9
2014	3	14	～	水質検査のため、川岸からロープ付きステンレスバケツを川に投げ込み水を採取していたところ、川に転落しおぼれた。	713	10	1～9
2014	3	17	～	市道の信号のないT字路にて、客先から事業場の事務所に戻るため代行伴走用自動車を同僚が運転し、被災者が助手席に同乗し、交差点を直進していたところ、対向車線を走行していた軽乗用車が、T字路を右折しようとして激突した。	231	17	30～ 49
		0		自宅にて、くも膜下出血を発症し、死亡した。直近2ヶ月で概ね80時間			300

2014	3	1	～	以上の時間外労働が認められ、ほぼ毎日のように自宅での作業も行われていた。	921	90	～	499		
2014	3	7	～	8	構造物を台船から引き出す作業中、構造物が倒れ、構造物上にいた被災者が溺死した。	418	10	30～	49	
2014	4	23	～	24	乗用車で走行中、電柱に衝突した。	231	17	10～	29	
2014	4	17	～	18	会議出席後、執務室入り口で被災者が倒れているのを同僚に発見された。尚、発症前2か月平均の時間外労働時間数は92時間16分であった。	921	90	10～	29	
2014	4	10	～	11	自動車を走行中、インターチェンジの出入口近くにて、清掃作業車に後方から衝突した。	231	17	1～	9	
2014	4	16	～	17	高速道路を走行中、後部座席に乗車していた際、先方を走行中のトラックに追突した。	231	17	100	～	299
2014	5	8	～	9	バスに船を係留するためのロープをバス側から手繰り寄せるため、船からバスへ向け、先端にゴム重りが付いたロープが投げられた際、被災者は、バスの縁付近に投げられ落下したゴム重りを拾おうとしたところ、足がもつれ、海へと落下。溺水により死亡した。	713	10	10～	29	
2014	5	1	～	2	運転代行中、後方から来た乗用車に追突され、運転中の被災者が死亡し、同乗していた同僚は重傷した。	231	17	10～	29	
2014	5	9	～		沖合の海底土質調査用に単管とアルミ製足場板とでボーリング掘進の檣を組立て、ボーリング準備のため、檣のステージに被災者ら3名が上がっていたところ、檣が傾き、ステージに上がっていた被災者らもろとも海中に	419	5	1～	9	

		10	倒壊。被災者ら3名は海中に投げ出され、2名は間もなく浮上し、1名は死亡した。			
2014	6	9 ～ 10	作業所へ向かった際、道路を自家用原付バイクで直進中、信号のない交差点にて、右折してきた軽乗用車と衝突。転倒し、死亡した。	231	17	50～ 99
2014	7	13 ～ 14	高速道路のトンネル内の照明施設点検中、走行車線の規制を行っていた際、汚泥を運搬中のトラックが、最後尾にいた標識車に追突し、勢いで前方で矢印板設置を行っていた被災者に激突した。	221	17	10～ 29
2014	8	16 ～ 17	バイクで走行中、路上でUターンをしようとしたトラックに巻き込まれ、死亡した。	221	17	1～9
2014	8	16 ～ 17	トラックに積載していた遺留品等の仕分けの作業中、荷卸し作業を行っていた際、意識がなくなり、救急車で病院に搬送されたが、熱中症により死亡した。	715	11	1～9
2014	8	3 ～ 4	国道をダンプトラックで走行中、交差点の中央分離帯に正面から乗り上げ、水銀灯のポールに激突し、死亡した。	221	17	1～9
2014	8	1 ～ 2	コンテナ埠頭バースのエプロンにて、コンテナ船を係留させる綱に補助ロープを緊結し、トラックの前部けん引フックに取り付け、後進しけん引していた際、別の補助ロープをけん引フックに付け替えようとしたところ、トラックが前進徐行し、車両誘導する被災者らに激突した。	221	6	100 ～ 299
2014	8	7 ～ 8	宿泊先のビジネスホテル室内にて、倒れている被災者が発見された。	921	90	30～ 49
2014	8	12 ～ 13	事務所へ戻る途中、村道の道路脇から約15m下の谷に転落し、移動式クレーンの下敷きとなり、死亡した。	212	17	1～9

2014	9	6 ～ 7	屋外受電設備の点検中、屋内電気室にて、指示測定を実施した際、設備中扉内でうつぶせに倒れている被災者が発見された。被災者付近の避雷器等に焦げた痕が認められた。	352	13	30～ 49
2014	9	1 ～ 2	自動車道にて、被災者が運転する車が停車した後、被災者が走行車線と追い越し車線の間で立っていたところ、乗用車にはねられ、死亡した。	231	17	10～ 29
2014	9	13 ～ 14	栗の木を被災者がチェーンソーで伐倒した際、かかり木を元玉切りで外そうとしたところ、倒れたかかり木の枝が被災者の頭部に激突した。	712	6	1～9
2014	10	9 ～ 10	車を運転し、帰宅する際、高速道路のガードレールに激突し、全身を強く打ち、死亡した。尚、台風が接近中であった、	231	17	100 ～ 299
2014	10	10 ～ 11	被災者は、本殿建て替え中、仮の本殿として使用していた仮本堂の廊下に入ったところ、仮本堂の裏の斜面が崩壊し、崩れた土砂により仮本堂の建屋が押しつぶされ、建物等の下敷きになり、死亡した。	711	5	10～ 29
2014	11	23 ～ 24	信号機のある交差点にて、軽自動車に追突され、その弾みで押し出され、対向車線を走行していたバスに衝突した。	231	17	1～9
2014	12	16 ～ 17	消防設備の点検の際、マシンハッチの蓋を開ける作業中、蓋の重みを支えきれず、蓋と共に地下へ転落し、死亡した。	414	1	30～ 49
2014	12	8 ～ 9	ピックアップトラックをコンクリート製の坂道にエンジンをかけた状態で車体前方を坂道の下に向けて停車し、降車し車から離れた際、トラックがゆっくりと坂を下っているのを確認し、走行する車体の前方に立ち入り、両手で押さえ停車させようとしたところ、車体の下に巻き込まれ、死亡した。	221	7	100 ～ 299
		14	国旗掲揚台上に脚立を設置し、国旗掲揚台の掲揚ポールに掛かっていた松			

2014	12	～ 15	の木の枝を脚立天板に跨り、高枝剪定鋏に付いている鋸で枝を切っていたところ、バランスを崩し、掲揚台の下のコンクリート上に墜落した。尚、被災者は、保護帽を被っておらず、安全帯も着用していなかった。	418	1	50～ 99
2014	12	～ 8	7 機材の納品業務のため、軽ワゴンに同乗中、路面凍結により車がスリップし、対向車線にはみ出し、対向から直進してきたトラックと衝突した。	231	17	10～ 29
2013	7	～ 9	8 高架橋改良工事に伴う測量作業のため、車線規制を行おうとして路肩に待機していた作業員に、居眠り運転のトラックが突っ込み、この作業員を撥ねた。作業員は、車線規制を表示させる矢印板を、追い越し車線上に配置するため、路肩に待機していた。	221	17	1～9
2013	11	～ 10	9 道路維持補修（管理）委託業務において、下り（片側2車線）の路側帯沿いで除草作業を行っていたところ、車線を逸脱し、路側帯に入ってきた軽トラックに激突された。	231	17	30～ 49
2013	4	～ 2	1 国道にて、赤信号で停止していた軽自動車に、後方から走ってきた大型トラックが追突。追突の衝撃で軽自動車は回転し、前方に停車していた大型 2 トラックに追突。軽自動車の運転手が死亡した。	221	17	10～ 29
2013	6	～ 11	10 出勤した被災者が就労場所からいなくなったので、他の者が付近を捜した 11 ところ、港の堤防と消波ブロックの間に倒れている被災者を発見した。死 11 因は溺死であった。	713	10	50～ 99
2013	3	～ 12	11 海水浴場へ3名でダイビングスポットの下見に出かけた。3名は、ボンベ 11 を担いで海に入り泳いでいたところ、被災者とはぐれたため、海上保安庁 12 へ一報を入れ、捜索をおこなったところ、沖合50mのところ、既に死 12 亡していた被災者を発見した。	713	10	1～9
2013	12	～ 14	13 料金所入口にて、被災者はブースで徴収業務に従事していた際、レーンを 13 横切って隣のブースに書類を届けて戻る途上、進入してきた乗用車にはね 14 られ死亡した。	231	17	50～ 99
			被災者は池の水位の点検作業中、水深2.8mの位置へ水位計を再設置し			

2013	2	10 ～ 11	水面に浮上したところ、設置位置を示すロープが背負っていたボンベに絡まっていることに気がつき、絡まったロープを取り外すため、再び水中に潜り取り外そうとしたところ、誤ってボンベを落とした。ボンベと被災者が着用していたドライスーツは高圧ホースで接続されていたため、そのまま水中に引込まれ水死したと推測される。	713	10	50～ 99
2013	7	17 ～ 18	体育館新築工事の設計監理を請負う建築事務所の建築士（被災者）が、竣工後の建屋の西側外壁と舞台の背板との間、狭隘な幅67cmの場所に入って施工検査を行っていたところ、気分の不調を訴えて、検査場所から最も近い屋上となる高さ8m55cm、幅1m20cmの水平の庇の上に仰向けになって休んでいた。約30分間休息し立ち上がろうとしたところ、体のバランスを崩し地上に墜落した。	418	1	1～9
2013	8	15 ～ 16	被災者は、豪雨のため崩れた川の縦断面、横断面の測量を行っていた。川に入り川底の横断面の測量を行っていた際、おぼれ死亡した。	713	10	30～ 49
2013	7	11 ～ 12	走行中に故障した8tトラック（ウイング車）の修理のため、作業員2名で現場に向かい、被災者を現場に残し、1名が必要な工具を営業所に取りに行き、再び現場に戻ってきたところ、トラック左後輪に被災者が巻き込まれていた。	221	6	1～9
2013	7	14 ～ 15	渉外業務のため客の家に向かう途中、被災者の運転するバイクが反対車線にはみ出し、スクールバス（ワゴン車くらいの大きさ）と正面衝突し、バイクを運転していた被災者が死亡した。尚、事故が発生した場所は下り坂で、緩やかに左にカーブしていた。また、事故発生時は晴天であり、路面はぬれていなかった。	231	17	10～ 29
2013	4	8 ～ 9	県道を被災者が普通乗用自動車で行き中、渋滞の最後尾をブレーキを踏みながら徐行していたところ、後方から走行してきた普通乗用自動車に追突された。	231	17	100 ～ 299
		3	パチンコの新台設置作業を行った後、作業員7名で乗用車に乗り込み、帰社途中の国道において、中央分離帯の壁に衝突した後、外側のガードレール			

2013	5	～ 4	ルに衝突し、この衝撃で後部座席に乗車していた3名が車外に放り出され死亡した。	231	17	1～9
2013	5	3 ～ 4	パチンコの新台設置作業を行った後、作業員7名で乗用車に乗り込み、帰社途中の国道において、中央分離帯の壁に衝突した後、外側のガードレールに衝突し、この衝撃で後部座席に乗車していた3名が車外に放り出され死亡した。	231	17	1～9
2013	5	3 ～ 4	パチンコの新台設置作業を行った後、作業員7名で乗用車に乗り込み、帰社途中の国道において、中央分離帯の壁に衝突した後、外側のガードレールに衝突し、この衝撃で後部座席に乗車していた3名が車外に放り出され死亡した。	231	17	1～9
2013	11	13 ～ 14	工場において、トレーラーの下にもぐり、エアーベローズの安全リリース弁に繋ぐホースジョイントを取付け作業中、車体を支えるエアーが抜けて車体さがり、頭部を挟まれ死亡した。	221	7	30～ 49
2013	8	12 ～ 13	被災者は、社宅向けエレベータ据付工事にて安全パトロールを行っていた。その際、4階にいた被災者は、5階に設置されている三角足場を目視確認しようとしたが、5階へは階段が仕上げ中のため行くことができなかったため、4階から安全柵を開けてEVピット内を覗いた際、ピット内最下部まで墜落（約10m）したと推測される。	414	1	100 ～ 299
2013	11	12 ～ 13	タクシーにて出張先へ行き、目的地のビル敷地内ロータリーで降車した後、車体後部のトランクから荷物を下ろし、タクシー後方に立っていたところ、タクシーが突然バックして来たため後方へ押し出され、そのまま2～3m先にあるビル壁面のガラスとタクシーとの間に挟まれた。	231	7	100 ～ 299
2013	10	0 ～ 1	被災者は、マンションの6階外廊下において、脚立を使用して高所にある蛍光灯を取替作業中、脚立が外向きに倒れ、手摺を越えて1階敷地内の廊下へ墜落したものと推測される。	418	1	300 ～
2013	11	7 ～	被災者は、材料を取りに中2階へ行くため、はしごをかけて昇ろうとしていた。その直後、大きな物音がしたので同僚が駆けつけると、被災者は	371	1	10～

		8	はしごとともに床に倒れていた。尚、現認した者はおらず、被災者がはしごのどの位置まで登っていたかは不明である。			29
2013	4	15 ～ 16	出張中に宿泊先ホテルで倒れている被災者が発見され、救急搬送されたが、くも膜下出血のため死亡した。	921	90	300 ～ 499
2013	11	16 ～ 17	電気室内の高圧受電設備（キュービクル）移設による高圧ケーブル交換工事に伴い、ケーブル耐圧試験を実施した。試験が終了し、被災者が後片付けをしていたところ、充電中の高圧母線に左手甲が接触し感電した。	352	13	30～ 49
2013	5	10 ～ 11	山地測量現場において、山林内の斜面で測量用具であるプリズムポールを保持する作業を行っていたところ、足下の地山（勾配50～54度）が崩れ、垂直高さ約27メートルの箇所から転落した。	711	1	1～9
2013	5	14 ～ 15	被災者は同僚と2名で、山中に建てられた送電線の定期的の巡視作業を行い、終了後、各自別々に自動車を運転し事務所へ戻るため、市道（アスファルト舗装）を走行中、幅員4mで緩い右カーブの箇所で進路方向右側の路肩からダム湖に転落し、溺死した。	231	17	1～9
2013	3	1 ～ 2	市道交差点で、代行随伴用自動車（以下、「随伴車」という。）代りの助手席に被災者が同乗し通過していたところ、当該交差点に右方向から進入してきた軽乗用車に衝突され被災した。事故当時、信号は、被災者が同乗する随伴車の進行方向が黄色点滅、軽乗用車側が赤色点滅であった。	231	17	1～9
2013	9	15 ～ 16	被災者は、自家用車（軽乗用車）を運転して各農家の農機具等の修理などで回っていたところ、農道交差点において、相手車線に一時停止線が引かれていたが、相手の軽乗用車が当該交差点に進入してきたため、出会い頭に衝突し、頭を強く打ち死亡した。	231	17	10～ 29
2013	9	22 ～ 23	被災者は、店舗から取り外した重量約200キログラムの厨房機器を2トントラックのパワーゲートに乗せ、荷台に積み込もうとしたところ、厨房機器が傾き、支えようとしたが、パワーゲート上から車体左側に厨房機器と共に落下、被災者は厨房機器の下敷きとなった。	221	7	10～ 29

2013	9	10 ～ 11	スタッカークレーン（定格荷重1トン）の年次点検作業を行っていた点検業者の作業員が、クレーン下部にある昇降モーターのブレーキを点検した後カバーを取り付けたところ、上部約2・7メートルの高さにあった昇降台（約600キログラム）が突然下降し、昇降台のフレーム部と床面に背中を挟まれ、まもなく死亡が確認された。	211	4	10～ 29
2013	1	0 ～ 1	顧客との会議に出席するため海外に出張していたが、発生したテロリスト集団による人質事件に巻き込まれて3名が死亡した。	921	99	1001 ～ 9999
2013	1	0 ～ 1	顧客との会議に出席するため海外に出張していたが、発生したテロリスト集団による人質事件に巻き込まれて3名が死亡した。	921	99	1001 ～ 9999
2013	1	0 ～ 1	顧客との会議に出席するため海外に出張していたが、発生したテロリスト集団による人質事件に巻き込まれて3名が死亡した。	921	99	1001 ～ 9999
2013	10	0 ～ 1	台風通過後の国定公園内の登山道の安全状況を確認するため、被災者は、登山道に入山したまま行方不明となった。警察が捜索を行ったところ、滝つぼ内に浮かんでいる被災者が発見された。	719	1	1～9
2013	2	8 ～ 9	出張先に自転車で移動中、交差点を横断しようとしたところ、右方より進行してきた乗用車に追突され、頭部を強打し死亡した。	231	17	1001 ～ 9999
2013	10	19 ～ 20	海外の採鉱サイトを視察した後、現地人運転の自動車にて走行中、農業用トラクターにけん引されたトレーラーに衝突した。	231	17	10～ 29
2013	1	16 ～ 17	高所作業車（自走式バケットクローラ）を使用して、高さ約10mの箇所で作業員2名（うち1名はオペレーター）が外壁の塗装補修を行っていたところ、高所作業車が転倒した。その際、高所作業車の作業床であるバケットが踏切の鉄柱に激突した。塗装作業を行っていた1名は自力で脱出したが、もう1名のオペレーターはバケットの手すりと鉄柱に挟まれ、救	146	2	100 ～ 299

			出後搬送先の病院で死亡が確認された。			
2013	10	14 ～ 15	出張中、移動のために乗車していたタクシーがガードレールに衝突し、横転した。タクシーに乗車していた被災者、及び運転手が死亡した。	231	17	300 ～ 499
2013	12	14 ～ 15	浄水場の設備調査のため、汚泥攪拌槽（3 m×5 m×H 2. 6 m）の上で2名で写真を撮影しており、写真を撮り終わり槽の上を歩き、被災者が木製の蓋に乗ったところ、蓋がたわみ汚泥の溜まった槽内に落ちて死亡した。尚、槽の上部には鋼製の蓋が3つ設置されていたが、うち1つはサンプリング調査のため木製の蓋が設置されていた。	391	1	1～9
2013	10	9 ～ 10	台風接近に伴い、準備していた構内冠水時の対応用の排水ポンプと排水ホースを片付ける作業中、元請労働者が運転するつり上げ荷重7 tのホイールクレーンを前進移動させたところ、その傍らで排水ホースの巻き取り作業をしていた被災者（下請労働者）が轢かれた。	212	6	30～ 49
2013	5	7 ～ 8	被災者は、港の岸壁等の調査のため、災害発生場所の旅館に宿泊しながら調査業務を行っていた。災害発生日の朝、同僚が被災者を呼びにいったところ、窓を開けた状態で着替えをしているところであった。その後、しばらくたっても被災者が部屋から出てこないことを不審に思い、部屋を訪れると鍵が掛っていた。旅館の人にスペアキーで部屋を開けてもらったところ、室内には誰も居らず、窓が開いていて、窓下の地上に倒れている被災者を発見した。	418	1	1～9
2013	8	11 ～ 12	工事区域内において、立木調査を行っていた被災者は、倒木付近にあったスズメバチの巣に気付かず刺激を与えてしまい、全身をスズメバチに刺され、病院に搬送されたが、アレルギー症状により死亡した。	719	90	10～ 29
2013	6	3 ～ 4	被災者は建築確認、検査業務を行う事業場の所長である。早朝、自宅で心停止の状態で見られ「虚血性心疾患」で死亡した。尚、発症前1ヶ月間の時間外労働時間数は、約109時間であった。	921	90	1～9
		8	ダム湖を遊覧する水陸両用車の乗入れ場所であるスロープ付近に溜まった			

2013	10	9	流木等を除去するため、被災者は一人で小型モーターボートに乗り、周囲を巡回させながら流木等を岸部に寄せる作業を行っていたところ、湖に転落した。尚、救命胴衣は着用されていなかった。	239	10	10～29
2013	8	11～12	被災者と事業主の2名は、地質調査の目的で使用したボーリングマシン（高さ約11メートル）のやぐらを解体するため、2名でやぐらを構成する単管に乗り、やぐら上部の解体を開始した。事業主が先に地上に降りて、やぐら上部で被災者が一人で作業を行っていたところ、被災者は高さ約9メートルの位置から地面に墜落した。	419	1	1～9
2013	10	12～13	国道を、社有車の軽トラックで自宅へ向かう途中、センターラインをはみ出し、対向してきたトラックと正面衝突した。	221	17	30～49
2013	11	14～15	被災者は、同僚2名とともに川の地形の横断測量を行っていた。被災者は、ドライスーツとライフジャケットを着用し兩岸に渡したロープに安全帯を掛け、ロープにつかまりながら右岸から左岸に歩いて渡っていた。被災者は、腰に緊急時用ロープをつけ、そのロープを左岸にいる同僚が持っていたが、川を10m程渡ったところで被災者の指示で、同僚はロープから手を離れた。その後、川の中程で被災者は、足を滑らせて転落し溺れた。	713	10	1～9
2013	6	14～15	公園内の除草業務を担当していた被災者が、業務終了時間を過ぎても帰宅しないため、役場職員等であたりを捜索したところ、ダム公園敷地内で、横転した乗用芝刈り機械（4輪駆動タイヤ式、機体重量不明）の下敷きとなった状態で発見された（胸を押しつぶされた状態）。	169	2	1～9
2013	11	10～11	被災者と同僚の2名で、ビル2階の屋上に設置している空調室外機にビニールシートを掛ける作業中、4.8メートル下の1階屋上部分に墜落した。被災者は、幅10センチメートルの金属製の架台に乗って作業をしていた。また、ヘルメット、安全帯は着用していなかった。	418	1	1～9
2013	7	10	組合長の家での打ち合わせ終了後、乗用車を運転していたところ、運転操作を誤り橋の欄干に激突した。尚、シートベルトの使用状況については不	231	17	1～9

		11	明。			
2012	4	2 ～ 3	出張先のホテルにおいて、朝になり部下が被災者を起こしに来たところ、死亡している被災者を発見したもの。被災者は就寝中に突然心肺停止状態になった。	921	90	30～ 49
2012	2	0 ～ 1	被災者は、軽自動車を運転し運転代行している車両を追走していたところ、緩いカーブに差しかけた際に中央線を越えて対向車線にはみ出し、対向してきた大型トラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2012	4	13 ～ 14	事務所において、事務職員が施設利用者に暴力行為を受け死亡した。	999	99	1～9
2012	9	11 ～ 12	代表者と被災者の2名で、火災感知器の交換作業を行うため、コンクリート床面に高さ3.4mの脚立を設置し、被災者が脚立に上り、コンクリート床面から5.9mの位置の火災感知器の交換作業が可能かを確認したところ、脚立での作業は困難であったため、代表者が被災者に脚立から降りるよう指示。その直後、被災者は脚立から下りる際に墜落した。	371	1	1～9
2012	2	9 ～ 10	翌日開催される会議に同僚2名と出席するため、前日入りし宿泊。翌朝、同僚に体調不良との連絡があり、体温を測ったところ38度ほどあった。その後、体調が回復しないため会議を欠席し、チェックアウトまで休んで帰宅することにした。チェックアウト時間になってもチェックアウトしなかったため、ホテル従業員が確認したところ、ベッドで倒れているところを発見され、病院に救急搬送後、死亡が確認された。	921	90	10～ 29
2012	10	13 ～ 14	被災者は檜の枝打ちを行っていたところ、誤って枝打ちに使用していた携帯用丸のこ盤で左腕を切り、出血性ショックで死亡した。	169	8	1～9
2012	6	10 ～ 11	被災者は研修参加のため、軽乗用車を運転し事業場から研修会会場へ向かって県道を北進していたところ、カーブを曲がりきれずに反対車線に入り、南進してきたトラックと衝突した。	231	17	30～ 49

2012	7	7 ～ 8	被災者は、タコいけす（幅1.96m奥行き1.03m高さ1.76m、木製、100kg程度）を岸壁から海面へジブクレーンを用いて降ろす作業をしていた。タコいけすを海面へ着床させた後、バランスを崩し、岸壁から推定約1.8m下の当該タコいけすの上面に墜落して頭部を強打し、死亡した。	418	1	1～9
2012	12	20 ～ 21	採用説明会に出席したあと、事業場へ帰るために高速道路を神戸方面に走行中、スリップにより中央分離帯に衝突し、はずみで反対の走行車線側の動物除け金網を突き破り、のり面で横転。運転者は脳挫傷により死亡した。	231	17	30～ 49
2012	3	23 ～ 24	次の客先へ向かうため、高速道路出口を出たところ、本線からの直進車が車両側部に激突し、助手席に乗っていた被災者が死亡した。	231	17	10～ 29
2012	3	12 ～ 13	社用車で高速道路を運転中、下り線で中央分離帯の標識に激突し、追い越し車線に横転した。被災者は、救急搬送されたが、頭部を強打したことによる出血多量で死亡した。	231	17	50～ 99
2012	7	14 ～ 15	建物の解体及び新築工事に係る事前調査を行っていた際、当該建物屋上で、建物上空を通っている特別高圧の架空電線（屋上との距離約7m）と屋上の距離を測定しようとアルミ製標尺を架空電線に近づけたところ、感電し死亡した。	351	13	10～ 29
2012	10	9 ～ 10	被災者は堤防先端にある灯台の塗り替え工事にかかる足場の見積りのため現場確認を行い、戻るために堤防上を移動中、高波に浚われて海中に転落、数日後に遺体で発見された。	713	10	1～9
2012	10	14 ～ 15	川の土砂の堆積具合を、被災者を含め3名で右岸と左岸に分かれて測量中、別の場所まで船外機付きゴムボートに乗り移動していたところ、左岸側の岸から出ていた長さ約10mほどの倒木（直径約40cm）の枝に、当該ゴムボートが当たり、その反動で被災者のみが川へ投げ出され下流へ流された。被災者は、数日後に約4Km下流で遺体で発見され、紐を引くと膨らむタイプのライフジャケットを着用していた。	239	10	1～9
			予備電源室において、電気設備の点検作業を行っていた被災者は、引込盤			

2012	1	11 ～ 12	内底面に落ちていたネズミの死骸を掃除機を使用して吸い込もうとしたところ、右手が導帯（高圧活線）に触れてしまい感電して死亡した。なお、被災者が触れた引込盤の下部の高圧活線は、絶縁被覆がなされずむき出しの状態で、交流6,600ボルトの電圧がかかっていた。	352	13	50～ 99
2012	3	12 ～ 13	被災者は軽ワゴン車を運転していたところ、反対車線を走行していたトラックが車線をはみ出して来たため正面衝突となり、外傷性ショック（脳挫傷、肺挫傷）により死亡した。	221	17	1～9
2012	3	11 ～ 12	被災者はエンジンがついていないゴムボートに単独で乗って、流量観測業務を行っていたところ、誤って川に墜落し、溺死した。	713	10	1～9
2012	9	22 ～ 23	被災者2名が乗った代行運転の軽自動車は、客を送迎した後事務所へ戻る途中、片側2車線の国道と片側3車線の県道が交差する信号機がある交差点において、国道を走行していた乗用車と、県道を走行していた被災者が運転する軽自動車が出合い頭に衝突した。助手席にいた被災者は出血性ショックのため死亡し、運転していた被災者も、大動脈損傷で死亡した。	231	17	10～ 29
2012	9	22 ～ 23	被災者2名が乗った代行運転の軽自動車は、客を送迎した後事務所へ戻る途中、片側2車線の国道と片側2車線の県道が交差する信号機がある交差点において、国道を走行していた乗用車と、県道を走行していた被災者が運転する軽自動車が出合い頭に衝突した。助手席にいた被災者は出血性ショックのため死亡し、運転していた被災者も、大動脈損傷で死亡した。	231	17	10～ 29
2012	11	0 ～ 1	運転代行業務において、随伴用自動車を月極駐車場に駐車した私用車と入れ替えようとした際、私用車を一旦前進させて停めて降りたところ、私用車が無人状態のまま逸走（後退）し轢かれた。なお、エンジンがかかったままでギアは後進に入っていた。	231	17	1～9
2012	3	0 ～ 1	自宅の屋上より飛び降り自殺した。	921	90	1～9

2012	7	18 ～ 19	被災者は海外出張の際、現地ホテル滞在中に体調不良を訴え現地病院にて診察を受けたところ、大動脈瘤破裂と診断され治療を受けたが、解離性大動脈瘤により死亡した。	921	90	1～9
2012	1	4 ～ 5	高速道路を走行中、降雪等の影響によりスリップし、中央分離帯に激突。その後、被災者である運転手は車外に出て、携帯電話で警察等に通報していたところ、別の車両に追突され、その衝撃によって運転者は反対側車線に投げ出されて死亡した。	231	17	50～ 99
2012	2	20 ～ 21	帰宅途中の電車内において倒れ、救急搬送先の病院で脳幹部の出血により死亡した。	921	90	100 ～ 299
2012	4	19 ～ 20	災害発生場所であるビル脇の路上にて、被災者が倒れているのが発見された。	418	1	100 ～ 299
2012	4	20 ～ 21	出張先から直接自宅へ帰宅途中、誤ってプラットフォームから線路内に転落。その際、ホームに入線してきた列車に轢かれ死亡した。	232	18	300 ～
2012	5	13 ～ 14	被災者は就業中に胸のあたりが苦しいと訴え、事業場内の健康管理室に行き、その後近隣のクリニックへ移動のため車いすに乗った直後、全身が硬直し意識を喪失、自発呼吸なしの状態に陥った。救急車にて救急搬送し蘇生措置を施したが、死亡した。	921	90	300 ～
2012	6	13 ～ 14	被災者は、出張先であるライブ会場において機材等の設営作業を行うため、自動車を駐車した駐車場より徒歩でライブ会場へ向かっていたところ通り魔に遭い、刃物で腹部などを刺されて死亡した。	921	8	30～ 49
2012	7	11 ～ 12	火災報知器点検の立会作業中、この立会の作業の引継を受けていた被災者は、地上階に設けられているフェンス扉を開け、その先にある開口部から、自家発電室の床面まで約14m墜落し、死亡した。	414	1	10～ 29
			被災者はコンテナに鋼材の積込作業を終え、当該コンテナにコンテナシー			

2012	10	8 ～ 9	<p>ル（封印）を取り付けようとしていた。取り付け作業にあたり、通常はトレーラーの上で作業を行うが、当日は他事業場の労働者がトレーラーの上でコンテナ上側に取り付け作業を行っていたため、被災者はタイヤとタイヤの隙間に入り、コンテナ下側に取り付け作業を行っていた。その際、運転者がトレーラーを発車させてしまい轢かれた。</p>	221	7	50～ 99
2012	1	10 ～ 11	<p>長年の長時間労働により、脳出血を惹起して死亡した。</p>	921	90	100 ～ 299
2012	9	14 ～ 15	<p>ジェットコースターの登り部送り装置（チェーン式）の下側の歯車（スプロケット）部で油さし等の補修作業を行っていたところ、動いてきたジェットコースターの車両（搬器）とレールの間にはさまれた。なお、当該補修作業は、ジェットコースターを通常通りの営業（運転）しながらの作業であり、ジェットコースターの起動は、ジェットコースターの運転操作者と被災者の間での相互確認により行われていた。</p>	391	7	10～ 29
2012	5	15 ～ 16	<p>作業を終え、事業場に戻るため普通ワゴン車を運転して国道を走行中、対向車線にはみ出し、対向車線を走行していた普通乗用車と正面衝突した。</p>	231	17	1～9
2012	1	15 ～ 16	<p>被災者はシャッターを倉庫内で修理するため、アルミ製移動はしご（長さ約5m）を使用し修理作業を行っていた。その際、はしごの上部をシャッターのスプリングに掛けて使用していたところ、はしごが左にずれ、はしごと共に倉庫の床に墜落し、頭蓋骨骨折により死亡した。なお、保護帽は着用していなかった。床からシャッターのスプリングまでの直高は約5m。</p>	371	1	1～9
2012	2	11 ～ 12	<p>農作物保管倉庫の屋根の上にて、被災者を含め複数で除雪作業を行っていたところ、突然屋根に積もっていた雪が滑り落ち、その雪とともに屋根の上で作業を行っていた被災者が墜落し、雪に埋もれた。なお、被災者は安全帯等の墜落防止措置を行っていなかった。</p>	415	1	100 ～ 299
		8	<p>被災者は販売業務等のため、自宅から自家用車で直接業務先へ向かう途</p>			

2012	4	～	中、自動車の運転操作を誤り、対向車線側にはみだして橋の欄干に衝突し	231	17	300 ～
	9		死亡した。			
2012	8	～	コンテナ船からコンテナの荷卸し作業のため、別事業場の労働者が運転す	229	7	1～9
	13		る「リーチスタッカー」と呼ばれるコンテナ積卸専用機械が船とコンテナ			
	14		置き場との間を往復していた。被災者は、コンテナの検数業務後に詰所へ			
			行くため構内を歩行していたところ、コンテナを持ち上げ後退して来た同			
			機械の右後輪に腹部を轢かれ即死した。			
2012	10	～	被災者は貯氷庫内に設置されている氷を均す機械（レーク）の上部から氷	169	7	1～9
	14		上に墜落し、レークの刃部に巻き込まれ、頭部損傷により死亡した。な			
	15		お、貯氷庫入口扉を開けるとレークの通電を遮断するスイッチは切られ、			
			レークは運転状態となっていた。			
2011	4	～	積載荷重2トンの労安法適用の油圧式エレベーターの性能検査前の事前点	214	7	1～9
	14		検中、被災者が昇降路ピットで油圧ユニットの上にあがり、同ユニットの			
	15		上に設置された起動盤に測定器を接続して定格速度で電流及び電圧を測定			
			中、3階から下降してきた搬器と同ユニットの外装板との間に左足から下			
			腹部を挟まれ、外傷性ショック死したもの。エレベーターの操作は、搬器			
			内にて同僚が行い、昇降の合図はピットから被災者が口頭で行っていた。			
2011	7	～	マンホールの点検作業のため、交差点内にカラーコーン等でバリケードを	231	17	10～
	1		作り誘導員を配置して点検作業を行っていたところ、第三者が運転する軽			29
	2		乗用車がバリケード内に突っ込み、被災者が軽乗用車に轢かれて死亡した			
			もの。			
2011	8	～	構内の3号ドック内に入渠していた自動車運搬船のボートダビットの定期	219	1	50～
	9		検査のため、被災者とチームリーダーがプラットホームにいたところ、			99
	10		ボートダビットのアームが倒れて、近くにいた被災者が4.2m下のドック			
			底に転落した。			
			2名で管制から連絡のあった事故現場に向かう途中、路肩に止まった別の			
			事故車両を発見。パトロール車を事故車両後方に止め、矢印板2枚、ラ			

2011	2	6 ～ 7	バーコーン5個を路肩規制のため設置した直後、管制から別のパトロール車をその現場に向かわせるので、最初に指示した現場へ向かうよう指示があり、設置した物を撤収作業中に、ライトバンが突っ込んできて1名が跳ね飛ばされ死亡、1名は弾き飛ばされたラバーコーンにあたりけがをした。	231	17	10～ 29
2011	3	13 ～ 14	堤防工事が完成し、完成検査に参加するため、工事事業者に製品を納入している被災者所属会社から出張していた被災者が、何らかの理由で海に転落し、水面に浮いているのを発見された。	713	10	10～ 29
2011	9	17 ～ 18	事前に積まれていた盛土上において、4台のドラグショベルを使用して、土砂の搬入作業を行っていた際、被災者が運転していたドラグショベル周辺の盛土が崩壊し、ドラグショベルごと盛土より転落し、土砂に埋まったもの。	711	5	10～ 29
2011	10	11 ～ 12	小型移動式クレーンに搭乗出来る設備を装着して、これに乗って電光看板の点検を行っていた時、搭乗出来る設備と電光看板に挟まれ死亡したもの。	212	7	1～9
2011	7	16 ～ 17	国道27号脇の除草作業現場で、刈草をトラックに積み込む作業の交通整理をしていたところ、男性社員の運転する車にはねられ、頭を強く打ち、病院搬送されるも約2時間後に死亡したもの。	231	17	30～ 49
2011	2	11 ～ 12	境内の平屋建て木造建築物が全焼し、焼け跡から被災者が遺体で発見された。	391	16	1～9
2011	10	14 ～ 15	被災者は、博物館ホールのシャンデリアの電球を取り換えるために使用する作業台車を、ホール横の部屋から同僚と二人で人力により移動中、作業台車を傾けないと通路を通ることができないため、台車を傾けようとしたところ、台車が倒れ、台車のマスト部分に被災者の下半身が挟まれた。作業台車は、重量約400キロ、マストの昇降には動力を用いるが、移動は人力による。	149	6	10～ 29
		16	悪天候のため、他従業員が乗車するトラックにスノーチェーンを装着する			

2011	1	～	作業をしていたが、その後、他の従業員がトラック左側後部に倒れている	921	90	10～
		17	被災者を発見し、病院に搬送されたが、翌日死亡が確認された。			29
2011	5	～	建設用の鉄骨（1.5トン）をトレーラーに12本積む作業を2人で行っていた。被災者が荷台で玉はずし、もう1人が4.8トン門型クレーンで	221	1	10～
		15	9メートル離れたヤードから鉄骨を移動させていた。ヤードで8本目をク			29
		16	レーンで垂直に吊り上げた時、荷台で待機していた被災者が高さ1.25			
			メートルの荷台から地上に墜落し、外傷性頭蓋内出血で死亡した。ヘル			
			メットは着用していた。			
2011	8	～	乗用の堆肥散布車を用いて農地に堆肥を散布後、農道沿いで堆肥散布車を	229	6	30～
		14	単独で洗浄していた。しばらくして、同僚が農道脇の法面下において、堆			49
		15	肥散布車の下敷きになっている被災者を発見した（災害発生状況を現認し			
			た者はいない）。病院に救急搬送し、入院加療中であったが、約1カ月			
			後、死亡したもの。			
2011	2	～	飲料水試験検査（試料採取）の出張業務として、被災者は社用車を運転し	232	18	100
		12	て県道を走行し、町内の踏切を通行しようと同踏切内に入ったところ、列			～
		13	車に衝突された。当時、踏切の遮断機は故障しており、その両側に配置さ			299
			れた社員各1人が手動によるその開閉と通行車両の誘導にあたっていた			
			が、本件はその誘導者の誘導ミスにより発生したものとされる。			
2011	6	～	東北地方太平洋沖地震による震災復旧工事のため、船で港の防波堤等の測	921	90	10～
		11	量及び被災写真の撮影を行った。帰港後、気分が悪くなったため、車で宿			29
		12	に戻る途中、意識を失い、特発性心室細動により死亡したもの。（過重な			
			長時間労働により心臓疾患を発症、平成23年11月18日労災保険支給			
			決定）			
2011	12	～	操作室2階の手すりを外してある開口部から、フォークリフトのパレット	222	1	1～9
		8	に上がり、ごみの入った袋を載せていたところ、パレットが壊れ高さ4.			
		9	1mから墜落し床に頭部を強打した。			
			被災者が現場から事業場が借りている駐車場へ社用車を入庫する途中（業			

2011	1	22 ～ 23	務中)の公道を運転走行中、反対車線にはみ出し、道路沿いの店舗に衝突する交通事故を発生させたもの。被災者は病院に搬送されたが死亡し、腹部大動脈瘤破裂と診断された。事故発生4年前の既往歴にて脳梗塞を発症しており、また事故発生6ヶ月以内の時間外労働時間は月平均88時間であった。	921	90	10～ 29
2011	4	9 ～ 10	月次点検に向かう途中、原動機付き自転車で赤信号を見落として交差点に進入し、横断歩道上で自転車と接触し転倒したもの。入院加療中であったが、平成23年4月29日13時34分に死亡が確認された。	231	17	50～ 99
2011	8	16 ～ 17	岸壁防波堤の測量作業を行っているとき、測量場所を移動するため、労働者が防潮堤(海面からの高さ約3m、地上からの高さ約1.7m)の上面(幅約50cm)を歩行していたところ、海中に転落し、溺死したもの。災害発生の際、転落防止措置を何ら講じておらず、被災者は救命胴衣を着用していなかった。転落の瞬間を目撃した者はいないが、被災者は泳ぐことができなかったと考えられる。	713	10	30～ 49
2011	12	1 ～ 2	保養施設敷地内に建てられた従業員宿舎から出火、当該建物に一人で宿直していた被災者が、逃げ遅れて焼死した。	999	16	
2011	11	14 ～ 15	平成23年10月23日に発生した地震の被害調査と救助活動を行うため、10月26日から現地で活動をしていたところ、平成23年11月9日夜に、トルコ東部で発生したM5.6の地震により宿泊していたホテルが倒壊。救出されたものの病院に搬送中に死亡したもの。	418	5	
2011	3	14 ～ 15	当該事業場において度重なる叱責を上司から受け不眠を自覚するようになり平成21年1月7日に病院に受診したところうつ病と診断されたが、平成23年3月6日に自宅内で首を吊り自殺した。平成24年2月21日支給決定	921	90	1～9
2011	2	23 ～	会社業務繁忙時期が継続した中で、高速道路本線上にアンテナ設備を設置する工事を管理する担当をしていた被災者が、当日の作業終了後に帰宅した。翌朝から現場に出勤して来ないまま、1週間後、駐車場で停車して	921	90	300 ～

		0	いた車内で自殺したところを発見されたもの。			
2011	1	11 ～ 12	被災者は、事業場の指示により書類発送のため、自宅を出て郵便局に向かう途中、踏切において、踏切遮断中にもかかわらず、踏切横断のため遮断機を手で下げ、踏切に進入したところ準特急電車に激突し死亡した。	232	18	1～9
2011	6	10 ～ 11	バイク雑誌の取材のため、農業集落道を走行中、対向車が対向車線をはみ出して衝突した。首の骨を折り死亡した。	231	17	100 ～ 299
2011	6	11 ～ 12	マンションの消火室で消防用設備の定期点検を行うため泡消火ポンプの制御盤を操作したところ、漏えいした都市ガスに引火し爆発したもの。被災者は全身70%の火傷を負い治療を受けたが、7月2日午後3時30分に死亡した。	513	14	1～9
2011	10	18 ～ 19	地下2階に停車した3トントラックから、台車に積まれた重さ約700kgのベニヤ板を荷降ろしするために、同ベニヤ板を押してテールゲートリフターに移動させていたところ、誤って台車の車輪がテールゲートリフターから外れて台車ごとベニヤ板がずり落ち、テールゲートリフターの下に立っていた被災者に激突し、ベニヤ板の下敷きになり死亡したもの。	611	4	10～ 29
2011	1	9 ～ 10	屋内で新車のワックスコーティング作業を行っていた被災者がコンクリート床に仰向けに転倒して後頭部を強打。脳挫傷、頭蓋骨骨折により搬送先の病院で翌日死亡したもの。	417	2	10～ 29
2011	9	8 ～ 9	被災者を含む労働者3名は、別荘地内の下草刈を行うため刈払機を用いて作業を開始した。その後、被災者は50m程離れた場所で作業をしていた同僚の方に近づいて行って行った。その時、同僚がズメバチの巣に遭遇して驚き、持っていた刈払機を振り上げた瞬間、同僚の左背後にまで接近していた被災者の右頸部に回転歯が接触し、頸部切創により死亡したもの。	169	8	1～9
2011	8	4 ～	顧客の自動車とともに顧客を送り事務所に戻るため、一人が代行車（軽自動車）を運転、別の一人が同乗し国道を走行中、対向車線から中央分離帯を乗り越え代行車の前方に飛び出してきた乗用車に激突され、労働者2名	231	17	10～ 29

		5	とも死亡した。加害乗用車は代行車の後続のトラックにも激突し横転、加害運転手は軽傷を負った。トラック運転手は無傷。			
2011	8	4 ～ 5	顧客の自動車とともに顧客を送り事務所に戻るため、一人が代行車（軽自動車）を運転、別の一人が同乗し国道を走行中、対向車線から中央分離帯を乗り越え代行車の前方に飛び出してきた乗用車に激突され、労働者2名とも死亡した。加害乗用車は代行車の後続のトラックにも激突し横転、加害運転手は軽傷を負った。トラック運転手は無傷。	231	17	10～ 29
2011	3	11 ～ 12	被災者は一人でデスク3台の組み立て作業を行うため、作業に必要な工具を積載した事業場所有の軽自動車を運転中、トンネル内において路面凍結によりスリップし対向車線にはみ出し、対向してきた大型トラックと衝突し、さらに後続の乗用車とも衝突して意識不明の重体となり、6日後に死亡したものの。	231	17	10～ 29
2011	1	10 ～ 11	3階建ての建物屋上で雨量計の点検作業中、点検のために取り外した雨量計の外筒が突風で飛ばされたため、その外筒を慌てて取ろうとしたところ、屋上の端から転落したものの。（高さ約10m）	415	1	10～ 29
2011	8	17 ～ 18	被災者が営業活動を行い帰社途中、乗用車を運転して国道を走行していたところ、トラックに追突され、その衝撃で対向車線にはみ出し、対向車の大型トラックと衝突した。なお、追突したトラックの行方は不明である。	221	17	1～9
2011	12	5 ～ 6	運転代行業務を行った後、自動車を運転して客待ち待機場所へ戻るため国道を走行中、路面凍結によりスリップし、道路左側の防雪柵に衝突した。また、助手席に乗車していた同僚労働者も頭部に裂傷を負った。	719	17	1～9
2011	6	2 ～ 3	被災者ら2名は、運転代行業務を終えて次の客を送るのに客の車を一時保管している駐車場へ向かうため、随行車（軽乗用車）で片側2車線を左へ車線変更しながら北へ運転中に、片側1車線の左から来た軽乗用車を避けようとして、中央分離帯の街路灯に衝突した。被災者らははずみで車外に投げ出されて、被災者は横転した随行車の下敷きになり死亡、もう1名も負傷した。交差点に信号機はなく、相手車側に一時停止の標識があった。	231	17	30～ 49

2011	6	13 ～ 14	小麦貯蔵施設において被災者はダクト配管等のメンテナンス作業に従事中、排熱ダクト上にある集塵ダクトのファンを取り外そうと、ボルトを外すため集塵ダクトに覆いかぶさりボルトにスパナを掛けようとしたところ、集塵ダクト側のボルトは取り外し済みで固定されていなかったため、覆いかぶさっていた集塵ダクトが折れて、バランスを崩し、排熱ダクト横の開口部から17.7m下のコンクリート製地面まで墜落したものの。	418	1	10～ 29
2010	12	4 ～ 5	被災者1名で道路灯水銀球の球切れの取り替えを高所作業車を用い、道路上に配置（片側2車線の走行1車線側）、作業台を走行2車線側の上空3.7m付近に旋回して作業を行っていた時、走行2車線側を走行してきた10tトラックの荷台前方に作業台が激突され、作業台から振り飛ばされ、道路上に墜落死亡したもの。安全帯と保護帽を使用していなかった。	146	17	1～9
2010	12	14 ～ 15	エレベーターの定期検査作業現場（2名で実施）において、地震感知器の作動状況（地震発生時に最寄りの階に止まること等）を確認するため、被災者が1階乗り場の搬器の下にある機械室で地震感知器に手で振動を与え、もう1名が2階の乗り場から搬器に乗り3階へ上昇する操作をしたところ、被災者はカウンターウエイトが2階から1階へと下降していることに気付かず、カウンターウエイトに頭部を激突された。	214	6	10～ 29
2010	12	13 ～ 14	被災者は、フォークリフトでコンテナの上で畳を積む作業を行っていたところ、コンテナから1.12m下の地上へ後ろ向きに墜落し、入院治療を続けていたが、約2週間後に死亡した。	391	1	30～ 49
2010	12	10 ～ 11	被災者は、食品会社の倉庫2階において、床に置かれたフォークリフト専用のパレットに出荷予定の商品を載せる作業を行っていたところ、4.95m下の1階コンクリート床に墜落した。普段は、荷物用エレベーターで荷降ろしを行っていたが、数日前に荷物用エレベーターが故障したため、災害発生当日は2階の手摺（可動式）の一部を開いた状態でフォークリフトによる荷降ろしを行っていた。	414	1	10～ 29
		1	イギリスに出張中、被災者を含む3名がタクシーで空港から宿泊先のホテルに向かう途中、片側3車線の一般道路を走行中に反対車線から大型ト			1001

2010	12	2	トラックが中央分離帯を越えて被災者が乗車していた右側後部座席に激突した。被災者は全身を強く打ち、病院に搬送途中、死亡したもの。他2名の被災状況は調査中。	221	17	9999
2010	11	18	交通調査員として集められた労働者が交通調査を2人一組あるいは3人一組で行っていた。被災者は2人一組で2時間交代で交通調査を行っていた。被災者は待機時間中に最寄のコンビニに買い物に行き、交通調査している箇所に戻る途中、トラックにはねられ、病院に搬送されたが死亡した。	221	17	1~9
2010	11	12	被災者と同僚1名にて河川の地盤高の測量作業を行っていた。被災者は対岸の測点に渡るべく、ポールを持って、1人で渡河点を探し上流へ向かったが、しばらくしても姿を現さず、無線連絡もとれないため、同僚が付近を捜索したところ、河川の岩に引っかかっていた被災者を発見した。発見時、被災者に意識はなく、うつぶせの状態ですぐ肩から下が水に浸かっていた。川を横断中に溺れたとみられる。	713	11	10~29
2010	11	7	高速道路上で発生した交通事故にかかる事故対応のため、2名で事故現場にパイロン等交通規制機材による路肩規制を行い事故調査を行っていたところ、普通4t貨物自動車にはねられたもの。他の1名は重体となった。	221	17	10~29
2010	11	3	自宅のトイレ前で過重労働による急性心臓疾患により仰向けに倒れた。救急車で搬送したが死亡したもの。発症前4か月の就労状況は月100時間以上の時間外労働が続いていた。	921	90	100~299
2010	11	14	鉄骨製のビニールハウスを補修作業中、屋根部分の小梁をビス止めするためフォークリフトのパレットを足場代わりに作業をしていた。被災者が同僚にパレットを少し上げるよう指示したため同僚がフォークリフトのエンジンをかけたところ、ギアが入っていたためフォークリフトが前進し、ビニールハウスの鉄骨骨組みとの間に腹部を挟まれた。被災者を含め3人で作業を行っていたが、フォークリフト運転の資格者はいなかった。	222	6	30~49
		8	一般家庭の電気設備の安全点検のため、社用のバイク(90cc)で会社から1軒目の家に向かう途中、国道と交わる交差点に青信号に変わり際に			10~

2010	10	9	～	進入した時、赤に変わった直後に国道を右から直進してきた軽自動車と衝突し死亡した。	231	17	29
2010	10	10	～	3 tトラックから荷を卸す作業中に、台車に積まれた状態の荷物（平台と呼ばれる組立式テーブルが15段、重量350kg）が、高さ約0.7mのトラックのリフターから転落し、側で控えていた被災者に直撃し、当該荷物の下敷きになったもの。トラックのリフターのストッパーと台車のストッパーを施していなかった。	611	4	30～ 49
2010	10	11	～	バイクによる河川巡視業務を終え、事業場に戻る途中、信号のない交差点で乗用車と衝突、その後死亡したもの。被災者側に一時停止の標識があった。	231	17	1～9
2010	10	13	～	フォークリフトを用いて粃をライスセンターから別棟の保管場所へ運搬し、保管場所からライスセンターへ戻る際、フォークリフトの右前輪タイヤが、運行経路途上にあった粃殻排出塔の基礎土台にのり上げ、バランスを崩し、当該フォークリフトが横転した。当該フォークリフトを運転していた被災者が運転席から投げ出され、フォークリフトの下敷きとなり死亡した。	222	2	50～ 99
2010	9	11	～	傾斜地において、清掃作業を行っていたと推定される被災者が、当該傾斜地で転倒し、斜面を転がって下部の擁壁上（垂直高さ2m20cm）から敷地外の歩道に墜落したもの。	418	1	10～ 29
2010	9	15	～	玄米バラ受け施設において、農家がフレコンに入れた玄米をトラックで持ち込み、被災者の同僚がテルハクレーン（つり上げ荷重2t）を操作してトラックからつり上げ（玉掛は農家実施）、荷受ホッパー上まで移動させ、被災者がフレコンの下のひもを解く作業をしていたところ、フレコンの2本ある吊りベルトのうち1本が経年劣化のため切断し、落下したフレコン（重量約750kg）により荷受ホッパー周囲の鉄製囲いに被災者が押し付けられ死亡した。	611	4	30～ 49
		11		植栽の樹木の枝切り中に墜落してしまったもの。墜落箇所は不明である			

2010	8	～ 12	が、枝切りされた部分等から5. 6 mの高さから墜落したものと思われる。	712	1	1～9
2010	8	～ 9	看護学科の学生を研修先の病院まで送り届けた後、その帰路において発生した災害。ワンボックスカーを走行中、進行方向右側の路外に飛び出し、当該道路と直角に交わる取り付け道路の側壁コンクリートに車体正面から衝突したものの。	231	17	1～9
2010	8	～ 2	被災者は依頼者の軽自動車の代行運転中、対向してきた軽自動車脇見運転か居眠り運転によって中央線をはみ出してきたため衝突して横転した。被災者が死亡、同乗していた依頼者も重傷を負った。相手車は後続の随伴車にも衝突し、随伴車を運転していた同僚の運転者も打撲の軽傷を負った。なお、対向車に乗っていた4名にけがはなかった。	231	17	10～ 29
2010	8	～ 18 19	山間部の地質調査中に死亡した。被災者と同僚の2名はレンタカーに乗り合わせ滞在先のホテルを出発して、現地付近に到着し、別々に調査場所へ向け入山した。調査を終えた同僚が、出発地点にて待ち合わせ時間に被災者が来ないため、1人で捜索を開始。その後、警察も加わり捜索したところ、翌日の早朝、調査範囲内にある水深1 m程の沼地にて溺死している被災者が発見された。	713	10	300～
2010	8	～ 4 5	被災者2名は運転代行業務を終え事業場へ戻るべく、社有車（軽自動車）で国道を走行していたところ、前方左側車線に停車していたトレーラーに気付かず、トレーラー後部へ激突し、2名が死亡した。	231	17	30～ 49
2010	8	～ 4 5	被災者2名は運転代行業務を終え事業場へ戻るべく、社有車（軽自動車）で国道を走行していたところ、前方左側車線に停車していたトレーラーに気付かず、トレーラー後部へ激突し、2名が死亡した。	231	17	30～ 49
2010	7	～ 14 15	災害発生場所構内のごみ回収作業に従事していたところ、建物に囲まれた中庭に倒れている被災者が発見されたもの。発見時にはけいれんを起し、意識がなかったので、救急車を要請。病院に搬送するも熱中症により死亡したものの。	715	11	100～ 299
		9	被災者は営業所からビルメンテナンス作業場所へ自転車で出張作業に向か			

2010	7	～	10	う途中、信号のない交差点内でトラックにはねられ、病院に搬送されたが頭部を負傷し死亡した。	362	17	10～ 29
2010	7	～	18 19	被災者は、朝から夕方まで炎天下の中、屋外の資材置き場において、解体現場から持ち帰った廃材の分別作業及び片付け作業に従事していた。当日の作業が終了し、事務所へ社有車で戻る途中、体調に異変が生じ病院へ運ばれたが同日、熱中症により死亡した。	715	11	10～ 29
2010	6	～	11 12	被災者は、再委託事業者の労働者2名とともに、朝から高架橋の橋桁の点検作業を行っていた。昼になり、昼食のため現場を引き上げようと橋脚に設置された検査路に立ち入ったところ、同検査路の鋼製金網状床が錆びのため腐食しており、床を踏み抜き、およそ19m下のコンクリート製の橋脚台に墜落したものである。	417	1	100 ～ 299
2010	6	～	13 14	レンタルコンテナ置場において、レンタルコンテナ2段目への家財道具の搬入を行うため、同敷地内にあった移動式階段を利用して搬入作業を行うにあたり、被災者と他の労働者1名で食器棚を挟んで向かい合わせになり、後ろ向きで階段を昇り運び上げた際、移動式階段最上段踊り場（高さ約2.5m）の端より足を踏み外し、被災者が地上に墜落したものの。	413	1	1～9
2010	6	～	13 14	被災者は、見積もり合わせ等の業務のため、被災当日、事業場を朝に出発し、業務を終え帰社の途中、国道の片側1車線の直線道路上において、追い越しのために対向車線にはみ出したところ、対向してきたトレーラーと正面衝突し、死亡したものの。なお、対向のトレーラーの運転手にけがはなかった。	231	17	10～ 29
2010	5	～	1 2	運転代行の労働者2名は、客宅へ客と自動車を送り届けた後、会社事務所へ戻るため国道を走行していたところ、見通しの悪い場所でハンドル操作を誤り、進行方向左側にあるオーバーハング式の標識の柱に激突し、乗っていた2名が死亡した。	231	17	1～9
2010	5	～	1	運転代行の労働者2名は、客宅へ客と自動車を送り届けた後、会社事務所へ戻るため国道を走行していたところ、見通しの悪い場所でハンドル操作	231	17	1～9

		2	を誤り、進行方向左側にあるオーバーハング式の標識の柱に激突し、乗っていた2名が死亡した。			
2010	5	11 ～ 12	クーリングタワーの扉を開けて、内部の水を検査のために採取する作業（半日作業）を行うのが事故当日の仕事だった。被災者は、クーリングタワーの底部にたまった水20cm（中央の深い個所は57cm）の中に、仰向けに倒れていたところを2日後に発見された。散水ブローホースが外れており、高さ120cmのC型鋼材の上で接続しようとし、頭部がファンに接触して水中に墜落し、溺死したとみられる。	391	10	50～ 99
2010	5	16 ～ 17	浄水場のろ過池の土手法面に放置していた塩ビ管（直径100mm、長さ約50m、重量約180kg）を移動式クレーンを使用して、法面の下方にあるよう壁上部の平坦な箇所に下ろす作業を4名で行い、被災者が塩ビ管に通してあったスリングを塩ビ管の端から外す作業をしていた際に、塩ビ管全体がよう壁から落下した。この際、よう壁が狭いため近くにいた被災者が足元をすくわれ、塩ビ管とともに高さ2.4mのよう壁上から墜落した。病院に搬送されたが、翌日死亡したもの。	418	1	10～ 29
2010	5	2 ～ 3	被災者は、葬祭事業部の課長代理として、葬祭関係全般にわたる業務に従事していた。前日の朝に自宅で頭痛と左足のしびれを訴え病院に搬送するも、脳内疾病により死亡したもの。発症前1週間の時間外労働26時間。発症前1か月の時間外労働172時間。発症前2か月から6か月の各月の時間外労働は100時間超。	921	90	10～ 29
2010	5	15 ～ 16	商品見本やパンフレット類の入ったダンボール箱を台車を使って移動する際、スロープを後ろ向きに下がっていたところ、右下腿を負傷（肉離れ）した。右足を絆創膏固定術と薬剤投与で経過を見ていたが、17日後の業務終了後、自宅に戻ったところ血栓症を起こして体調不良に陥り、救急車搬送される途中に死亡した。	999	99	100 ～ 299
2010	4	3 ～	被災者は、社用車を運転して同僚が代行運転する顧客の車を追走していたところ、パトカーに追跡されていた車が後方から被災者の車を追い越そうとして対向車線の電柱に衝突し、大破した車の発電機（約5kg）が飛来	231	17	10～ 29

		4	して被災者の車を直撃したもの。			
2010	4	14 ～ 15	試掘調査作業中、深さ約2m、幅約1.8mの開削内で掘削面の崩壊防止措置を講じないまま整地作業を行っていたところ、掘削面が崩れ生き埋めとなった。救出し、病院に搬送したが死亡した。	711	5	10～ 29
2010	4	14 ～ 15	被災者は、雨よけのために設けられた軒状に張り出したテント地で出来た屋根（高さ5.6m）のふち付近から、転落したものと推測される。災害の現認者もなく、災害時の作業内容等は不明である。墜落防止措置を講じず、安全带等も使用していなかった。	419	1	1～9
2010	4	16 ～ 17	時間外労働時間が70時間から80時間を超える月が続き、特に前々月と前月は海外出張が連続しており、前月の時間外労働時間は100時間を超えている状態となっていた。自宅付近の路上で心筋疾患により倒れ、病院へ搬送されたが、4日後に死亡したものの。	921	90	1001 ～ 9999
2010	4	21 ～ 22	海外の市街地において、デモ隊と治安部隊との反政府デモの取材中、何者かが発砲した銃弾を受け、胸に当たり失血死したものの。	911	90	300 ～
2010	4	8 ～ 9	被災者はマンションの管理人であり、管理するマンションに出勤のため自転車で向かっていたところ、マンション敷地内の駐車場に駐車しようとしてバックしていた車両と接触して転倒し、後頭部を強打した。病院に搬送されたが3日後に死亡した。	231	6	10～ 29
2010	4	20 ～ 21	バイパス道路で自損事故を起こし、自転車から離れて通報を行っていたところ、後方より進行してきた大型貨物自動車前方不注意のため追突した。その反動で自転車の後部と道路側壁に被災者がはさまれ、同日、死亡したものの。	221	17	100 ～ 299
2010	3	9 ～ 10	コミュニティセンターのホールで、ステージに祭壇を設置する作業を6人で行っていた時、被災者は祭壇の2段目、同僚が3段目で幕を取り付けていたところ、被災者がバランスを崩して転倒し、ステージ下まで1.3m墜落した。救急車で病院に搬送されたが死亡した。	419	1	10～ 29

2010	3	6 ～ 7	自宅ダイニングにてうめき声とともに倒れ、病院に搬送されたが、既に心肺停止状態であり、そのまま搬送先の病院で死亡したもの。発症前2ヶ月間において、月の平均時間外労働時間数が80時間を超えていた。	921	90	～ 499
2010	3	16 ～ 17	通信用タワーに設置されたアンテナケーブル撤去作業依頼のため、業者同行にての下見を実施していた。28階撤去対象物の目視確認を終え、はしごにて26階へ降りようとしたところ、25階まで墜落したもの。約2週間後に死亡した。	371	1	10～ 29
2010	2	11 ～ 12	入社時から、電化製品の通信販売業務等に従事しており、事業場内のトイレにて脳の疾病を発症し、転倒しているのを発見され、病院へ搬送されたが、同日死亡したもの。	921	90	1～9
2010	2	13 ～ 14	病院にて定期健康診断受診後、乗用車に2名（運転は他の被災者）が同乗し帰社中、T字路右折時に対向車線直進車の相手乗用車との衝突により、助手席にいた被災者が頭を強く打ち死亡したものである。	231	17	1～9
2010	1	13 ～ 14	被災者は、自転車で集金後の帰社途中、信号も横断歩道もない国道を渡るようしていた。先の交差点が赤信号となっているため停車している車列の間を横断していた時、右折可の信号となっていたことから右折しようと交差点へ直進していたバスと衝突し、死亡した。	362	17	1～9
2010	1	15 ～ 16	被災者は、会社の駐車場から会社に戻ろうとして歩道を歩いていたところ、前から走ってきたバスが側道から飛び出してきた乗用車を避けるために左側歩道に乗りあげたため、被災者がひかれたもの。	231	17	10～ 29
2010	1	0 ～ 1	被災者は、麦乾燥調製工場に勤務し、麦乾燥・調製貯留施設運営管理、製品管理、集荷、販売、清算事務に1人で従事してしていた。繁忙期の4カ月間（前年の夏から秋）、月平均100時間以上の時間外労働があり恒常的な長時間労働により「うつ病」を発症し休業していたが、自分の自動車内で練炭を焚き一酸化炭素中毒で死亡（自殺）し、業務上災害に認定された。	921	90	1～9
2009	8	14 ～	川のボックスカルバート橋梁の耐力度調査に従事していた作業員6人中5人が作業中、水路内の水位が急激に上昇し、その時発生した濁流に流され4	713	10	10～

		15	人が被災した。			29
2009	8	14 ～ 15	川のボックスカルバート橋梁の耐力度調査に従事していた作業員6人中5人が作業中、水路内の水位が急激に上昇し、その時発生した濁流に流され4人が被災した。	713	10	10～ 29
2009	8	14 ～ 15	川のボックスカルバート橋梁の耐力度調査に従事していた作業員6人中5人が作業中、水路内の水位が急激に上昇し、その時発生した濁流に流され4人が被災した。	713	10	10～ 29
2009	8	15 ～ 16	被災者は取引先の事業場で、エレベーターの点検を行っていた。取引先の上司が、建屋1階のエレベーターの近くを通りかかったところ、エレベーターから異常音がしたため、確認すると、2階のエレベーター開口部から右手が垂れ下がっていた。当該エレベーターを停止させた後、昇降路の1階ピットに被災者が倒れているのを発見した。	214	7	10～ 29
2009	9	17 ～ 18	個人住宅のシロアリ駆除作業を被災者1人で行った後、事業場へ会社所有の軽トラックで戻る途中、広域農道において、高速道路の橋台に単独で正面衝突した。	221	17	10～ 29
2009	3	12 ～ 13	被災者は、御神牛の調教業務のため、事業所から御神牛が預けられている家に赴き、御神牛の調教を行った。調教を終えた後、家玄関部にて転倒し負傷した。その後、ふらつきながら歩行中、再度転倒して庭先の物干し竿土台コンクリートで身体を損傷して被災した。なお、被災時は一人作業で目撃者はおらず、通りかかった近隣住民が救急隊に通報し、搬送先の病院で死亡した。	418	2	100 ～ 299
2009	11	16 ～ 17	出張業務が終了し車で帰社していたところ、片側一車線の国道を走行中に対向車線にはみ出し、対向してきたダンプトラックと正面衝突した。	231	17	30～ 49
2009	1	8 ～ 9	川の縦断測量作業中の作業員が、川（幅約20m）を横断する途中で下流に流されて死亡した。	713	10	10～ 29

2009	11	15 ～ 16	山中において、代表者と被災者の2人で測量中、被災者が蜂（オオスズメバチ）に刺され、下山途中に意識不明となり、病院に運ばれたが同日死亡した。	719	90	1～9
2009	3	11 ～ 12	岸壁付近において重機等が走行するための敷鉄板間の繋ぎ目をアーク溶接機により接合する作業中、被災者が作業場所を移動するため軽トラックを運転して後進させたところ、岸壁から軽トラックごと海に墜落して死亡した。	713	10	1～9
2009	3	7 ～ 8	コンテナ船に係留するため本船から出された係留索を岸壁のビット（係船柱）にかける作業中、1本目の係留索をビットにかけ、続いて2本目を岸壁に引き上げていたところ1本目の係留索が切断し、被災者に激突した。	239	6	30～ 49
2009	3	7 ～ 8	コンテナ船に係留するため本船から出された係留索を岸壁のビット（係船柱）にかける作業中、1本目の係留索をビットにかけ、続いて2本目を岸壁に引き上げていたところ1本目の係留索が切断し、被災者に激突した。	239	6	30～ 49
2009	8	6 ～ 7	被災者は、過去に電鉄へ納入した鉄道マクラギの補修方法について、技術的アドバイスを目的で夜間作業の立ち会いを行った。作業終了後、現場から自宅に乗用車で帰宅する途中対向車線にはみ出し、対向車と正面衝突して死亡した。	231	17	50～ 99
2009	8	14 ～ 15	川の地下水路函渠入口付近にて函渠の構造耐力調査中、局地的豪雨による鉄砲水が発生し、作業員5人が流された。そのうち4人が地下水路を出た100m先で発見され4人が死亡した。	713	10	10～ 29
2009	7	9 ～ 10	舞台装置等の製作所（倉庫）において、ダンス発表会で使用した舞台資材（コンパネ）約180kgを柵付台車（カーゴ）に乗せて被災者を含め4人で搬入作業中、柵付台車が倉庫床面傾斜部（勾配10度）で進行方向側へ転倒した。同台車を押すため左前にいた被災者が転倒した台車と倉庫床面にはさまれた。	362	6	30～ 49
2009	6	8 ～	高速道路において、早朝に発生した事故により道路に漏れ出したオイルの処理を被災者が職長とともに走行車線を車線規制して作業していたところ、規制されていなかった車線を走行していた加害者のトラックが突然被	221	17	30～

		9	災者の方に突っ込んできて、被災者が加害者のトラックとガードレールにはさまれ死亡した。			49
2009	4	13 ～ 14	社用車（1500cc）に乗り高速道路を走行中、同車がセンターラインを超え対向車線にはみ出し、同所を走行中の産業廃棄物収集車（3.9t）と衝突し、その勢いで側壁に激突後、車が炎上して被災者が死亡した。	231	17	100 ～ 299
2009	4	10 ～ 11	下水処理場内の汚泥処理施設において、ベルト汚泥濃縮機の配管に取り付けられたストレーナのスクリーン（流体中の異物やゴミをろ過する円筒状の部品）の故障警報が鳴ったため、その清掃・洗浄作業を加圧浮上式濃縮タンク（幅4.5m×長さ19.3m×有効側深4.5m）傍で行っていたところ、誤ってタンク内に転落した。	414	1	50～ 99
2009	10	10 ～ 11	台風18号による建物損害の保険調査の目的で、損害のあったスレート屋根の状態確認をするため、同僚1人と共にスレート屋根上に上がっていた被災者がスレート屋根を踏み抜き約5.9mの高さから建物1階コンクリート床面に墜落した。	415	1	10～ 29
2009	11	2 ～ 3	高速道の片側二車線の緩やかな右カーブで、3人が乗車した軽乗用車が走行車線でトラックに追突したのち、中央分離帯にぶつかり追い越し車線上で横転した。軽乗用車の助手席に乗っていた被災者が、車外に脱出した際、後方より走行してきた大型トラックにはねられ死亡した。軽乗用車に同乗していた2人が重傷を負った。	231	17	10～ 29
2009	11	10 ～ 11	高所作業車を使用し、工場天井付近の梁、筋かい等にハト避け剤を塗布する作業を行っていたところ、バケットを寄せすぎたため、筋かいとバケットの手すり部との間で運転士がはさまれた。	146	7	1～9
2009	7	20 ～ 21	仕事を終え帰宅後、突然心肺停止状態となった。	921	90	1～9
2009	3	14 ～	被災者は、生活廃水処理施設のタンク上の床の中央部分で水質の確認作業を行っていた。被災者は、「あー」という声を発し、立ち上がった後に	416	1	30～

		15	白目をむき、作業床の端に後ずさりし、約3.3mを歩いて高さ1.4mから通路上に転落し、被災した。その後、入院し治療していたが後日死亡した。			49
2009	9	15 ～ 16	被災者は上水道の配水池タンク内に潜水し、タンク底部の清掃作業を行っていた。当日の作業が終了し、タンク上部の出入り口から出る際に送気マスクなど潜水具を外したところ、マスクが沈み底部の配水管に吸い込まれ、引っかかってしまった。そのために被災者が予備のマスクを装着して、再び潜水し吸い込まれたマスクを外していたところ、被災者が配水管に引き込まれ、その際に送気マスクが外れてしまいおぼれた。	391	10	30～ 49
2009	8	11 ～ 12	高さ約20mある法面の測量作業において、法面の上部の平らな部分で測量値のメモをとっていた被災者は、20m下の法面と法面を覆う金網の間に転落した。	711	1	10～ 29
2009	12	2 ～ 3	運転代行業務で、客の自動車に後続して、代行随伴自動車を被災者が運転し走行中、県道において中央分離帯に衝突し死亡した。	231	17	10～ 29
2009	3	12 ～ 13	訪問介護業務を行っていた被災者が先の訪問先での作業を終え、次の介護者宅へ移動するため軽自動車を運転中、県道から国道に侵入する際、誤って県道から降りてくるスロープを逆走して国道へ侵入してしまい、国道を走行してきたタンクローリーと衝突し、死亡した。	231	17	100 ～ 299
2009	9	1 ～ 2	被災者が立体駐車場3階に駐車してあった客の乗用車を出庫しようとエンジンをかけたところ、車が急発進し駐車場の壁（鋼製、高さ1.2m）に激突した。後部座席に乗車していた客1人も負傷した。	231	3	10～ 29
2009	1	23 ～ 24	被災者は客の車を代行運転し走行中、随行車両が遅れたことから一時停車し随行車両を待っていたところ、随行車両に追突され左側の店舗駐車場の車に衝突し、更に店舗の駐車場を横切り看板支柱に衝突した。	231	17	10～ 29
2009	2	2 ～ 3	自動車の代行運転業務に従事し、業務終了後、事業場に帰るため、事業場所有の自動車でも県道を走行中、カーブを曲がりきれず電柱に激突した。助手席に座っていた作業者が身体を強打し死亡した。	231	17	50～ 99

2009	12	0 ～ 1	被災者は、代表者と当該事業場の元作業員である。フリーカメラマンとともに、スノーハイイクでの雪山における指導方法等を学ぶために、研修として登山に行ったが、遭難して死亡した。なお、同行していたフリーカメラマンも被災者らと一緒に遭難し死亡した。	719	11	1～9
2009	4	17 ～ 18	採石場の急斜面にて、測量及びくい打ち作業を行っていた測量会社の作業員が現場事務所に戻る際、約70m下に滑落し死亡した。	711	1	1～9
2009	12	1 ～ 2	3階建て事業場内の2階渡り廊下のコンセント付近からの出火により火災が発生し、渡り廊下と隣接する美容院約90平方mが焼けた。その際美容院の建物と渡り廊下で繋がっている変身スタジオの建物の2階受付・待合室のソファで寝ていた被災者1人は火災で発生したガスを吸入し死亡した。屋上の植物温室用ハウスで寝泊まりをしていた作業員1人は、火災に気づき屋上から隣接したビルに飛び降りた際に身体を負傷した。	418	16	1～9
2009	6	15 ～ 16	被災者が自動車を運転中、左側へ緩やかにカーブをしている下り線において、左側のガードレールに激突し対向車線に飛び出し（中央分離帯は縁石およびポールで区切られている程度）上り線側壁に激突後、上り車線進行方向へ回転、上り線を走行してきた自動車に後部から激突された。	231	17	1～9
2009	6	10 ～ 11	地下の駐車場の天井側で、構造上、溝がある部分にハトよけのネットが張られていたが隙間があり、それをふさぐ作業をするため高所作業台の据え付け作業を行っていた。移動保管のため、斜めになっていた高所作業台を被災者と同僚の2人で起こそうとしたところ、斜めの状態を保持していたシリンダーのピンを同僚が誤まって抜いてしまい、高所作業台が倒れ、被災者に激突した。	149	5	10～ 29
2009	2	10 ～ 11	車で乗り込んだフェリー上で、車のエアコンをつけるためエンジンをかけたところ、バックギアが入っていたため車が後進をし、車ごと川の中へ水没し被災した。	231	10	50～ 99
		10	原子力発電所内の廃棄物処理棟地下1階に設置されている廃棄物貯蔵タンクの内壁・外壁の外観検査を行っていた（放射線管理区域内）。被災者			

2009	3	～	は、詰所に戻るため、検査中のタンク上面から30cm離れた隣のタンクへ	418	1	50～ 99
	11		渡した足場板を渡ろうとしたところ、タンク間の隙間から約9m下の床面に墜落した。			
2009	5	～	被災者は揚水機場の水路管理運営（午前7時～翌午前7時の断続的作業）に従事しており、午後6時に計器の数値を測定後、一度夕食のために自宅に	719	10	1～9
	13		帰ることが日課となっていた。しかし、いつものように帰宅しなかったため、不審に思った家族らが現場を検索したところ、水路（水深は約2m）でおぼれていた。			
2009	2	～	既存の橋の改修設計のため、現況確認の下調べ中に川へ転落した。	713	1	30～ 49
	0					
	1					
2008	11	～	被災者は、水路の測量作業に従事していた。作業終了後、同僚と道路脇に	231	17	50～ 99
	16		止めていた車に戻るために農道の脇道を歩いていたところ、後方から走行			
	17		してきた乗用車にはねられて死亡した。			
2008	7	～	被災者は、林道建設予定地の測量作業の下見のため同僚1名と共に現場の	715	11	1～9
	14		山中を歩いていた。14時30分、同僚に疲労を訴えて日陰で休息してい			
	15		た。30分経っても回復しないため、救急車を呼んだが、救急車の入れない山中のため被災者の搬送に時間がかかり死亡した。			
2008	12	～	デスク、キャビネットの搬入組立作業を4名で行った後、ワゴン車に4人乗	231	17	1～9
	17		車して自動車道を走行中、追い越し車線から車線変更の際、トンネル内の			
	18		側壁に接触した反動で追い越し車線側の側壁に衝突し横転した。その際、			
			後部座席に座っていた被災者が車外に投げ出され死亡した。同乗の二人も負傷した。			
2008	11	～	被災者は工事現場で現場代理人及び作業者に指示を行った後、本社に戻る	231	17	50～ 99
	8		ために自家用の軽自動車にて国道を走行していたところ、運転操作を誤り			
	9		道路脇の看板電柱（直径約40cm）に衝突して死亡した。			
	17		岸壁に客船が着岸したので係船のためにロープを岸壁の係留ビットにかけ			30～

2008	2	～ 18	る作業をしていた。その際、岸壁から約1.5m下の海面に転落して死亡した。	419	10	49
2008	9	～ 17	16 型枠資材置場にある焼却場所（資材の切り出しで発生した廃材を焼却するためのピット）付近で消火器を使用したところ、消火器の底板が破裂して当たり死亡した。	319	15	0
2008	1	～ 12	11 被災者は、倉庫の改修にかかる内装の損傷状況調査を行うため、2階にあるステージ上（2階床からの高さ約3m）で天井ボードの損傷状況を確認していたところ、荷揚げ用開口部から墜落して死亡した。	418	1	10～ 29
2008	8	～ 13	12 ドラグ・ショベルを作業現場に移送する途中、橋上を自走していたところ、橋（幅2m（最大2m40cm））から約8m下の谷底へドラグ・ショベルと共に墜落した。	141	1	1～9
2008	11	～ 14	13 中2階でパネルに紙を糊づけする作業中に開口部（高さ約3m）から墜落した。	414	1	1～9
2008	3	～ 13	12 原付バイクで担当現場を移動中、信号のない交差点で出会い頭に軽自動車と衝突した。	231	17	100～ 299
2008	2	～ 11	10 攪拌機付き移動式タンク（高さ約210cm、重さ523kg）をフォークリフトでつり上げて移動後、当該タンクを二人で手で押して移動させていたところ、当該タンクが倒れて被災者が下敷きとなり死亡した。	162	6	1～9
2008	4	～ 3	2 被災者は、同僚作業員2名と共に、3箇所に別れて水門の月例定期点検作業を行った。点検作業終了後、水門を開閉（上下動作）するための歯車付近で歯車に巻き込まれて死亡しているところを発見された。	121	7	1～9
2008	10	～ 7	6 事業場所有の小型乗用車で片側一車線の国道を走行中、中央線をはみ出して対向車線を走行していたトレーラー（最大積載量20t）と正面衝突した。	231	17	30～ 49
		7	下草刈等の下見をするために境内を見回っていた際、敷地内にある軌道			30～

2008	10	8	～	(斜面移動装置8人乗り)稼動中の軌道内に立ち上がったためカウンターウエイトにはさまれた。	239	7	49	
2008	10	14	～	15	エレベーターの点検を行うに当たり、4階に停止していた搬器に乗り込むために2階から付近の階段を使って4階へ向かった被災者が、搬器のない3階でエレベーター外扉を開放したため、18.4m下のエレベーターピット床面に墜落した。	214	1	1～9
2008	5	9	～	10	被災者は、海外にある当該事業場が設置したLNG装置の運転調整のために同所へ出張して装置貯槽に設けられたプラットホームでバルブのチェックをしていたところ、別の作業で取り外されていたグレーチングの開口部から2.84m下のコンクリート床に墜落した。	414	1	1000～9999
2008	3	18	～	19	業務委託先の事業場内の階段の踊り場で、頭を押さえずくまっている被災者を事業場の保安係が目撃した。その後、更衣室でしゃがみ込んでいる被災者を病院に連れて行ったが、入院後、死亡した。	413	1	30～49
2008	10	11	～	12	被災者ら3名は、イベント会場設営ための事前の下見作業中、宴会場の天井裏に敷設された歩廊上で天井バナー吊のつり元の状況確認を行っていた際、付近の写真撮影をしていた被災者が、厚み約1cmの天井板を踏み抜き、会場床まで約15m墜落して死亡した。なお、被災者は保護帽及び安全帯を携帯していたが着用していなかった。	418	1	30～49
2008	11	15	～	16	定期的な電気使用量のメーター検針業務を行うにあたり、事務所棟の2階屋上に設けられた受変電設備へ向かうため、通路の内側から高さ1m40cmの手すりを乗り越えて屋上の床面に着地したところ、バランスを崩して床面から高さ62cmのパラペットを越えて5m45cm下の地面に墜落した。	418	1	10～29
2008	5	22	～	23	出張業務終了後、駅まで乗用車の助手席に乗り移動中、車がセンターラインをオーバーして対向車のダンプカーと正面衝突した。	231	17	100～299
2008	3	14	～		高層マンションの地下立体駐車場で、駐車設備(トラクション式自動車運搬用エレベーター)の修理作業をおこなっていたところ、他の作業者が駐車設備を上昇させたためカウンターウエイトが降下して、搬器上で作業	214	6	1～9

		15	していた被災者が当該カウンターウエイトに激突されて3.5m下の床に墜落した。			
2008	1	12 ～ 13	気温6.3℃、風速7.2m/sの気象状況下で事業場内の滝湯にて行われた「初滝」に従事し、禪に襦袢の姿で体に滝水を浴びた後、水に濡れたままの状態で信者の滝行に約20分立ち会った。その後、更衣室で着替え中に卒倒し、病院に搬送されたが死亡した。	715	11	1～9
2008	6	9 ～ 10	マンション管理人である被災者が荷物搬出入業者のトラックと電柱にはさまれ死亡した。	221	17	100 ～ 299
2008	6	12 ～ 13	変電設備の保守点検作業中に高圧電流（6600ボルト）の通電部分に接触して死亡した。	352	13	30～ 49
2008	7	8 ～ 9	出勤途中の被災者が玄関階段付近を通過した際に転倒して死亡した。	413	2	30～ 49
2008	10	14 ～ 15	被災者が粉殻サイロ（高さ12.14m、幅6.74m、奥行き10.3mでその底に2箇所排出口がある構造）内に入り、粉殻の均し作業を行っていたところ、サイロ内に貯まった粉殻をトラック荷台に積み込みするため、粉殻サイロ底の排出口を開けたとき、粉殻サイロ内の粉殻が流動して中にいた被災者らが粉殻内に吸い込まれ被災した。	418	1	10～ 29
2008	10	14 ～ 15	被災者が粉殻サイロ（高さ12.14m、幅6.74m、奥行き10.3mでその底に2箇所排出口がある構造）内に入り、粉殻の均し作業を行っていたところ、サイロ内に貯まった粉殻をトラック荷台に積み込みするため、粉殻サイロ底の排出口を開けたとき、粉殻サイロ内の粉殻が流動して中にいた被災者らが粉殻内に吸い込まれ被災した。	418	1	10～ 29
2008	2	7 ～	業務に係る講習を受講するため、事業主が運転する軽乗用車に被災者が同乗して講習会場へ向かう途中、凍結した路面でスリップして対向車線には	231	17	1～9

		8	み出し、対向してきた冷蔵冷凍トラックと正面衝突した。			
2008	2	7 ～ 8	業務に係る講習を受講するため、事業主が運転する軽乗用車に被災者が同乗して講習会場へ向かう途中、凍結した路面でスリップして対向車線にはみ出し、対向してきた冷蔵冷凍トラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2007	4	1 ～ 2	運転代行で客を送り届けた帰りに、センターラインをはみ出した普通乗用車と正面衝突した。	231	17	10～ 29
2007	1	9 ～ 10	共同牧場において、牧草地の改良を目的とした肥料散布の作業を行うにあたり、被災者が車両系建設機械（掘削用）を運転し、肥料12袋をモッコに入れ、それをバケット裏のフックに掛けてつり上げ、肥料散布箇所へ運搬するため、約25度の傾斜地を走行中、当該機械が転倒し、被災者が当該機械と地面にはさまれた。	141	2	10～ 29
2007	5	22 ～ 23	被災者は代行運転の軽自動車を運転し、客車を追走していた。途中、堤防上の道路の左カーブにさしかかったところで道路から約5mの崖下に転落した。	231	17	1～9
2007	11	9 ～ 10	軽ワゴン車で農産物を運搬する途中、国道上でセンターラインをはみ出して対向してきたトラックと正面衝突した。	231	17	10～ 29
2007	6	16 ～ 17	地籍調査測量中、被災者は測量地点にてポールを保持する作業を行い、他の測量地点へ移動中に姿が見えなくなったため同僚が探したところ、牧草用地内に倒れているのが発見された。	715	11	10～ 29
2007	5	10 ～ 11	市役所3階屋上に設置してある空調用冷却塔（クーリングタワー）の清掃作業時に、約8m下の1階屋上に墜落した。	418	1	1～9
2007	11	1 ～ 2	被災者は、魚市場へ鮮魚を運搬するためトラックを運転していた際、走行車線ガードレールに接触したため走行車線のガードレールの状態を確認していたところ、対向車が被災者の車に衝突し、そのはずみで被災者をはね	221	17	50～ 99

			た。			
2007	11	16 ～ 17	被災者は、中古車の清掃工場において、車体後部の清掃作業を行っていたが、後方から移動してきた別の車と自らが清掃を行っていた車との間にはさまれた。	231	7	10～ 29
2007	2	10 ～ 11	学校の用務員として常駐している被災者が、体育館の天井に設置されている照明の切れた電球の取替えのため天井裏に入っていたが、天井板を突き破り約8.6m下の体育館床まで墜落した。	415	1	300 ～ 499
2007	3	8 ～ 9	建物の維持管理業務中、10階廊下手摺り上部に異常を発見し、その後、作業中に10階から転落した。	418	1	30～ 49
2007	9	11 ～ 12	事業場内において、被災者が暴漢にハンマーで殴打され、死亡した。	364	6	1～9
2007	4	9 ～ 10	自動車道路側帯でタイヤパンク修理作業を行っていた被災者が、作業を完了し社用サービスカー（レッカー車）の助手席側ドアを開け出発準備を行っていたところ、後方から来た4tトラックに追突された。災害発生箇所は片側2車線、路側帯は3mの幅であった。	231	17	1～9
2007	8	14 ～ 15	被災者は会社所有の普通車に乗り1人で事業場を出発し、県道を走行中、左カーブにおいてセンターラインを越え対向車線にはみ出し、対向車線を走行してきたダンプカーと正面衝突し、さらに被災者の車両の後方を走行していた車と衝突した。	231	17	1～9
2007	5	20 ～ 21	営業活動を行い、その帰路の路上にて、被災者が運転する乗用車が路肩に接触し、パンクし（接触、パンクの順序は不明）、ガードレールを大破後、植樹に激突した。	231	17	10～ 29
2007	8	16 ～ 17	灯油貯蔵タンク内の製品のサンプル採取を行うためにタンク上に登った作業員が、高さ約10mのタンク上から墜落した。	418	1	50～ 99

2007	4	22 ～ 23	被災者は同僚の運転する車の助手席に同乗し、運転代行の依頼のあった客先へ行く途中、交差点で青信号で走行していたところ、対向方面より走行の車が右折禁止場所であることに気付かずに、直前に右折してきたために被災者の同乗する車と衝突した。	231	17	30～ 49
2007	11	10 ～ 11	資材配送センター敷地内の駐車場で融雪装置の点検作業を行っていた被災者が2 t ダンプトラックにはねられた。	221	6	300 ～ 499
2007	6	1 ～ 2	主要地方道を社用車で走行していたところ、対向車（酒酔い運転）が中央線をはみ出し、社用車の右フェンダー付近に衝突し、社用車を運転していた被災者が死亡した。なお、同乗者は軽傷であった。	231	17	30～ 49
2007	8	8 ～ 9	建設会社の経理監査業務に向かうため、被災者は乗用車で自動車道走行車線を走行中、渋滞により車列の最後尾に停車した。そこへ、追い越し車線を走行してきた大型トラックが前方のバスを追い越そうとして走行車線に車線変更した際、停車中の被災者の乗用車に追突、乗用車が炎上した。	221	17	1～9
2007	11	11 ～ 12	自社新潟店に出張し、2階事務室で打ち合わせするため2階へ通ずる階段を上っていたところ階段から転落した。	413	1	30～ 49
2007	9	2 ～ 3	木造住宅の外構工事及びメンテナンスを行う事業場の営業所長の立場にあった被災者は、法事のために休暇を取得して、自宅において、午前4時頃、目を覚ましトイレに行き戻ってきたところ、頭が痛いとうずくまったため救急車で病院に搬送されたが死亡した。発生前に過重労働があった。	921	90	1～9
2007	2	14 ～ 15	橋梁の補修設計のために、現地でのエアボーリング立会いのために自動車を運転していたところ、「気分が悪い」と言って、路肩に車を止めてハンドルにうずくまった。同乗者が声を掛けるも反応が無かったため、病院に搬送されたが死亡した。	921	90	10～ 29
2007	2	8 ～ 9	建設コンサルタント業の技術職として、出張し、業務に従事していたところ、宿泊先ホテルの客室で死亡しているのが発見された。発病の前月の9時間外労働は長時間で休日出勤も多い状況にあった。	911	90	300 ～ 499

2007	4	23 ～ 24	2階のトイレにおいて、被災者が仰向けに倒れているところを発見された。	419	2	100 ～ 299
2007	6	1 ～ 2	被災者がBF-18排風機の清掃作業を行っていたところ、清掃していた排気ファンが突然回り始め、被災者が巻き込まれた。	169	7	10～ 29
2007	2	10 ～ 11	月100時間を超える時間外労働が約4ヵ月続いたあと、自宅で首をつつて自殺した。	921	90	10～ 29
2007	6	6 ～ 7	災害発生日の前日から泊り込みで片付け作業を行っていた。単独で作業していたことから、夜間に仮眠等の休養をとっていたかは判然としないが、災害発生時点において被災者は自ら体調の不良を警備員に訴え、病院に搬送されたが死亡した。	999	99	1～9
2007	12	9 ～ 10	中国出張中、先に帰国する上司を空港に送る途中、同乗の車が交差点を通過する際に一時停止を怠り直進したところ、右方向から直進してきた車と衝突した。衝突の際に窓から上半身のみが出た状態となり、その状態のまま車が上下に反転し、巻き込まれた。	231	17	300 ～ 499
2007	3	20 ～ 21	事務室を出てトイレに行くために階段を下りたところ7階から6階の間の踊り場に転落した。	413	1	10～ 29
2007	1	17 ～ 18	事務所へ戻るために自動車道を走行中に、タイヤがパンクしたため修理しようと車の外に出ているときに、後方から来たトラックに追突された。	221	17	1～9
2007	5	1 ～ 2	帰社する際に県道を走行中、対向車線から追い越しのためにセンターラインを越えてきた車両と正面衝突した。	231	17	10～ 29
			飲食店等の看板の保守点検を行う事業場の作業員2名が、計2店舗の既設			

2007	12	11 ～ 12	看板の修理を高所作業車を使用して行った後、事業場へ戻るため、片側3車線の高速道路を走行中、追越車線を走行していた高所作業車が中央分離帯に接触、はずみで道路左側のガードロープに激突し横転、助手席の被災者が死亡し、高所作業車を運転していた同僚が負傷した。	146	17	10～ 29
2007	1	14 ～ 15	当該事業場で巡回管理しているマンションにおいて、1階エントランスのひさし部分に雨水がたまるため、被災者がひさし部分の排水ドレン周辺を確認しようと、ひさし部分（高さ約3m）に脚立をはしご状に伸ばして立て掛け、上り始めたところ、途中で脚立から地上に墜落した。	371	1	100 ～ 299
2007	6	17 ～ 18	軽自動車を運転し、同僚宅の駐車場から国道に出ようと右折した際、走行してきた2tトラックが自車右前方に激突した。	231	17	10～ 29
2007	8	13 ～ 14	被災者は、横断測量のため光波測距儀の設置された林道の路肩から約5.5m下方の位置でポールを立てていたところ、その位置から2m下の斜面に転落し、そのまま斜度約40度の斜面を約40m滑落した。	711	1	1～9
2007	9	1 ～ 2	自動車運転代行業を営む当該事業場に雇用される作業員2名は随伴用自動車に同乗し、待機場所に向かっていた。県道を北に向け緩いカーブを走行中、進路右側建物基礎に自動車前部を衝突させ、更に車体後部左側面を電力柱に激突させ、助手席に同乗していた被災者が死亡した。	231	17	30～ 49
2007	12	3 ～ 4	被災者が運転する普通貨物自動車が、凍結路面でスリップして対向車線にはみ出し、路肩脇にある路端を示す支柱に激突した後に斜面に乗り上げて横転し、衝撃で車外に投げ出され、対向車線を走行してきた11tトラックにはねられた。	221	17	1～9
2007	8	8 ～ 9	被災者は、合材工場内において、アスファルト骨材（砂利）の水分量検査に必要となる試料採取のため、ストックヤード付近を歩行していたところ、ストックヤードからコールドホッパーに骨材を投入していたトラックター・ショベルが後進した際にひかれた。	141	7	1～9
		10	被災者は、スキー場内の地滑り発生現場にて、縦断配水管の状況を確認するため、既存地下マンホール（深さ約10m、管直径約65cm）内部に			100

2007	7	7 ～ 11	進入し、昇降設備を下降している途中、約5m下へ墜落し、死亡した。なお、当該マンホールの酸素濃度は4.4%（事故直後）であった。	418	12	～ 299
2007	9	16 ～ 17	倉庫内に積まれている米の出荷を行うためフォークリフトを取りに行った被災者が戻ってこないため、同僚が探しに行ったところ、別の倉庫内で小麦の入ったフレコンバッグ（1袋1t）で構成されたはい（最大高さ4,3m）が崩れ小麦が散乱しており、フレコンバッグをよけたところ下敷きになっている被災者を発見した。	611	5	50～ 99
2007	7	10 ～ 11	被災者は農業用水路のゴミを取り除くため、所属事業場のライトバンで移動していた。交差点を横断したところ、交差路線を直進してきた飼料運搬用のローリー車が、ライトバンの助手席側に衝突し、助手席に座っていた被災者が死亡した。	231	17	50～ 99
2006	3	0 ～ 1	被災者は、泊まりの業務が続いていた。口数が少なくなり、表情が暗くなったので、上司と面談し、少し早めに帰宅させた。その後被災者が無断欠勤をしたので、家族に連絡を取ると行方不明となっており、行方を捜していたところ、後日林の中で自殺しているのが発見された。	921	90	30～ 49
2006	6	13 ～ 14	配置転換により新規事業に係るコンピューターシステムの構築を担当することとなったものであるが、配置転換以前から恒常的な長時間労働が認められ、配置転換以後も深夜に及ぶ時間外労働が重なっていた被災者が、電車に飛び込み自殺をした。	921	90	100 ～ 299
2006	4	22 ～ 23	被災者の担当する工事関し、誤った指示をし、同指示に基づいて施工されるといふ出来事があり、その対応のため長時間労働を行っていた被災者が神社境内にて自殺した。	921	90	1000 ～ 9999
2006	6	6 ～ 7	被災者は自宅で死亡しているところを発見された。	911	90	300 ～
2006	11	16 ～	国外で、業務のため、車で道路を移動中、後続車が追い越したが、対向車が来たために、追い越した後続車が被災者の乗った車の方に戻ったことに	231	17	1～9

		17	より、被災者の乗った車と激突し、被災者の乗った車がスピンして、被災者が車外に投げ出された。			
2006	10	6 ～ 7	ミニバイクにて新聞配達中、上り坂途中の交差点で、右折車（Kワゴン）と出会い頭に衝突した。	231	17	30～ 49
2006	11	1 ～ 2	軽乗用車により代行運転業務中、客の車を取りに行くため県道交差点を右折する際、対向車線を直進してきた乗用車が軽乗用車の左側面に衝突した。衝突により助手席に乗っていた代行運転手（被災者）が全身を強く打ち死亡し、運転者も重傷を負った。	231	17	10～ 29
2006	11	17 ～ 18	被災者は、フェリー乗り場内において、トラック等が乗船する際の誘導等の作業を行っており、次に乗船させるトラックを探していたところ、同乗り場内で、トレーラーのシャーシ等を船に積み込む作業を行っていた別会社のトレーラーの運転手がトレーラーのヘッド部分のみを運転し、次に船に積み込む予定になっていたドラグ・ショベルの位置まで行く途中、走行路を右折したところで、被災者に激突した。	221	6	50～ 99
2006	4	14 ～ 15	事業場ビル1階から、仕事で地下街へ行く為、外階段を降りる際、突風に煽られ階段下に転落した。	413	1	1000 ～ 9999
2006	11	9 ～ 10	船場から作業船に乗船し、川を下って整備工場へ向かう途中、船から川に墜落した。	239	10	10～ 29
2006	8	16 ～ 17	2名で事務所用エレベータの法定定期点検を実施中、搬器上にあるドア速度制御装置の確認（調整）をするため、最上階である8階に停止していた搬器を7階に下げ、被災者が8階から搬器上に乗り込み、作業を行っていたとき、搬器内にいた同僚が上昇スイッチを入れたため搬器が上昇し、搬器上で作業を行っていた被災者が搬器とエレベータシャフトの壁（出入口側）との間に挟まれた。	214	7	50～ 99
			寮の委託管理業務を住み込みで行っている被災者は、管理業務の一部であ			

2006	8	18 ～ 19	る建物内の巡回を行っている途中、1階の廊下で転倒し、体を強打した。被災後、被災者は自力で管理室に戻ったが、翌日の朝、自宅リビングで倒れている被災者を家族が発見し、病院へ搬送されたが死亡した。	417	2	1～9
2006	10	17 ～ 18	粉の乾燥調整施設において、被災者はサイロ（粉殻庫）内の粉殻の片寄りを調整するために1人でサイロ内へ入ったが、その後死亡状態で発見された。	529	5	300 ～ 499
2006	10	14 ～ 15	米の貯蔵倉庫にて、倉庫内に鳩が入っていたのを発見し、倉庫の電気を消して倉庫入り口のシャッターを閉めて鳩を捕まえようとしていたところ、はい付けした米俵の上、約2.2mの高さから地面に墜落した。	611	1	10～ 29
2006	2	8 ～ 9	マンション内の樹木（ケヤキ）の剪定作業中、樹木上部の剪定作業を一部終了し、下部にひっかかった枝を取除こうとしていたところ、約4.6メートルのはしごから墜落した。	371	1	100 ～ 299
2006	9	21 ～ 22	信号機の設置されていない交差点内を被災者らが乗用車で東進中、左方向から南進してきた乗用車と衝突、助手席に乗っていた被災者が身体を強く打ち死亡した。運転していた同僚も被災した。	231	17	10～ 29
2006	9	8 ～ 9	調理場で、てんぷら油が入っている鍋が高温なり、燃え上がった。被災者は、鍋をコンロから床に降ろし、消火器で消火作業をしたとき、火傷した。	391	16	1～9
2006	9	15 ～ 16	モニタリング調査を終えて下山途中に同僚からはぐれ行方不明となり、翌日川で発見された。被災者らが下山のため移動していた場所には道は無く、藪をかき分けながら進んでいた。	711	1	10～ 29
2006	9	20 ～ 21	集合住宅のエレベーターが5階に停止したままとなっているとの通報により、一人で出勤した労働者が点検開始したがその後、連絡がなかったため、翌日、他の労働者が出勤し確認したところ、エレベーターの搬器の上で倒れており、天井と搬器の上部にはさまれていた。	214	7	1～9
		9	分譲マンション管理人が、鍵を持たずに外出して部屋に入れなくなった二階住民に鍵を開けるよう依頼され、許可を得て同室真上の三階バルコニーに			100

2006	9	～ 10	立ち入り、手すりにロープを掛け、ロープを伝って二階ベランダへ降りようとして墜落した。	379	1	～ 299
2006	7	～ 18	被災者は霊園内で、バケツ10杯分の土を掘り、一輪車で運搬する作業後、草や竹などを屋外の焼却用の穴に入れ焼却する作業を社長とともに い、霊園内のベンチで休憩した。その後、被災者を目撃したものはおら ず、被災者を捜索していたところ、休憩したベンチ南側の崖から約15 m下に被災者が転落しているところを発見した。	715	11	1～9
2006	7	18 ～ 19	出張の仕事先から移動のために乗車したバスが交通事故に遭い、乗客として乗っていた被災者が死亡した。	231	17	50～ 99
2006	8	～ 14	マンションに併設している14階建て立体駐車場の定期点検のため、中央 の昇降するリフト（車専用の搬器）に専用の足場板を敷詰め最上段まで昇 降し巻上機の点検後、リフト上で小休憩をとり、各車室の点検作業開始し 直後の13階の車室に移動する際に足を踏み外し約2.2mの高さから墜落 した。	418	1	1～9
2006	7	8 ～ 9	被災者は、タイムカードを打刻後、別棟にある作業場所に向かうため、2 階から1階に階段を降りていく途中、1階から1箇所目の踊場で転倒し て、重傷を負い、後日死亡した。	413	2	100 ～ 299
2006	7	14 ～ 15	土砂採取現場において、地山の法面の下部付近で測量作業中に、土砂崩れ に巻き込まれた。	523	5	1～9
2006	8	～ 11	河川敷の雑草を刈った後、トラクターで牽引したロールベアラ（刈り取っ た草をロール状にする機械）で草を集積する作業を計5人で行っていた。 1名がトラクターを運転しロールベアラをバックさせながら草を集積し、 被災者が土手の中腹にたちトラクターの誘導を行っていたが、足を滑らせ た被災者は転倒し、ロールベアラのタイヤに轢かれた。	169	7	30～ 49
			ガス管敷設替工事現場（片側、車両通行可）において、一般車両がふらつ			

2006	7	15	きながら進行してきて、始めに道路脇に停車中のドラグ・ショベルに接触し、更にふらつきながら加速してきた。そのため、当該車両が進行してきた方向の誘導をしていた誘導員が当該車両を停止させようと道路上に出たところ、当該車両に轢かれた。	231	17	50～ 99
2006	6	13 ～ 14	地形測量のため、2名1組となり2組（計4名）で光波測距儀により河川敷脇の崖の測量をしていた。うち1組の反射板を持つ側の作業員（被災者）が、崖上法面の、測定点とする端に近づいたところ墜落しそうになったので、生えていた竹につかまったが崖側に宙吊りの状態となった。他の作業員3名が駆けつけ、引き上げようとしたが、約10メートル下の河川敷に墜落した。	711	1	1～9
2006	6	5 ～ 6	料金所において、被災者は業務に就くため、作業場所に向かう途中、ETC運用しているレーンを横断した際に、通過中の車両（大型貨物12.4トン）にはねられた。	221	17	10～ 29
2006	6	14 ～ 15	被災者は、社員寮改修工事の見積書の内容を確認するため、5階建ての寮の屋上で写真を撮っている際、屋上から約14.6m下の隣地駐車場に墜落した。	418	1	10～ 29
2006	5	12 ～ 13	帰社のためバンを運転中、路上駐車していた大型トレーラーの後部に衝突した。	231	17	1～9
2006	5	14 ～ 15	船外機の付いた小型船舶（最大乗船人員3名）を1人で操船し、漁港湾外での海水取水（牡蠣漁許可に伴う水質検査提出用）作業を行い漁港に戻る途中、漁港防波堤の灯台付近で海中に転落した。	239	10	1～9
2006	5	14 ～ 15	被災者は、熊手を使用して用水路のゴミを引き上げる作業を行っていたところ、用水路に転落して流され、約200メートル下流の分水工（水門）付近で発見された。	713	10	10～ 29
2006	5	20 ～ 21	冷温水機の点検のため9階屋上の明り取り用ガラスの上を歩いていたところ、ガラスが割れて8階に墜落した。	418	1	10～ 29

2006	2	0 ～ 1	被災者がビルの屋上に設置された1階店舗の換気扇の排気装置の状態を確認するため、同ビルの屋上に上がったところ、屋上パラペット部から足を滑らせ、約21m下へ墜落した。	418	1	30～ 49
2006	3	9 ～ 10	被災者はろ過用活性炭の入れ替えを行うため、屋外に設置した吸引車から吸引ホースを伸ばして、活性炭吸着塔内で活性炭の抜き取り作業を行っていたが、吸引車の操作者が吸引ホースの異音に気づき活性炭吸着塔内を覗いたところ、活性炭に全身が埋没した状態で発見された。	418	1	10～ 29
2006	3	0 ～ 1	被災者二人が、運転代行の依頼を受けて客の所へ向っている途中、路面凍結によりスリップしセンターラインをはみ出してきた対向車と正面衝突し被災した。	231	17	10～ 29
2006	3	10 ～ 11	境内において、高さ約15メートルのもみの木を伐採するため、チェーンソーで、木の上部から順に適当な長さで玉切り作業中、高さ約11メートルの箇所から切った木と共に地面に墜落した。	712	1	10～ 29
2006	1	18 ～ 19	維持管理を行っている道路において被災者が、交通整理をしていたところ、走行してきた車両が凍結した路面でスリップして被災者に激突した。	231	17	50～ 99
2006	3	11 ～ 12	出張途中、交差点にて信号待ち停車中に、後続車のトラックが追突。その弾みで前に停車中のタンクローリーに追突し被災者の車が大破。車に同乗していた3名のうち1名が死亡、2名が重軽傷を負った。	221	17	10～ 29
2006	3	17 ～ 18	災害用地測量業務において、川を挟んで分かれた川岸付近で、対岸の相方が測量器を見ながら、被災者が境界標識杭打ち作業を行っていたところ、岩が切り立った箇所となり先に進めず、一旦、下流の橋を渡って相方側の岸を通り上流の橋を回って作業を進めることになったが、被災者の姿が見えなくなった。搜索の結果下流の中州で発見された。	711	10	1～9
2006	2	13 ～ 14	被災者は、事業場所有の軽トラックで客先から帰社するため、市道上（片側二車線）を走行中、道路左の電柱に衝突した。	221	17	100 ～ 299

2006	2	18 ～ 19	出荷用の米を、翌日の出荷時に出荷しやすいように位置を替える作業をフォークリフトで行っていた被災者が、終業時間を過ぎても事務所に戻らないため同僚が様子を見に行ったところ、荷とフォークリフトに挟まっていた。	222	6	10～ 29
2005	5	14 ～ 15	事業場の敷地内を歩行移動していたところ、後退してきたごみ収集車にひかれた。	221	7	1～9
2005	6	10 ～ 11	貯鉱場にある石灰石の砕石の貯留量を測量中、砕石をホッパー下部から出荷していたため砕石が動き、測点を移動していた被災者がホッパー内の砕石に埋没した。	523	5	10～ 29
2005	4	0 ～ 1	岸壁に接岸された船に給水作業を行った後、給水量を確認するため給水メーターを確認していたところ、背後からフレコンバッグをつって走行してきたフォークリフトにひかれた。	222	7	1～9
2005	4	8 ～ 9	社員研修で登山中、呼吸が早くなり手が硬直し始め、過呼吸症候群の症状が出たため、応急措置を取るも改善されず、病院に搬送された後、死亡した。	715	11	300 ～ 499
2005	9	21 ～ 22	出張先で県道の横断歩道を横断中、左側から走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	1～9
2005	8	0 ～ 1	水深60mの海底に沈没した貨物船の船体破損状況及び燃料タンクの状況を調査中に溺れた。	713	10	10～ 29
2005	2	17 ～ 18	オートバイを運転し交差点を直進中、右折してきた軽自動車と接触した。	231	17	10～ 29
2005	1	4 ～	自宅で就寝中、子供が夜泣きをしたため起床し、あやしていたところ突然倒れた。	911	90	300 ～

		5				499
2005	8	11 ～ 12	岸壁において船より荷揚げされた貨物の検査業務中、走行してきたフォークリフトにひかれた。	222	6	50～ 99
2005	6	12 ～ 13	社用車で造船所構内を走行中、岸壁から車とともに海に転落した。	231	10	300 ～ 499
2005	6	11 ～ 12	片側1車線の道路を走行中、対向車線にはみ出し、対向してきたトラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2005	5	7 ～ 8	材料置き場で、丸太の束を別の材料置き場に移動させるため、ドラグ・ショベルにて丸太の束をつり上げ、トラックに載せる作業中、トラックの荷台に乗っていたところ、つり上げていた荷の玉掛け用ワイヤロープが切れ、被災者の上に落下した。	142	4	1～9
2005	9	15 ～ 16	立体駐車場天井の熱感知器の点検作業中、操作室にいた作業者が誤って操作してしまい、車を載せるパレットに挟まれた。	391	7	10～ 29
2005	11	4 ～ 5	側道車線上において、停車中のトラックの荷台後方で積荷のシートを直していたところ、大型トレーラートラックが追突した。	221	17	1～9
2005	8	8 ～ 9	仮設電源用電工ドラムを機械搬入口から階下へ下ろすため、グレーチングをずらし、その下のゴミ除け金網を浮かせその隙間から電工ドラムを下ろそうとしていたとき、強度のないゴミ除け用の金網に足を乗せたため、金網がはずれて5m下に墜落した。	414	1	100 ～ 299
2005	10	20 ～ 21	自動車で高速自動車道を走行中、トンネル内で車が故障し、車の外部にいたところ、後部から別のトラックが故障車に突っ込み、被災者に激突した。	221	17	10～ 29

2005	3	13 ～ 14	乗用車で国道交差点を横断中、側方から来た大型貨物自動車と衝突した。	221	17	10～ 29
2005	12	10 ～ 11	もみ殻庫内のもみ殻残量等を点検していたところ、もみ殻排出口下部付近でもみ殻に埋もれた。	418	1	10～ 29
2005	10	9 ～ 10	ライトバンを運転中、片側1車線の緩やかなカーブで対向車のトレーラートラックに積載されたドラグ・ショベルが荷台上から落下し、ライトバンに激突した。	221	17	1～9
2005	12	10 ～ 11	ボーリング調査をしていた被災者が、ボーリング用の機械の掘削用円柱に上着のフード部分を巻き込まれた。	149	7	1～9
2005	8	16 ～ 17	駐車場内にある浄化槽の点検用の蓋を開け、内部をのぞき込んでいたところ、トラックにひかれた。	221	7	10～ 29
2005	1	16 ～ 17	部材を運搬するため、積み込んだ台車と機関車の上に棒をあてがい、棒を介して台車を動かそうとしたところ、棒が外れて機関車が脱線し、そのはずみで機関車が台車と衝突し、被災者がトロッコと機関車との間に挟まれた。	223	7	30～ 49
2005	12	5 ～ 6	国道を走行中、センターラインをはみ出してきた対向車と正面衝突した。	231	17	10～ 29
2005	11	4 ～ 5	業務を終え帰宅するため、事業場2階の事務所から1階出入口へ通じる屋内階段を下りたところ転落した。	413	1	50～ 99
2005	1	21 ～	出張先の工場において、突然倒れた。	921	90	1～9

		22			
2005	5	0 ～ 1	倉庫2階でフォークリフトを旋回しようとして後進したところ、荷物用エレベーターに衝突して、鋼製ドアを突き破り、8.4m下の1階に墜落した。	222	1 10～ 29
2005	9	1 ～ 2	料金所で料金收受業務を行っていた被災者が、異常E T C表示が出たレーンに向かおうとしてレーンを横断したところ、大型トラックにはねられた。	221	17 100 ～ 299
2005	2	11 ～ 12	出張先で国道をレンタカーで走行中、吹雪で前方の車両が停車していたため、様子を確認するため車外に出たところ他車に激突された。	231	17 10～ 29
2005	4	12 ～ 13	レストランで、レジ打ちを行っていたところ、突然倒れ、死亡した。	921	90 30～ 49
2005	6	19 ～ 20	出張先で歩行中、対向してきた乗用車に、はね飛ばされた。	231	17 100 ～ 299
2005	2	7 ～ 8	寮の管理業務に従事していた被災者が、管理室内で転倒した。	418	2 1000 ～ 9999
2005	8	0 ～ 1	海外にプロジェクトチームのリーダーとして現地出張していた被災者が、感染症で発病した。	911	90 100 ～ 299
2005	10	14 ～ 15	固結した石化樹脂をコンベヤー式固結物粉碎機でほぐす作業において、当該機械に巻き込まれた。	162	7 100 ～ 299
2005	10	13	構内を自転車で走行中、後進してきたフォークリフトに巻き込まれた。	222	7 10～ 29

		14			
2005	7	7 ～ 8	寺院において、古くなった卒塔婆を焼却処分していた僧侶が、火炎の中に転倒した。	371	2 1～9
2005	11	10 ～ 11	運転代行業務のため、同僚が運転する客の車の後方を随伴車で走行していたところ、センターラインをはみ出して走行してきた対向車と正面衝突した。	231	17 10～ 29
2005	12	11 ～ 12	建物屋上に設置してある貯水槽の内部を調べるため、貯水槽に設けられたタラップを昇っていたところ、墜落した。	418	1 1～9
2005	6	16 ～ 17	収穫した梅を回収するため、軽トラックにて回収場所へ行く途中、車ごと道路から転落した。	221	1 10～ 29
2005	6	21 ～ 22	運転代行業務を終えて国道を走行中、コンビニエンスストアから国道に出ようとしたトラックと衝突して対向車線にはみ出し、さらに対向車と衝突した。	231	17 10～ 29
2005	4	14 ～ 15	測量作業において測点を移動するため道路路側帯を歩行中、後方から走行してきた乗用車にはねられた。	231	17 10～ 29
2005	8	13 ～ 14	野菜出荷施設の敷地内から、原動機付き自転車（バイク）を運転して外に出たところ、マイクロバスの前面部に衝突した。	231	18 300 ～
2005	11	17 ～ 18	地質調査のため山に入り、沢沿いの斜面を下山中、滝の付近から滑落した。	711	1 1～9
2004	4	11 ～	町道で、送迎用マイクロバスの方向転換をされていて、道路から脱輪していないか確かめるためバスからおり、バスの前に回りこんだところ、無人の	231	7 1～9

		12	マイクロバスが前方に動き出し、そのマイクロバスと民家のブロック塀の間に挟まれた。			
2004	3	8 ～ 9	足場材（鋼製布板等）を仮置きしている敷地内で、束ねていた鋼製布板（重量約750kg）が約2.4mの高さから落下し、被災者に激突した。	521	4	10～ 29
2004	2	1 ～ 2	運転代行業務中に国道を走行中、中央線を越えてきた乗用車と衝突した。	231	17	10～ 29
2004	11	10 ～ 11	事務所において打合せ中に突然倒れ、死亡した。	911	90	1～9
2004	3	18 ～ 19	送別会の会場へ向かう途中、横断歩道を歩行中に軽ワゴン車にはねられた。	231	17	100 ～ 299
2004	10	17 ～ 18	軽ワゴン車で走行中、中央線を越え対向車のトラックに正面衝突し、軽ワゴン車の運転者および同乗していた労働者2名が死亡した。	231	17	1～9
2004	10	17 ～ 18	軽ワゴン車で走行中、中央線を越え対向車のトラックに正面衝突し、軽ワゴン車の運転者および同乗していた労働者2名が死亡した。	231	17	1～9
2004	10	17 ～ 18	軽ワゴン車で走行中、中央線を越え対向車のトラックに正面衝突し、軽ワゴン車の運転者および同乗していた労働者2名が死亡した。	231	17	1～9
2004	6	14 ～ 15	トラックで走行中、道路の中央線を越え対向車の乗用車と正面衝突した。	221	17	10～ 29
		13	スキー場内において、高さ11mの鉄塔に上り、照明の調整作業終了後、			10～

2004	12	～ 14	ロープを使用して下へ下りようとしたところ、地面に墜落した。	419	1	29
2004	9	～ 14	もみ殻を4tトラックに積み込むため、トラックの荷台上で、ホッパーから荷台上に出されたもみ殻を敷き均す作業を行っていた際、荷台上にいた被災者が、積み込んだもみ殻に足を取られ、バランスを崩し、約3.5m下の地面に墜落した。	221	1	1～9
2004	3	～ 13	運転代行業務で客を送り、戻る途中、車が中央線を越えて対向車線にはみ出し、対向車線を走ってきたタクシーに衝突した。	231	17	10～ 29
2004	9	～ 15	河川調査の準備作業を行っていたところ、雨が降ってきたため、いったん左岸側に避難した。その後、右岸側に渡ろうと川を横切ったとき、急に濁流が押し寄せ流された。	713	10	10～ 29
2004	1	～ 10	地すべり防止工事調査等業務の現場において、アンカー調査ボーリング作業中、回転中のボーリングマシンのロッド部分に作業服が巻き込まれた。	149	7	10～ 29
2004	8	～ 12	クレーンアーム仕様のフォークリフトで飼料500kg入りフレコンバックをつり下げ、トラックまで前進で運搬していたところ、柱の基礎ブロックにフォークリフトが接触、横転した。	222	2	50～ 99
2004	12	～ 13	配送のため、トラックで信号停車中、後方より車両が追突してきた。	221	17	30～ 49
2004	6	～ 9	休日出勤にて出社した直後、急に体調不良となり救急車で病院に搬送されたが死亡した。	911	90	1～9
2004	9	～ 9	台風の接近に伴う強風下で、差し替え式になっている看板の取り付けを行っていたところ、強風にあおられ転倒した。	719	2	10～ 29

2004	8	13 ～ 14	電気集じん機の電線取替工事において、集じん機内の碍子室で、感電した。	169	13	1～9
2004	12	17 ～ 18	工場内で粉殻を灰にするための釜（高さ2m、直径2.3m）の上で、A重油に浸して丸めた新聞紙にライターで火をつけ、釜の中央にある筒状の煙突から投げ入れる作業中、体のバランスを崩して、着衣に引火した。	911	11	1～9
2004	11	10 ～ 11	ビルの地下に設置された貯水槽の検査中に、地上から3.8m下の地下室へ続く垂直のタラップから墜落した。	371	1	100 ～ 299
2004	2	0 ～ 1	社屋改装工事現場において、事務所棟内部換気扇のバンドキャップ取付け作業を行うに当たり、被災者は脚立の踏さんに両足を跨る格好で乗せた上、電気ドリルを使用し、事務所棟の壁の所定位置に穴を開ける作業を行っていたところ、身体のバランスを崩し、床面（コンクリート）へ墜落した。	371	1	1～9
2004	12	9 ～ 10	事業主、客、被災者の3人で海浜より沖約100mまで船で行き、事業主と客が海に潜り1時間後船にあがったところ、被災者の姿がなかった為、捜索したところ、約30mの海底でうつ伏せの状態で見つかった。	713	10	1～9
2004	4	9 ～ 10	トラックを運転中、前からきた大型トラックがセンターラインを越えてきたため避けられず正面衝突した。	221	17	100 ～ 299
2004	2	10 ～ 11	ベルトコンベアの点検のため会社所有の乗用車で国道を移動中、道路脇のガードレールを突き破り約15m下の川に転落した。	231	17	100 ～ 299
2004	11	8 ～ 9	入浴車を運転し、国道を走行中、センターラインを越え、道路右側脇の道路案内標識の支柱に激突した。	231	17	10～ 29
		10	墜落防止用ネットを4tトラックに積み込むため、同ネットが入った保管			10～

2004	11	～	ケースをフォークリフトでトラックの荷台上に置き、保管ケースから荷台	221	1	29
	11		に移し替える作業中、荷台からアスファルト舗装された地面に転落した。			
2004	6	～	最大積載荷重3.5 tのフォークリフトを運転して、本社から約100m離れた	222	2	50～
	6		同社資材置場へ移動中、同資材置場入口付近で右折した際にフォークリフ			99
	15		トが転倒し、同フォークリフトのヘッドガードの下敷きになった。			
2004	4	～	トレーラー型タンクローリーを運転し、高速道インターチェンジより本線	221	17	30～
	4		合流のためランプウェイを走行中、運転を誤まりランプウェイガードレー			49
	22		ルに接触横転、本線中央分離帯の縁石に激突した。			
2004	3	～	ビル解体現場において、飛散防止用シートを取り外す作業中、約8m下の	418	1	1～9
	3		解体がら上に墜落した。			
	10					
2004	3	～	造雪機の製氷機の修理を行うため、被災者は製氷機内に入り、他1名は製	391	7	30～
	3		氷機制御盤の位置で、製氷機内にいる被災者の指示で製氷機運転の入り、			49
	16		切りを行っていた時、被災者が製氷機ローターの羽部と下部支持アーム			
	16		に挟まれた。			
2004	7	～	構内排水路沿いで草刈機で雑草の除草作業を行っているとき、水路（水深	711	1	300
	7		1.8m）に転落した。			～
	10					
2004	11	～	立木の伐採をするため、立木にはしごをかけてチェーンソーで伐採作業	371	1	10～
	11		中、約3mの高さから地面に墜落した。			29
	16					
2004	9	～	木造家屋解体工事現場において、駐車スペースの内部の鳥居状の鉄骨が倒	415	5	1～9
	9		れ、被災者を強打した。			
	14					
2004	3	～	25tホイールクレーンを運転中、通行していた道路路肩が崩れ、約4.5m下	212	17	1～9
	3		の川に転落、溺死した。			
	8					

2004	8	11 ～ 12	家畜飼料の原料となるふすま（粉碎した小麦の皮）を貯蔵している原料タンク下部からのふすまの排出量が少なかったため、点検のためタンク内に入ったところ、ふすまの中に生き埋めとなった。	529	5	10～ 29
2004	4	21 ～ 22	バイクを運転中、対向して来た自動車と衝突した。	231	17	10～ 29
2004	10	13 ～ 14	ビルの壁に設置された懸垂幕を、台風に合わせて撤去する作業を行っていたところ、地上約19mの高さの塔屋部に設置された懸垂幕取付設備から地上に墜落した。	419	1	1～9
2004	9	14 ～ 15	台風による工場建屋の屋根等破損箇所復旧工事において、スレート屋根補修材料を取りに行くため隣接建屋のトタン葺き屋根上を歩行中、樹脂製波板の明り採り部に乗ったために当該波板が割れ、約8m下の工場床に墜落した。	415	1	1～9
2004	6	9 ～ 10	貨物自動車で国道を走行中、下り坂の左カーブで走行中の車線を逸脱、対向車線路側のガードレールに衝突横転し、車両ドア等に挟まれた。	221	17	10～ 29
2004	10	11 ～ 12	仮設構台設置工事現場でのH型鋼の建て込み作業において、H型鋼と土嚢の間に挟まれた水道用ホースを取り除くため、H型鋼を両手で掴んで手前に引いたところ、H型鋼が回転して足元に落下した。医療機関で治療後現場に戻り、帰宅のため乗用車に乗り込もうとしていたところ、突然倒れ、その後、救急車で搬送されたが死亡した。	521	4	1～9
2004	3	10 ～ 11	荷物用の簡易リフトの搬器からドラム缶の留金具を荷下ろしする作業に従事していた被災者が、何らかの理由によって下降した搬器の天井部分と2階床の間に挟まれた。	214	7	10～ 29
2004	1	14 ～ 15	暖房設備の修理作業中、ヒューズの型を調べるためにヒューズボックスを取り外していたときに感電した。	351	13	10～ 29

2004	6	3 ～ 4	原動機付自転車で新聞配達中、市道交差点で右折待ちをしていたところ、後方より走行してきた四輪自動車に追突された。	231	17	10～ 29
2004	7	18 ～ 19	積載荷重4 t のダンプトラックの荷台（床面から荷台までの高さ101cm）に機体重量2.5 t のドラグ・ショベルを自走により荷積み作業中、被災者が掛けた2枚の道板（2.9m×50cm）の内の1枚が外れ、ドラグ・ショベルが横転し、運転していた被災者が投げ出され、ドラグ・ショベルと横に置いてあった発電機に挟まれた。	142	2	1～9
2004	3	9 ～ 10	ポンプ場での異常通報装置の設置工事において、マンホール（開口部）から深さ約11mの雨水槽の底に転落した。	414	1	1～9
2004	5	11 ～ 12	高速道路料金所において徒歩でブース間を移動中、ETC用レーンに進入してきた車両に接触した。	221	17	100 ～ 299
2004	4	23 ～ 24	帰宅途中に電車内で倒れ、搬送された病院で死亡した。	921	90	10～ 29
2004	6	10 ～ 11	揚貨装置にて荷下ろしされた木材の束に、荷主ごとの番号をスプレーにて吹き付けて記載し、その番号に基づいて、フォークリフトが仮置き場に運搬する作業中、材木2束を積載し、前進にて走行中のフォークリフト（最大積載荷重6t）にひかれた。	222	7	1～9
2004	12	10 ～ 11	工場内において、亜鉛メッキ槽から排出される酸化亜鉛集じん機のマンホールを開け、フィルター交換及び粉じんの掻き出し作業を行っていたところ、当該集じん機内に滞留していた一酸化炭素を吸い込んだ。	514	12	1～9
2004	2	9 ～ 10	改修空調工事において、設置した冷温水配管のエアータスト終了後、配管端部のキャップ（ストラブカップリング）の取り外し作業をしていたところ、配管内の残圧でキャップが飛び、正面にいた被災者が吹き飛ばされ、3.4m下の地面に墜落した。	391	4	10～ 29

2004	10	11 ～ 12	手水鉢を据え付けるため、被災者が運転する原動機付運搬車で石を運んでいたところ、運搬車が横転し、被災者が投げ出された。	227	2	50～ 99
2004	10	10 ～ 11	5階建ての建物の4階にあるプレヒーター（石灰岩を仮燃焼させる炉）を解体する作業において、被災者が下部をガス溶断していたところ、溶断箇所上部の一部が落下し、被災者を直撃した。	418	4	1～9
2004	12	12 ～ 13	電話工事作業において、進行してきたワゴン車が片側通行の指示に従い右車線を走行中、突然左車線に侵入したため、左車線の通行規制区間内の作業場所付近で打ち合わせ中の被災者2名がはねられた。	231	17	1～9
2004	12	12 ～ 13	電話工事作業において、進行してきたワゴン車が片側通行の指示に従い右車線を走行中、突然左車線に侵入したため、左車線の通行規制区間内の作業場所付近で打ち合わせ中の被災者2名がはねられた。	231	17	1～9
2004	10	10 ～ 11	機械の点検作業を終え、帰社する途中運転を誤り、道路右側の土手に衝突した。	231	17	1～9
2004	2	6 ～ 7	事業所内の廃水処理場における沈殿槽において、沈殿槽内の水位測定を行おうと移動途中、なんらかの原因で手すりのある既設の通路から墜落した。	417	1	1～9
2004	7	15 ～ 16	屋根のない屋外にて検査等の作業に従事した後、熱中症となった。	715	11	300 ～
2004	7	9 ～ 10	住宅解体工事作業中、足場のテラスから約3m下の地面に転落し、クーラー室外機に激突した。	415	1	1～9
2004	12	8 ～ 9	駐車場に逸走防止のためアウトリガーでジャッキアップして駐車させていた高所作業車に軽油燃料を入れるため、ジャッキを下げたところ車両が後進して車両後部と隣接地の土止めブロックの間に挟まれた。	146	6	1～9

2004	10	8 ～ 9	2階木造建築物の解体作業中、玄関屋根上において前日取り外したカラーベスト（屋根材）の断片をフレコンバックに入れて、重機を使用して1階屋根上から下ろす作業に従事していた被災者が、屋根の上でフレコンバックの紐を重機のフックに引っ掛け、地切りをするまでその荷を手で支えていたところ、バランスを崩して屋根上で転倒し、そのまま高さ約3.3m下に墜落した。	415	1	10～ 29
2004	2	16 ～ 17	粉碎室において、移動式の階段を使用して粉碎機の投入機より原料を投入していたところ、階段の脇で倒れた。	999	99	10～ 29
2004	1	0 ～ 1	バイクで走行中、信号機のない交差点で左側からタクシーがいったん停止後、交差点に進入してきて出会い頭に衝突し、対向車線に飛ばされ、対向車線を走行してきた乗用車に接触した。	231	17	1～9
2004	6	13 ～ 14	枝刈機械（乗用型中刈機）で茶畑の枝刈り作業を行っていたところ、当該茶畑の農道脇から谷に機械と共に転落した。	169	1	1～9
2004	2	12 ～ 13	代行運転のため、社用軽自動車で行中、道路左側の民家のブロック塀に衝突した。	231	17	10～ 29
2004	12	13 ～ 14	脚立を使用し、のこぎりで立木の枝切りを行っていたところ、脚立が倒れ、転落した。	371	1	30～ 49
2004	4	11 ～ 12	葬儀場館内の清掃を行おうと床に洗剤をまき、洗浄機で洗っていたところ、配達先から戻ってきた被災者が洗剤で足を滑らせ転倒した。	419	2	30～ 49
2004	3	11 ～ 12	風倒木の除去作業中に木が折れ、反動で路上に転落した。	712	1	10～ 29

2004	8	16 ～ 17	前日の大雨によりバンカーに土が侵入したため、三輪バギー車に廃土板、ならし装置を取り付けた車両を使って、被災者が単独でバンカーのならし作業を行っていたところ、左後輪が斜面に乗り上げ横転し、運転席から投げ出された被災者が下敷きとなった。	169	2	1～9
2004	9	7 ～ 8	高速道のガードレール脇で規制作業の準備を行っていたところ、走行してきた一般車のトラックが被災者に激突した。	221	17	1～9
2004	11	8 ～ 9	事務所の階段を2階から3階に上る途中、足を踏みはずし転落した。	413	1	10～ 29
2004	8	11 ～ 12	軽四輪貨物車を運転中、対向の2tトラックが、車線をはみ出したため、正面衝突した。	231	17	1～9
2004	12	16 ～ 17	シロアリ駆除の営業のため、軽自動車を運転し、国道交差点を右折する際、直進車（トラック）と衝突した。	231	17	1～9
2004	3	18 ～ 19	個人住宅の庭の造園作業が終了し、8.5tトラックを誘導しようと国道上に出たところ、走行してきた軽貨物トラックにはねられた。	221	17	1～9
2004	8	17 ～ 18	エスカレーターの照明器具取替え作業を行っていたところ、照明カバーの止め金具が同エスカレーターのひさしに落ちたため、被災者はそれを取ろうと同エスカレーターの外側に身を乗り出した時に、約12m下に墜落した。	418	1	10～ 29
2004	2	3 ～ 4	軽乗用車を運転して会社に戻る途中、県道T字交差点において、右折した直後、正面から直進してきた普通乗用車と出会い頭に衝突した。	231	17	30～ 49
		10	乗用車で高速自動車道を走行中、雨のためスリップして左側方の車道外へ			100

2004	4	～ 11	逸脱し、トンネル標識柱に衝突した。	231	17	～ 299
2004	4	10 ～ 11	乗用車で高速自動車道を走行中、雨のためスリップして左側方の車道外へ逸脱し、トンネル標識柱に衝突した。	231	17	100 ～ 299
2004	2	12 ～ 13	パチンコ店閉店後に役員への報告のため制服で店内待機中、店の前で泥酔し騒ぐ男に対し外に出て注意したところ、男に路上まで引きずられ、殴打された。	999	99	10～ 29
2004	5	4 ～ 5	普通自動車で行中、信号がある交差点に進入したところ、側方から走行してきた大型トラックと衝突した。	231	17	1～9
2004	3	1 ～ 2	高速道路上で、トラックを運転中、工事渋滞中の車列最後尾の乗用車に追突した。	221	17	1～9
2004	3	1 ～ 2	高速道路上で、トラックを運転中、工事渋滞中の車列最後尾の乗用車に追突した。	221	17	1～9
2004	1	18 ～ 19	海上で貨物船の水先案内業務を行い、投錨し、停泊した貨物船からパイロットボートに移るため、貨物船からなわばしごを用いて下りていたところ、なわばしごの途中から海面に転落した。	239	10	100 ～ 299
2004	1	10 ～ 11	書類を破碎、圧縮、梱包する機械を使用して書類をコンベアに投入していたところ、書類の投入コンベア上部の破碎装置に巻き込まれた。	169	7	1～9
2004	1	11 ～ 12	積載荷重3 t の荷物用エレベーター撤去のため、つり上げ荷重2 t の電動チェーンブロック2台とワイヤロープを使用して搬器をつり上げ、エレベーターの主索を切断し、搬器を下降させようとしたところ、搬器が動かなかったため、確認していたところ、ワイヤロープが破断し、搬器とともに	379	1	1～9

			に18m下のピットに墜落した。			
2004	9	9 ～ 10	公園予定地内の防空壕の立入禁止柵修繕工事において、鉄骨の立入防護柵取り付けのため、既存の防護柵の解体作業中に、防空壕入り口の岩盤が崩落した。	711	5	1～9
2004	1	20 ～ 21	社内において顧客と打ち合わせが終了後、自席に戻ったが、気分が悪くなり、救急車で搬送された。	911	90	1000 ～ 9999
2004	8	8 ～ 9	店舗開店準備のため応援で出張中、体調が悪くなり、病院で死亡した。	911	90	300 ～ 499
2004	1	10 ～ 11	被災者3名が小型飛行機に乗り込み、航空記念写真を撮影した後、次の撮影場所に向かおうと上空を旋回中に失速し、電線を切断しながら墜落し地上に激突した。	239	18	1～9
2004	6	10 ～ 11	工場内のリサイクルセンターでアームロールと呼ばれる長さ367cm、幅203cm、高さ148cmの廃棄物運搬容器内に容器外側からビニール、発泡スチロール等を詰め込む作業を行う場所に設置してある長さ90cm、幅30cm、高さ31cmの踏み台の横で倒れているところを発見された。	371	1	10～ 29
2004	12	15 ～ 16	営業活動のため自社乗用車で走行中、電柱に激突した。	231	17	10～ 29
2004	10	14 ～ 15	エレベーターの保守点検作業中、ピット内に溜まっている水を外にくみ出す作業を行うため、被災者はピット内に入って2階へのかご上昇自動運転を行ったところ、かご上昇に伴い下降してきた釣り合い錘と床の間に挟まれた。	214	7	100 ～ 299
2004	9	10 ～ 11	ごみ集積場の屋根の雨どいにたまった枯葉を取り除くため、トラックの荷台にはしごを設置して屋根に上り、屋根上を歩いていたところ、屋根材料（採光用に設置していたポリカーボネート材質）を踏み抜いて約6.4m下	415	1	100 ～ 299

			の床面に墜落した。			
2004	5	7 ～ 8	前日からの勤務を終え午前8時頃に帰宅したが、翌日は体調不良のため欠勤し、さらに次の日の朝、自宅の寝室で妻が起こしに行ったところ、死亡していた。	911	90	1000 ～ 9999
2004	11	17 ～ 18	勤務するパチンコ景品交換所に強盗が押し入り千枚通しで被災者を刺した。	364	90	1～9
2004	5	18 ～ 19	マンション外壁の老朽破損状況調査において、ブランク作業をしていたとき、16m以上の高さからブランクおよびロープごと地面に墜落した。	379	1	1～9
2004	11	9 ～ 10	9階建ビルの屋上の塔屋上に設置された広告塔の鉄骨の塗装工事のために設けられたつり足場の解体作業中、バランスを崩し、約20m下の隣のビルの屋上に墜落した。	411	1	1～9
2004	10	10 ～ 11	被災者が住み込み管理するマンションにおいて、エントランス部分の玄関ひさしの雨漏りを確認するため、マンション管理組合員とともに脚立を垂直に伸ばしてはしご状にし、ひさしに立てかけて登っていたとき、突然脚立の脚部が滑り、脚立がひさしから外れ玄関床面に墜落した。	371	1	300 ～
2004	3	15 ～ 16	ビル屋上において、屋上フェンス扉の修理作業の確認写真を撮ろうとしたとき、約40m下の地面に墜落した。	418	1	300 ～
2004	1	10 ～ 11	営業活動中、反対側の歩道へ渡るため、片側3車線の道路で渋滞している車の間をすり抜けようとして、走行してきた軽トラックにはねられた。	221	17	30～ 49
2004	4	10 ～ 11	清掃工場解体工事において、ごみピット上部に位置する送風機室内で送風機等の溶断作業を行っていたとき、送風機ダクトを撤去した跡にできた床面開口部から22m下のごみピット底に墜落した。	414	1	100 ～ 299
		0	業務の打合わせのため、バイクで現場に向かっている途中、交差点を直進			10～

2004	10	～ 1	していたとき、前方から急に乗用車が右折してきて衝突した。	231	17	29
2004	12	17 ～ 18	ビルの立体駐車場の出入口のターンテーブルに乗せた車を後退させるつもりが、誤って強くアクセルを踏み込んだため急発進し、近くで待機していた被災者に衝突した。	231	7	50～ 99
2004	5	16 ～ 17	業務終了後、自転車で事務所へ帰社途中、交差点で右折のため発進したトラレーサーに接触した。	221	17	50～ 99
2004	7	7 ～ 8	13階建てマンションの屋上にある広告用看板のシートを張替える工事で、養生ネットを張る作業をしているとき、被災者が看板の上から約45m下の地上に墜落した。	418	1	1～9
2004	2	0 ～ 1	高速道路を走行中、車の右側後輪タイヤがパンクし、中央分離帯に衝突し、次いで左側のガードレールに衝突、再び中央分離帯に衝突した。	231	17	100 ～ 299
2004	5	5 ～ 6	車を運転して事業場に帰る途中の高速道路でガードロープに衝突した。	231	17	10～ 29
2004	1	6 ～ 7	代理店訪問のため出張中、宿泊先客室の浴室において、死亡した。	713	10	50～ 99
2004	4	0 ～ 1	バイクで国道を走行中、進路変更してきた乗用車と接触、転倒し、ガードレールに激突した。	231	17	100 ～ 299
2004	4	14 ～ 15	フィルム現像の溶液タンクに落ちたフィルムを取ろうとした被災者が、溶液を抜いたタンク内に逆さまにはさまり、抜けなくなった。	391	10	30～ 49
		13	ビルの建築設備検査のため、ビルの屋上に検査業者とともに上り、点検対			1000

2004	2	～ 14	象の機械から下りようとしたところ、転落した。	418	1	～ 9999
2004	6	11 ～ 12	トラックで運んできた醤油粕を置くためのスペースを作るため、ショベルローダーを使って構内の醤油粕を移動する作業を行っていたところ、突然ショベルローダーが左へ横転し、被災者に激突した。	225	1	10～ 29
2004	1	7 ～ 8	建設現場での測量作業のため社用車に乗り合って現場へ向かう途中、交差点で右折信号に従い右折しようとしたところ、信号を無視して交差点に進入してきた直進対向車に左側面から衝突された。	221	17	10～ 29
2004	12	5 ～ 6	厩舎脇の運動場にて、乗り運動（馬の背に乗り歩かせる）を行っていた当舎管理馬の後ろに付いて、別の馬の引き運動（手綱を引張って馬を歩かせる）を行っていたところ、突然、前を歩いていた乗り運動中の馬の後ろ足で蹴られた。	719	6	1～9
2004	3	9 ～ 10	鋼板コイル（約8t）を倉庫に保管するため、15tの床上操作式クレーンでコイルを倉庫に搬入し、クレーンでつつた状態でコイルの位置を調整していた際に、このコイルが、3つのコイルで2段にはい付けされたコイルに接触したことにより、はい付けされたコイルのうち下段にあったコイルが、近くでクレーン操作していた被災者の方向に移動し、移動したコイルと背後にあった別のはい付けコイルとの間に挟まれた。	611	6	1～9
2004	2	11 ～ 12	自動車保管場所の調査のため、バイクを運転し、片側1車線の道路を走行していたところ、対向車線を走行してきた乗用車がガソリンスタンドに入ろうと右折した際にはねられた。	231	17	1～9
2004	10	13 ～ 14	クローラクレーンを現場に運ぶためトラックの荷台にカウンタウエイト、その上に先端側のジブを載せて荷締め機で固定する作業中、ジブが落下しジブの下敷きになった。	612	4	1～9
2004	4	10 ～ 11	射出成形機用の金型（重量5t）から型となるピンを取り外すため、2名で金型の両側に分かれ作業を行っていたところ、金型が被災者側に転倒した。	612	5	100 ～ 299

2004	9	8 ～ 9	機械設置用の架台の開口部の位置を変更する工事において、工事にとりかかろうと、それまで開口部を塞いでいた蓋を被災者を含め2名で取り外し、これをフォークリフトに受け渡した後、ステージを降りようと階段に向かおうとした時に、当該開口部から墜落した。	414	1	1～9
2004	3	11 ～ 12	マンションの敷地内にある立木の枝をのこぎりで切断していたところ、高さ約7mの個所から墜落した。	712	1	50～ 99
2004	11	9 ～ 10	発電所内の固定式自動除じん機のメンテナンス作業で、集じん装置のチェーンについたグリスを取る作業を行っていたところ、上昇してきたゴミ除去用のバケットと回転軸の間に挟まれた。	169	7	1～9
2004	10	3 ～ 4	乗用車で公道を走行中、道路左側の電柱に激突した。	231	17	10～ 29
2004	10	3 ～ 4	乗用車で公道を走行中、道路左側の電柱に激突した。	231	17	10～ 29
2004	3	21 ～ 22	自動車にて走行中、工事のため設置されていた単管パイプでできたバリケードに衝突した際、この単管パイプが車の前部を突き抜け、運転席まで貫通し、被災者に当たった。	911	17	30～ 49
2004	9	20 ～ 21	発電機に、高電圧をかけて性能検査を行っていたとき、発電機の端子箱と変圧器とを結んでいたリード線に接触したため短絡が起こり、瞬時に飛び散ったアークにより火傷を負った。	351	11	50～ 99
2004	10	14 ～ 15	ポンプ場の止水ゲートでアクアラング潜水により流木の除去作業の確認をしているときに、止水ゲートに挟まれた。	419	7	30～ 49
2004	7	13 ～	ダクト更新工事において、ダクト接続部の溶接作業を行っていたところ、高さ7.4mの足場から墜落した。	411	1	10～ 29

		14			
2004	4	0 ～ 1	ベルトコンベアからこぼれた鉱石をスコップでコンベアに乗せたり、シュートから下ろしたりする脱鉱作業をしていたところ、ベルトコンベアの下部のリターンローラーとベルトの間に巻き込まれた。	224	7 1～9
2004	9	10 ～ 11	マンホール内における下水道管（直径70cm）の内壁点検作業において、上流側の管を止水ボールで閉塞し下流側の管を点検をしようとしていたところ、止水ボールが外れ、流れ込んだ下水により下流側に流された。	418	10 1～9
2004	5	15 ～ 16	解体工事現場において、フロントアタッチメント（カッター）を取り付けたドラグ・ショベルにてプラント建屋の鉄骨支柱を切断作業中、当該プラント建屋がドラグ・ショベルの上に倒壊し、当該機械の運転席にいた被災者が運転席と共に押しつぶされた。	418	5 1～9
2004	7	10 ～ 11	発電所定期点検工事において、タービン建屋の外にある循環水放水管上部にあるピットマンホールから内部に入り込み、約21m下の放水管底部まで墜落した。	418	1 10～ 29
2004	1	10 ～ 11	資材置場の敷地内に掘った焼却穴を塞いでいた四角すい形の鉄製の蓋を角材で支えていたところ、角材が外れて蓋が閉まり、近くにいた被災者に接触した。	419	5 1～9
2004	3	10 ～ 11	建設現場から発生する残土を受け入れる作業場において、入場してくるトラックに廃棄場所を指示し、伝票を受け取る業務を行っていたところ、残土を廃棄し終え、バックしてきたダンプトラックにひかれた。	221	6 1～9
2004	8	15 ～ 16	ゴルフ場でグリーンの芝刈りと機械整備を行っている時に、ハチに刺され、後に、アナフィラキシーショック（蜂アレルギー）となった。	719	90 10～ 29
2004	1	11 ～ 12	社用車で走行中、渋滞により前走車が急停車したため追突を避けようとブレーキを掛け左にハンドルを切ったが止まれず、前走車の左後部に接触し停車した。そこへ後続のトラックが追突し、その衝撃で前方にはじかれ左車線に止まっていた他の車両に再追突した。	231	17 10～ 29

2004	2	16 ～ 17	シャッターの上扉（上下スライド式で、扉は波形鉄板とアングルにより製作されている。下扉は1tの電動チェーンブロックで昇降させており、上扉は下扉の下端アングル部分に引っ掛けて昇降させる）がレールのストッパーを突き破り落下し被災者を直撃した。	391	4	50～ 99
2004	7	8 ～ 9	麦の乾燥工場内において、設備上を移動していた際に、足を滑らせて、約9m下の床面に墜落した。	342	1	50～ 99
2004	8	15 ～ 16	作業ローテーションで別の作業場所に移動するため正規の通路を通らず休止中の機械の上を通っていた際に幅約90cmのすき間から約3m下のコンクリート床面に墜落した。	169	1	50～ 99
2004	8	13 ～ 14	ガソリンスタンド解体工事において、地下にあるガソリンタンクを洗浄するため残留ガソリンを抜き、中和剤の散布および換気をした後、タンク内に入り清掃作業を開始したところ、突然爆発した。	321	14	30～ 49
2004	2	9 ～ 10	リフトの滑車塔に登り除雪作業を行っていたところ、滑車に巻き込まれた。	229	7	100 ～ 299
2003	12	6 ～ 7	高速道路の料金所の13レーンの異常を確認したので、通行券の補充に行こうとしていた同僚と2人で料金所に行って同僚が通行券を補充している間に13レーンの車を11レーンの出口側に誘導し、12レーンを横切ったときにレーンに入ってきたトラックにひかれた。	221	17	100 ～ 299
2003	12	13 ～ 14	昼食を終わって歩道を歩いて測量現場にもどる途中に、そばで発生した自動車同士の交通事故に巻き込まれた。	231	6	1～9
2003	12	11 ～ 12	大型トラックで自動車道を走行中、センターラインをはみ出して乗用車と衝突した。	231	17	10～ 29
		15	軽ワゴン車で国道を走行中、見通しの良い直線道路で対向車線にはみ出し			10～

2003	12	～ 16	て大型ダンプカーと正面衝突した。	231	17	29
2003	11	～ 10	9 煙道排気ガスの成分測定のため工場の屋根に登って煙突に向かうときに、 あらかじめ設けられていた回廊を通らず近道をして採光窓を踏み抜き12m 下に転落した。	415	1	100 ～ 299
2003	11	～ 17	16 製氷冷蔵施設において、1階から2階へ製氷の運搬作業をしているときに、 滑ってエレベーターの上部と2階床との間に首をはさまれた。	214	7	1～9
2003	10	～ 7	6 乗用車で空港に向うため国道を走行中、対向車線にはみ出して道路右に設 置されている視線誘導標識に衝突して路外に転落し、後部座席にいた者が 死亡した。	231	17	1～9
2003	10	～ 11	10 事業場から約350m離れた川沿いの駐車場へ社用車を駐車しに行ったまま 行方がわからなくなったので、事業場、家族、警察で探したところ、10日 後に駐車場横の川底に沈んだ社用車とその中から遺体が発見された。	713	10	100 ～ 299
2003	10	～ 17	16 移動動物園のイベントを終了してハムスター等の小動物を乗せたワゴン車 で飼育所へ帰る途中、交差点手前で対向する路線バスと衝突した。（バス の運転手および乗客5名も軽症）	231	17	10～ 29
2003	10	～ 16	15 事業場の簡易水道の管理を行っていた者が、貯水池の落葉を取り除いてい て誤って貯水池（水深約2m）に落ちて水死しているのが発見された。	713	10	10～ 29
2003	9	～ 10	9 ライスセンター内の粃殻庫から粃殻をトラックに搬出する作業で、粃殻庫 の下部に設けられているコンベヤに粃殻が落ちてこなかったため粃殻庫の 上部から入って棒で粃殻を突いていたときに、粃殻が崩れて粃殻の中に埋 もれ窒息死した。	419	5	1～9
2003	9	～	5 自動車道料金所で、収受業務を開始するためブースへ通じる地下道を通っ て料金収受ブースに入ろうとしたときに、鍵を忘れたためETC専用のレー ンを横断して同僚から鍵を借り、自分の担当ブースへもどるため再度レー	221	17	30～ 49

		6	ンを横断しようとしたときに、そのレーンを通ようとした10tトラックにひかれた。			
2003	9	13 ～ 14	道路工事の土質試験用サンプル採取のため、同僚と転圧作業場所に立ち入って土砂のサンプルをかがんだ状態で採取していたときに、背後から後進で走行してきたタイヤローラーにひかれた。	144	7	1～9
2003	9	8 ～ 9	留学生会館で、警備員が建物9階の廊下天井の蛍光灯の電球を交換中に、バランスを崩し脚立から2階テラスまで墜落した。	371	1	100 ～ 299
2003	9	18 ～ 19	出張先での分析作業を終えて乗用車で自動車道を走行中、前の車を路側帯から追い越そうとして左ガードレールに衝突し、そのはずみで反対車線に飛び出して走行していた車と正面衝突した。（2名焼死、対向車の親子2名も死亡）	231	17	50～ 99
2003	9	13 ～ 14	同僚3名と災害復旧工事のための測量作業中、高さ12m、勾配約32度の山の尾根付近から直径30～40cmの石が落下し、直撃された。	711	4	1～9
2003	8	12 ～ 13	出張で中国を訪れ、現地人同乗者が運転するワゴン車に他の現地人1名・日本人1名とともに同乗して高速道路を走行中、前方を走行しているトラックの後部に衝突した。	231	17	50～ 99
2003	8	10 ～ 11	ビル屋上に設置されている空調熱源設備の点検（清掃・設備を含む）中に、ビル所有社の社員が冷房のスイッチを入れたため冷却用のファンが回りだして首をはさまれた。	391	7	1～9
2003	8	11 ～ 12	セメントサイロ工場において、サイロ内の固結したセメントをかき出す作業を行っていたときに、セメント山が崩落してサイロ下部の抽出口に転落し埋没した。	418	5	30～ 49
2003	7	15 ～ 16	花火大会のために、園内通路の各個所に移動式クレーンおよび園内所有のフォークリフトで照明機を設置し、フォークリフトを園内の保管場所へ戻すため下り坂を走行していたときに、路肩に乗り上げたためフォークリフ	222	2	1～9

			トが横転し下敷きとなった。			
2003	7	12 ～ 13	運転代行で次の客を迎えに行くため、国道を軽貨物車（4ナンバーの軽乗 用車）で走行中、対向車線からセンターラインを越えてきた軽乗用車と正 面衝突した。	231	17	30～ 49
2003	7	0 ～ 1	駐車場で運転していた2tトラックから別の車に乗り換えるため、トラッ クを車庫に止め同じ駐車場に止めてあった別の車に向かって歩き出した ところ、サイドブレーキを引き忘れていたトラックが駐車場の勾配で動き 始めたので、トラックの前方に出て止めようとしたが止まらず、トラック と駐車場のひさしの柱との間にはさまれた。	221	7	1～9
2003	7	9 ～ 10	工場スレート屋根の雨漏りの修繕見積りのため、下請け業者1名とともに 工場スレート屋根上を移動していたときに、スレート屋根を踏み抜きいて 約7.7m下のコンクリート土間に墜落した。	415	1	1～9
2003	7	8 ～ 9	工場に設置してある薬液供給設備の定期メンテナンス作業において、前日 交換した水酸化テトラメチルアンモニウム20%液（強アルカリ性液体）の 移送用配管を通液洗浄するため、配管の継手を弛めたところ、配管内の圧 力により吹き出した液体を顔面および上半身に浴び敗血症により死亡し た。	514	12	100 ～ 299
2003	7	1 ～ 2	高さ約4mの単管をポールとして設置してあった提灯付き電線を片付ける ため、開脚させた脚立をポールに直接立掛けて高さ2mの位置にある踏面 上で電線の取外し作業中に、右手でつかまえていた電線に引っ張られ後方 に転落し頭部を強打した。	371	1	10～ 29
2003	6	11 ～ 12	顧客に品物を配達するため軽トラックで走行中、対向車線からはみ出して きた乗用車と正面衝突した。	221	17	300 ～
2003	6	11 ～ 12	ホイール・ローダーで堆肥の切り替え作業を行っていたところ、ローダー のアーム油圧シリンダー部の油圧ホースがパンクしたので油圧ホースを取 り替えるため、バケットを上げて前輪の間に立って油圧ホースのナットを 緩めていたときに、バケットが降下してきてアームとローダー本体との間	141	7	30～ 49

			に頭部をはさまれた。			
2003	6	1 ～ 2	出張を終了して帰宅後、頭痛、吐き気を訴え倒れ、救急車で病院へ搬送されたがくも膜下出血で死亡した。	911	90	1～9
2003	6	13 ～ 14	得意先をバイクで回っているときに、カーブを曲がりきれずに縁石に接触して体が投げ出され、街路灯およびガードレールに激突した。	231	17	1～9
2003	6	0 ～ 1	営業で会員宅を訪問するため自転車で移動中、信号のない交差点を横断したときに右方向から走行して来たオートバイに激突された。	231	17	10～ 29
2003	5	15 ～ 16	遊歩道脇の谷側斜面で、赤松のかかり木を取り除く作業をしていて27.3m下の川に転落した。	711	1	10～ 29
2003	5	10 ～ 11	本社4階バルコニーで、営業に利用する会社イメージ写真を撮影するため、さいころ（一辺25cmの木製立方体、踏み台として使用）を2個積み上げ、その上で撮影していたときにバランスを崩し地上に墜落した。	371	1	100 ～ 299
2003	5	22 ～ 23	出張のため乗用車で自動車道を走行中に自動車が故障したため、車を降りて非常電話まで路側帯を歩いて行って非常電話で高速道路サービス隊に連絡してもどるときに、路側帯がせまくなっていることに気づかず道路橋の欄干から25m下に転落した。	419	1	10～ 29
2003	5	14 ～ 15	橋の耐震ボルトの点検調査で、高さ3.1mの橋脚上部に設置してあるボルトの締め具合を点検中に、桁に掛けてあった安全帯のロープが保護帽のつばに掛かったため保護帽が後ろに押され、あご紐で首を絞められる状態となって窒息死した。	371	7	50～ 99
2003	3	22 ～ 23	事業場において閉店の準備中に過重労働により突然倒れ、病院で死亡した。	911	90	10～ 29

2003	3	5 ～ 6	新聞配達のため自転車で国道の交差点を横断中、走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	1～9
2003	3	4 ～ 5	運転代行車両を追走して走行中、県道の緩やかなカーブで左側縁石に激突して対向車線に進入し、対向の普通乗用車と正面衝突した。	231	17	50～ 99
2003	3	10 ～ 11	倉庫内で、トラクター・ショベルでごみ固形燃料発電用の円筒形チップを積み上げていたところ、高さ約5mのチップの上からトラクター・ショベルが横転し、下敷きとなった。	141	1	1～9
2003	3	13 ～ 14	水道料金滞納整理のためバイクで市道を走行中、反対車線に進入して逆行し、トラックと正面衝突した。	221	17	10～ 29
2003	3	9 ～ 10	塗装工場のダクト排気口（高さ約7m）の排気ガス測定（サンプリング）で、大屋根（高さ約6m）に上がるため小屋根（高さ約3m）に登ったのち、大屋根に脚立をはしごとして掛けようとしたときに、バランスを崩し小屋根から墜落した。	415	1	100 ～ 299
2003	3	13 ～ 14	住宅南側の道路拡幅のため、塀の内側に植えられていた樹木を伐採する作業において、桜の木の枝切り中に枝が折れ4.4m下に墜落した。	712	1	1～9
2003	3	8 ～ 9	乗用車に同僚4名が同乗して学校へ荷物を届けるため走行中、圧雪のためスリップして対向車線にはみだして対向の乗用車と衝突し、1名が死亡した。	231	17	50～ 99
2003	2	13 ～ 14	トラックにパワーゲートで自動証明写真機（質量約390kg）を積込む作業中、パワーゲートがトラック床面まで上がる寸前に突風で写真機の前面が浮き上がって滑り落ちそうになったので、2名で支えようとしたが支えきれずに写真機が滑り落ち、1名はその場から逃げられたものの、1名は写真機を運搬してきたハンドリフトに足を取られ逃げ切れずに下敷きになった。	612	4	100 ～ 299

2003	2	10 ～ 11	町道の道路拡幅工事で、支障になっている道路脇の杉の木（長さ32m、胸高直径65cm）を林内作業車のウインチを使用しロープで引きながら伐木作業を行っていたところ、風により伐倒方向が変わり、荷物配達のため通過した軽自動車の屋根を直撃した。	712	6	30～ 49
2003	2	10 ～ 11	薬品販売会社の倉庫の荷物専用簡易リフトから「ガーガー」と異音がするため、エレベーターのメンテナンス会社の者が点検作業をしていたときに、簡易リフトの搬器の床と倉庫2階床との間に首の部分をはさまれた。	214	7	30～ 49
2003	2	2 ～ 3	国道交差点において、運転代行中の普通乗用車で右折しようとしたときに、右側から追い越そうとした大型トラック（13t）に追突された。	231	17	10～ 29
2003	2	15 ～ 16	海外の橋架替工事で、PC工事部分の技術援助のための出張作業中に桁架設作業に立ち会っていたところ、桁をつっているチェーンブロックのチェーンが動かなくなったので、現地の作業員に点検作業を指示していたときに、突然チェーンが解放されてチェーンが頭部に当たった。	361	4	100 ～ 299
2003	2	18 ～ 19	常態として70時間から80時間の時間外労働があり、応接室で打ち合わせ中に倒れた。	911	90	30～ 49
2003	2	14 ～ 15	ゴルフ場内で、午後になり雪が降ってきたので、通勤に使用していた自家用車を支配人命令により3km下ったふもとの別の駐車場に自家用車を移動させていたとき、前方を走行していた車に急接近したので避けようとハンドルを切ったときスリップし、対向車線脇のコンクリート壁に激突した。	231	17	10～ 29
2003	2	2 ～ 3	運転代行を行う同僚の後方から社有の軽自動車を運転し国道を追走していたところ、脇見又は居眠り運転により分離帯に乗り上げ街路灯に衝突した。	231	17	30～ 49
2003	1	7 ～ 8	埠頭で検数作業に従事していたときに、ヤードに荷を降ろして本船に向けて走行中のフォークリフトにひかれた。	222	17	10～ 29

2003	1	16 ～ 17	氷上フェスティバルにおいて、氷上に「かまくら」を作るためタイヤショベルで「かまくら」周辺に雪を集め、その後、「かまくら」に雪の吹き付け作業を行っていたときに、除雪機のオーガー（雪を取込む部分）に左足と右手を巻き込まれた。	169	7	1～9
2002	8	13 ～ 14	乗用車を公道の左側に駐車し、取引先に書類を届けるため運転席側後方部ドアを開け書類を取出していたところへ対向車が中央線をはみ出して来て正面衝突し、後部ドアに押されて路面に叩きつけられた。	231	17	1～9
2002	11	14 ～ 15	ライスセンターにおいて、トラックで搬入された大豆のサンプリング中に倒れているのを運転者が発見した。（心筋梗塞）	911	90	100 ～ 299
2002	2	20 ～ 21	製鉄所構内で行われた配管移設工事に立ち会って帰宅し、入浴して食事を済ませたときに呼吸困難となり死亡した。	999	99	50～ 99
2002	2	11 ～ 12	市水道部の住宅竣工検査を受けるため、一人で水道メーターボックスに付着していたコンクリートをはつる作業をされていて倒れた。	999	90	1～9
2002	11	14 ～ 15	路上犯罪等防止の巡回パトロールで国道を走行中、橋上から約65m下の沢に墜落した。	418	1	30～ 49
2002	12	14 ～ 15	住宅リフォーム工事の確認中、屋根上（庇までの高さ3m）から墜落した。	415	1	1～9
2002	7	11 ～ 12	住み込みのマンション管理人がマンションの内部階段からおよそ1m下の床に転落して頭部を強打した。	413	1	1～9
2002	12	～	工場の焼却炉の燃焼ガス冷却塔の清掃で、冷却塔内部の堆積粉じんを崩すため、冷却塔の清掃扉から身体を入れて棒で突いたところ、堆積粉じんが	391	5	10～ 29

		13	崩壊落下し生き埋めになった。			
2002	11	16 ～ 17	スポーツ用品店の実地診断を行って事業場へ戻るため社有車で走行中、下りカーブで路面凍結のためスリップして対向車線にはみ出し対向車と正面衝突した。	231	17	1～9
2002	12	18 ～ 19	社用車で国道を走行中、カーブでセンターラインをはみ出して対向の大型トラックと衝突した。	231	17	10～ 29
2002	12	5 ～ 6	駐車していた運転代行車輛を同僚と2人で回収し、分乗して事務所に戻る途中の国道交差点で右折したときに、信号を無視して直進してきた乗用車と衝突した。	231	17	10～ 29
2002	10	13 ～ 14	個人住宅の解体工事で出た廃材を約1 km離れた休耕地に2 t ダンプトラックで運搬し、バックホーで掘削した穴に投棄する作業中に、バックホーが休耕地の端の斜面から2.7m下のあぜ道に転落し下敷きになった。	142	2	1～9
2002	11	10 ～ 11	セレモニーホールに生花等を配達して自家用貨物自動車で行く途中、信号機が無い交差点で一旦停止せずに直進し、左側から直進してきた乗用車と衝突して両車とも田んぼへ転落し両運転者とも死亡した。	231	17	10～ 29
2002	12	11 ～ 12	4名がプレジャーボートに乗って湖の水深などの調査・測量中、風が強くなったので作業を中止して入江の岸に向かって走行しているときにプレジャーボートが転覆し、操縦者だけが船内に閉じ込められ死亡した。	239	10	100 ～ 299
2002	12	13 ～ 14	トラック積載型クレーン（2.63 t）で建設機械（質量1.3 t）を駐車場に降ろす作業中、クレーン車が転倒したためクレーンの操作者がクレーン車と脇にあった乗用車との間に挟まれた。	212	6	30～ 49
2002	1	15 ～ 16	個人住宅の2階バルコニーに流し台を設置するため、屋根上で配管工事を単独で行っているときに、屋外の軒下に設けられたコンクリートブロック製の流し台上に転落した。	371	1	1～9
2002	10	21	出張先で発注者との打合せが終了し、徒歩で宿泊先へ向かう途中の県道交差点の歩道上で立ち止まっていたときに、走行してきた乗用車が歩道上へ	231	17	1000 ～

		22	突っ込んできて跳ね飛ばされた。			9999
2002	12	15 ～ 16	梱包用資材をストックしている棚の最上段（高さ2.5m）から梱包用資材を地上に降ろす作業中に、コンクリート床に墜落した。	419	1	1～9
2002	12	11 ～ 12	ガス管布設工事において、開削時に使用する鉄板（1220×2440×20m）2枚をドラグショベルで吊り上げ水路内に降ろそうとしたときに、機体が横転し電信柱と機体との間に首を挟まれた。	141	2	30～ 49
2002	12	10 ～ 11	自動車で会社から郵便局に向けて市道を走行中、ガードレール脇に駐車していたトラックに追突した。	231	17	1～9
2002	12	10 ～ 11	堆肥生産工場において、バークに混在していた木の枝が供給機のドラムで詰まったので取り除こうとしてドラムに巻き込まれた。	169	7	1～9
2002	4	2 ～ 3	ダム工事現場で法面吹付用機械を4tトラック（クレーン付）に積み国道を走行中、中央線をはみ出して対向車と正面衝突した。	221	17	30～ 49
2002	7	2 ～ 3	飲食チェーン店の営業を終了し店舗状況を確認したのち営業拠点に戻るため自動車道を走行中、センターラインを越えて対向の大型貨物自動車と衝突した。	231	17	100 ～ 299
2002	7	8 ～ 9	自宅から会社の車（4WD、ABS有）でスーパーのATM調整のため市道を走行中、スリップして対向車線にはみ出し大型ダンプと衝突した。	231	17	1～9
2002	11	16 ～ 17	乗用車を運転して市道を走行中、走行車線から路外（左側）に逸脱転落し炎上した。	231	17	50～ 99
2002	10	13	工場内に設置された事務所の屋上を掃除するため、パイプと床用吸込口を一体とした掃除用具を持って梁（H鋼幅30cm）上を歩行していて8.05m	415	1	30～ 49

		14	下のコンクリート床面に墜落した。			
2002	11	19 ～ 20	タバコ広告塔の張替工事完了の報告のため、物件近くの高台である国道橋上の車道でネオンの状況の写真を撮影していたとときに、後方より走行してきた乗用車に跳ねられた。	231	17	10～ 29
2002	12	16 ～ 17	貨物自動車で商品の配達を行うため町道を走行中、道路右側の法面に衝突した。	221	17	300 ～
2002	11	0 ～ 1	住宅総合展示場の高さ約7mの看板の貼り替え作業において、高さ3.7mの足場作業床から墜落して頭部を激突した。	411	1	1～9
2002	11	9 ～ 10	空調機修理の打合せのため乗用車で国道を走行中、反対車線を走行していた大型トラックが中央車線を越えてきて正面衝突した。	221	17	30～ 49
2002	10	13 ～ 14	トラクターショベル（機体質量2560 k g）でゴルフコースのグリーンに目土を入れているときに、斜面（傾斜が15度から30度）でトラクターショベルが横転し下敷きになった。	141	1	1～9
2002	11	15 ～ 16	乗用車で自動車道を走行中、走行車線を走行中のトレーラーに追突した。	231	17	300 ～
2002	11	15 ～ 16	鉄骨6階建の構造補強及びエレベータの新設工事において、エレベータ・シャフトの上端（地上1570 c m）の鉄骨梁上で鉄骨の溶接作業中、バランスを崩して1680 c m下の地下エレベーターピットに墜落した。	418	1	1～9
2002	9	14 ～ 15	タンク（高さ19.37m、直径14.44m）の内部を手持ち式のショットブラストで研磨中、タンク内部側面に設置された足場の6段目（高さ9.3m）から墜落した。	411	1	1～9
2002	11	10	駐車場管理人が駐車場入り口付近で血を流して倒れているのを通行人が発見し、病院に移送したが意識は回復せず、外傷性くも膜下出血、急性硬膜	417	2	50～ 99

		11	下出血、脳挫傷、頭皮裂創で死亡した。			
2002	10	10 ～ 11	小売り店舗の営業指導のため次の店舗へ車で走行中、大型トラックを追い越すため対向車線に出たときに、右折しようとした大型トラックに接触しその反動で電柱に激突した。	231	17	1000 ～ 9999
2002	10	14 ～ 15	公共工事の施工管理業務を終えて乗用車で走行中、見通しの良い片側一車線の緩い右カーブ後の直線部分で対向車線の道路から飛び出し、運転席側から電柱と取付道路法面に衝突した。	231	17	50～ 99
2002	10	0 ～ 1	セメントサイロ（直径21m、高さ26m）の内部清掃作業で、サイロ中央部の排出口横のセメント排出作業中に高さ約3mのシュート内に転落し窒息死した。	418	1	10～ 29
2002	10	17 ～ 18	9階建てビル解体工事において、オペレーター2名、散水者2名の計4名でドラグショベル2台を用いて解体及び解体小割作業中、自分の作業を終えて作業場所から離れた者が17時を過ぎても姿が見えなかったので全作業員で捜索したところ、解体ガラの荷卸開口部1階で倒れているのを発見した。	414	1	10～ 29
2002	10	18 ～ 19	営業先から帰社して冷凍室内に保管されている冷凍食品を確認しようとして、冷凍室扉に挟まれた。	391	7	10～ 29
2002	8	17 ～ 18	ハバロフスク地方にある蟹加工工場へ蟹の検品作業を行うため、ハバロフスク空港から旅客機に乗ってアヤン空港に着陸直前に、パイロットが濃霧で高度を誤まって空港近くの岸壁に激突し、乗員（3人）、乗客（14人）全員が死亡した。	239	18	1～9
2002	9	18 ～ 19	米・麦を貯蔵しておくサイロのある倉庫のシャッターを閉めるスイッチを押したときに、乗っていた自転車とその籠に乗せられていた9.5kgの米ごと転倒しシャッターに首を挟まれた。	362	7	300 ～ 499
2002	9	15 ～	7番ゲートの施検後に右隣6番ゲート担当者からRESEALの作業方法を聞かれたので、タンク専用シャーシーの左後輪二軸の間に入り説明してい	221	7	50～

		16	たところ、ゲートクランクから発進の合図を受けたトレーラの運転手が発進したため、後輪に轢かれて転倒し両足を骨折した。			99
2002	9	7 ～ 8	トラックで自動車道を走行中、緩やかな下りカーブでスリップして中央分離帯に衝突横転し、その衝撃で車外に放り出された。	221	17	1～9
2002	12	13 ～ 14	台風で工場附設の鉄骨梁製テントハウスが潰れたので解体するため、高さ5m、40cm幅の部材上に乗り鉄骨梁をガス溶断していて地上に墜落した。	415	1	10～ 29
2002	4	16 ～ 17	自家用電気工作物の保安点検を終え車で事務所へ戻る途中、交差点を右折しようとしたときに直進してきたトラックと衝突した。	221	17	10～ 29
2002	9	9 ～ 10	テレビ塔の塗装工事において、鉄骨上に仮置きしていたパイプを鳶工が取上げたとき、そのうちの1本が転がり落ちて高さ87mの位置からネットの間隙を通過して地上に落下し、テレビ塔西側の自動販売機付近にいた労働者の頭部に激突した。	521	4	30～ 49
2002	9	7 ～ 8	米海軍基地内で道路を横断していたときに、基地従業員運転の移動式クレーン（米軍所有、51 t ホイールクレーン）に激突された。	212	6	1000 ～ 9999
2002	8	10 ～ 11	商店街の街路灯の防錆及び塗装工事をローリングタワー（157×185×高さ487cm）を車道の上に設置して行っていたところ、T字路交差点を右折して進入してきた軽ワゴン車がローリングタワーに衝突し、その衝撃でローリングタワーが半回転し、上で作業していた作業員2名のうち1名が死亡した。	411	1	1～9
2002	8	11 ～ 12	集金のためバイクで走行中、交差点を右折していたときに直進してきた軽乗用車と衝突した。	231	17	30～ 49
		14	展示ホール内において、脚立を2脚使用して天井（高さ約4.8m）付近に設			100

2002	9	～	15	置している留め金具に布製のスクリーンを吊す作業中に、片方の脚立（高さ約2.9m）が転倒したため約2.6m下のフロアーに墜落した。	371	1	～	299
2002	4	～	12	11 カラーベスト製造建屋内の高さ6.92mの吊り足場上で梁に堆積したアスベスト粉じんの清掃作業を行っていて、昼食休憩のために下に降りるため足場上を移動中に、足を踏み外してコンクリート床に墜落した。	411	1	1～9	
2002	3	～	8	7 台船を曳航するため、汽船に乗り台船に向かう途中で後方からきた船に追突され、汽船が沈没して乗船していた2名が溺死した。	239	18	1～9	
2002	11	～	9	8 乗用車で国道を走行中、交差点でミニバイクと軽トラックに衝突したのち道路右側の電柱に激突した。	231	17	30～	49
2002	8	～	17	16 ごみ焼却場内のボイラー水管、集塵装置の清掃のため、ボイラー内で水管に付着した灰を掻き落とす作業をしていたが午後になって体の不調を訴え、休憩所で横になっていたが容体に変化し病院で死亡した。	715	90	1～9	
2002	8	～	14	13 製鐵所内酸素工場の解体作業で、空気分離装置内の保冷剤（パーライト、容量5000?）を回収するためにガスで溶断中、飛散防止ネットの火災防止の監視をしていた者が開いた口から流れ出た保冷剤に埋まった。	321	5	10～	29
2002	5	～	9	8 飼料の原材料が入ったタンクから原材料を抜き取る作業中、ホッパーから落ちてこなくなったのでタンク内の様子を確認に行ったが暫く経っても戻ってこないため同僚が探したところ、タンク内で倒れていた。	714	12	1～9	
2002	7	～	9	8 業務用車両で走行中、交差点で左側から走行してきた車両に衝突された。	231	17	1～9	
2002	7	～	12	11 3階建て集合住宅の屋上で、2名で防水シートの貼り付け作業中にシートのたわみじわを伸ばすため、両者が互いにシートを引き合っていて後退した拍子に、50cmの屋上端につまずいて8.6m下の地上に墜落した。	415	1	10～	29
			10	現場に行くため高所作業車で走行中、左前方を走っていたミニバイクが急				

2002	8	～ 11	に右折したので衝突を避けるため右にハンドルを切ったときに、高所作業車が対向車線を蛇行してバス停、電柱等にぶつかり、最後に道路より2mほど低い位置に建っているマンションに突っ込んだ。	146	17	10～ 29
2002	7	～ 9	水生生物による水質調査において、地元中学生が行う水生生物採取の前段階として同僚1名と水深約50～100cmの川で投網による生物の採取をしていたときに、水流に流され溺れた。	713	10	10～ 29
2002	7	～ 18	ビニールハウス内でたい肥散布機に乗ってたい肥の散布作業中、ビニールハウスの鉄製梁（高さ約1.4m）と散布機の背もたれとの間に頭部を挟まれた。	229	7	10～ 29
2002	7	～ 15	炎天下の屋外路上において、配管等埋戻し後の本舗装を行うため午前中より準備作業を行っていたが、午後になって意識朦朧としていたので、日陰で休憩させたが容態が悪化した。	715	11	1～9
2002	7	～ 4	養殖飼料を小分けするため、フォークリフトで吊上げた質量約700kgのフレコンバックの下部に立入っていたときにバッグが落下して下敷きになった。	222	4	50～ 99
2002	7	～ 10	工場のピット内配管の詰りを取るためピット内に入ったときに、滞留していた硫化水素を吸い込み中毒となった。	514	12	1～9
2002	6	～ 14	マンション13階のサービスバルコニー（エアコン室外機等置場、地上約35m）と共用通路との間に折りたたんだままの脚立を架け渡して鳩の卵の除去作業を行っていたときに、移動中に脚立が手すり上から外れ脚立とともに地上へ墜落した。	371	1	50～ 99
2002	7	～ 12	約10年前まで捺染工場であった建物の排水処理設備の清掃作業で、作業員3名が浄化槽ピット内で水を撒きながら堆積していた汚泥を水中ポンプで汲み出す作業中に3名とも倒れた。	714	12	1～9
2002	7	～	約10年前まで捺染工場であった建物の排水処理設備の清掃作業で、作業員3名が浄化槽ピット内で水を撒きながら堆積していた汚泥を水中ポンプで	714	12	1～9

		12	汲み出す作業中に3名とも倒れた。			
2002	7	11 ～ 12	約10年前まで捺染工場であった建物の排水処理設備の清掃作業で、作業員3名が浄化槽ピット内で水を撒きながら堆積していた汚泥を水中ポンプで汲み出す作業中に3名とも倒れた。	714	12	1～9
2002	6	14 ～ 15	資材置場から搬入したコンパネ（一束約800kg）をつり上げ荷重2.52tのトラッククレーンで吊り下ろす作業中に、吊り荷が激突した。	212	6	1～9
2002	7	11 ～ 12	自動車運搬船を接岸させるため、係留ロープをピットへ設置し運搬船の船員が船内のウインチを使い巻き上げたところ、途中のピットに引っかかっていた係留ロープが外れて飛び、ロープの内角側にいた者の胸部に激突し、反動で後ろ向きに倒れてコンクリート地面で後頭部を強打した。	379	6	1～9
2002	6	19 ～ 20	運転代行業務の依頼先に向かうため普通乗用車に2名が同乗して市道を走行中、緩やかな右カーブを曲がりきれずに路肩のコンクリート製電柱に激突し、助手席の同乗者が死亡、運転者が重傷を負った。	231	17	50～ 99
2002	6	13 ～ 14	機材センターへ仮設資材を取りに行くため軽トラックで国道を走行中、交差点で前方で右折しようとした車輛3台に玉突き衝突した。	221	17	50～ 99
2002	6	18 ～ 19	工場内の造管機の接地工事において、幅約80cmの箇所を両足で跨ぎ携帯式アース棒打込機を用いてアース棒（1.4φ、長さ150cm）を打込んでいたときに、約30cm入ったところで体のバランスを失って前に倒れ、アース棒が右眼から頭部に刺さった。	418	2	10～ 29
2002	6	16 ～ 17	軽自動車で県道を走行中、急な登りのカーブにさしかかった時に対向車線を走行してきたクレーン車とセンターライン付近で衝突した。	212	17	10～ 29
2002	12	2 ～ 3	作業を終えて4t貨物自動車で自動車道を走行中、運転を誤って前方のワゴン車に追突接触し、ハンドルを取られてガードレールに激突した。	221	17	1～9

2002	6	19 ～ 20	地上約11mにある本社ビルの屋根上で、雨漏りの原因と思われる箇所をビニールシートで覆う作業を行っていたときに、屋根から地上に墜落した。	415	1	100 ～ 299
2002	9	16 ～ 17	レストランの解体工事で出た廃材を4tトラックに積み自動車道を走行中、トラック右後方のタイヤがパンクしてバランスを失い横転した。	221	17	1～9
2002	6	8 ～ 9	砂利採取現場の土捨場において、残土を積んだダンプ（4t）を誘導者の指示のもと後進していたところ、後進しすぎて水の溜まっている残土捨場（深さ約12m：うち水深約5m）にダンプごと転落して水没した。	221	1	1～9
2002	5	21 ～ 22	パチンコ店のごみを駐車場横にあるごみ捨て場に捨て、台車を押して店に帰るため市道を横断していたところ、左側より走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	30～ 49
2002	5	9 ～ 10	埠頭岸壁に接岸していた船の船倉から荷揚げした梱包された合板（縦185×横95×高さ125cm、質量約1.5t）9梱包（3段×3列）を、岸壁においてフォークリフトを用いる荷さばき作業と同時並行して検品作業を行っていたところ、3段目の梱包された合板の一つが（高さ約2.7m）落下し検品作業を行っていた者が下敷きになった。	611	4	10～ 29
2002	3	13 ～ 14	粉砕機周辺で作業をしていて、粉砕機に巻き込まれた。	162	7	1～9
2002	2	11 ～ 12	講習会の講師をするため同僚と営業車で走行中、道路近くの野焼きの煙が道路上に滞留したため先行車両が急減速し、後続車が次々と追突する多重衝突事故（14台衝突、4人死亡、10人負傷）に巻き込まれた。	231	17	30～ 49
2002	3	11 ～ 12	講習会の講師をするため同僚と営業車で走行中、道路近くの野焼きの煙が道路上に滞留したため先行車両が急減速し、後続車が次々と追突する多重衝突事故（14台衝突、4人死亡、10人負傷）に巻き込まれた。	231	17	30～ 49
			工場屋上に設置されたベンチレーターの取替工事のため、ベンチレーター			

2002	2	8 ～ 9	の周囲のスレート屋根上に足場板を敷く作業を行っていたところ、地上にいた被災者（足場板を敷く作業には従事せず）が屋根に上がってベンチレーターに近づこうとして足場板が敷かれていないスレートを踏み抜き、7.4m下の工場内コンクリート土間へ墜落した。	415	1	1～9
2002	4	16 ～ 17	アパート及び倉庫の解体工事に付随した立木（檜、高さ約7m）の伐採作業で、立木に登って枝払い作業を行っていて高さ約4.5mから墜落した。	712	1	1～9
2002	5	11 ～ 12	川の護岸工事において、準備の一部として現況確認のための測量作業を小型の手漕ぎボートを使用し、1名が船上、2名が岸でその補助作業に従事していたところ、船が転覆して船上で作業していた者が川に転落したので、これを救助しようと川に飛び込み行方不明となった。	713	10	1～9
2002	5	0 ～ 1	碎石の積み込みを行うため、ショベルローダー（20t）の近くに大型ダンプを止めてダンプから降りて敷地内を歩いていたところ、後退してきたショベルローダーに轢かれた。	141	7	10～ 29
2002	4	16 ～ 17	トラクターショベル（機体質量6.8t）で束ねられたビニールハウスの骨組用鉄製パイプを吊り上げて運搬中、トラクターショベルの前方でパイプの振れ防止のため介添えしていた者がトラクターショベルに轢かれた。	141	7	1～9
2002	3	15 ～ 16	木造倉庫の解体材の整理積み込み等を行っていて転落し、頭部を強打した。	371	1	1～9
2002	4	11 ～ 12	焼却炉の扉を取り付けるため、扉（約800kg、105×184×23cm）を焼却炉本体に取り付けていたワイヤーロープに吊るしていたところ、レバークロック（手動：つり上げ荷重1.5t）のチェーンが切れて扉が落下してきて下敷きになった。	361	4	10～ 29
2002	3	11 ～ 12	自動車道を霊柩車にて走行中、道路近くの野焼きの煙が道路上に滞留したため先行車両が急減速し、後続車が次々と追突する多重衝突事故に巻き込まれた。（霊柩車には、遺体とその遺族二人が同乗）	231	17	1～9

2002	3	20 ～ 21	住込みで管理するマンションの夜間定期巡回中、鳥の巣を除去する必要があるかどうかを確認するため3階屋根の端から身を乗り出して巣があると 思われる樹木を上から確認しようとしたときに地上まで墜落した。	415	1	300 ～
2002	3	6 ～ 7	百貨店へ板ガラスを軽トラックで搬送し帰社のため国道を走行中、側壁に 激突した。	221	17	50～ 99
2002	4	15 ～ 16	立体駐車場（地下、車2台を上下に収納する構造）の点検作業中に、駆動 チェーンのピンの1つが外れているのを発見したので車2台を収納した状態 の搬器を最上方に揚げ隣の搬器を下げて、その床上でハンマー等を用いて 駆動チェーンの応急措置を行っていたところ、チェーンが切れて搬器が落 下し搬器とピットとの間に挟まれた。	229	7	1～9
2002	11	15 ～ 16	シルバー人材センター敷地内において、高さ約4mの庭木の剪定作業を脚 立に乗って行っていて墜落した。	371	1	10～ 29
2002	1	11 ～ 12	客先の天井クレーンの月例点検で、つり上げ荷重10.2 tの天井クレーンの ブレーキライニング部を調整中、クレーンの巻き上げドラムに巻き込まれ た。	211	7	100 ～ 299
2002	3	9 ～ 10	マリーナ内のマンションの管理員がガス管交換工事の写真を写すため、マ ンションの屋上に上がってパラペット（高さ約50cm）から身を乗り出す 形で地上で行われている工事の状況を撮影していて30m下の地面に墜落し た。	418	1	30～ 49
2002	2	10 ～ 11	ゴルフ練習場において、1階天井の塗装作業を行っていて高さ2.3mの手す りのない足場上から墜落した。	411	1	10～ 29
2002	3	11 ～ 12	営業先に向かうため軽トラックを運転して県道を走行中、対向車線からセ ンターラインを超えて走行してきたトレーラーと衝突した。	221	17	1～9

2002	3	20 ～ 21	ガソリンスタンドでの勤務を終えて隣接の支店に入り売上金を保管したときに、強盗に頭部を鈍器で殴られ頭蓋骨骨折による脳挫傷で死亡した。	911	90	10～ 29
2002	3	14 ～ 15	材木置場でフォークリフトで木材の運搬・はい積み作業中、はい積みした木材をフォークリフトに装着したウィンチで引き抜いたときに、フォークリフトの後輪が敷地境界の溝に落ちて転倒し、運転手がフォークリフトと斜面との間に挟まれた。	222	6	1～9
2002	2	16 ～ 17	足場資材置場で小型移動式クレーンを用いて足場資材の荷下ろし作業中、約4mの高さに積み上げられていた足場資材が荷崩れを起こして崩壊し、足場資材の間に胸部を挟まれた。	521	5	1～9
2002	2	16 ～ 17	家畜の飼料用牧草倉庫において、床面に積まれていた20個の牧草（質量約1t）を最大荷重3tのクランプフォークリフト（アタッチメントが伸縮する）に積みバックで走行中、フォークリフトが転倒してヘッドガードと床面との間に挟まれた。	222	2	10～ 29
2002	3	11 ～ 12	軽四輪車でモップ等の清掃用品をレンタルの客先に配送中、信号の無い交差点で右折しようとしたところに左からきた4tトラックと衝突した。	231	17	10～ 29
2002	1	16 ～ 17	移動式クレーン（25t）で鋼矢板（長さ9.5m、重さ約600kg）の吊り上げ作業中、玉掛け用シャックルから鋼矢板が外れて激突された。	212	4	50～ 99
2002	4	8 ～ 9	製錬所の貯鉱舎のスレート取替工事のため同僚の後についてスレート屋根上を移動中、スレートを踏み抜いて約14.5mの高さから墜落した。	415	1	10～ 29
2002	1	9 ～ 10	社有車で別荘地内の水道施設を巡回点検中、ガードレールのない左カーブ地点の路面がわだち状に凍結していたため、スリップして約70m下の林に転落した。	231	1	10～ 29
		10	製材工場を倉庫に改造する作業で、警備会社から依頼された防犯用セン			

2002	1	11	サーを高さ3.7mのシャッター収納箱の下部に取り付けるため、高さ2mの脚立を使って作業中にコンクリートの土間に転落した。	371	1	1~9
2002	1	6 ~ 7	立体駐車場（18階建て、高さ31m）の搬器（左右17段）の点検作業のため、作業員4名が搬器（2×4m）に乗り込み最上階（18階）へリフトアップしたところ、上限リミッタスイッチが効かずにチェーンの結束金具がめり込んだので吊り金具を外そうとしたときに、4個所のうち3個所の金具が突然外れて搬器が傾き、1名が開口部（2×2m）から31m下の地面に墜落した。	214	1	1~9
2002	1	13 ~ 14	会社の別荘の屋根の雪下ろし作業中、1.5mほど積もっていた雪が滑落したため巻き込まれて転落し、軒先より約4mあった雪の中に埋没した。	719	1	1~9
2002	1	15 ~ 16	軽自動車で片側二車線の右側車線を走行中、中央車線を突破して反対車線を走行中の大型トラックに激突した。	231	17	1~9
2002	1	8 ~ 9	工場内の除雪のため、車庫より除雪車両（RV車に除雪用ブレードを取付けた車）を出そうとしてドアを開けて車外からエンジンを駆けたところ、ギアが入っていたために車両が前進し、開けたドアが車庫の壁にぶつかってドアと車体の間に身体を挟まれた。	231	7	100 ~ 299
2001	10	12 ~ 13	トラックで走行中、自損事故で車が動かなくなったため、後続車に事故を知らせるため三角板及び発煙筒を用意しようと車の後にまわったとき、後続車に追突された。	221	17	10~ 29
2001	11	0 ~ 1	営業活動のためバス停でバスを待っていたときに、通行中の自転車が接触して転倒し頭を強打した。	362	17	10~ 29
2001	12	14 ~ 15	得意先の事務所内において、3Fから4Fへ上がる階段で踊り場(高さ約70cm)に頭から落下した。	413	1	1~9

2001	12	22 ～ 23	仕事の打合せで工場近くのホテルに泊まるため駅前からタクシーに乗りし て走行中、交差点で右側から進入して来た乗用車と衝突したときにタク シーの左側ドアが開き車外に投げ出された。	231	17	～ 299	100
2001	11	7 ～ 8	立体駐車場の自動車用エレベーター(積載荷重2.8t)のピット床部のゴミ を清掃するため深さ約1.5mのピット内に入っていたとき、エレベーター の搬器が降りてきて地下3階床先と搬器のつま先保護板部分に左腕と頭部 をはさまれた。	214	7	10～ 29	
2001	11	17 ～ 18	商品展示会見学を終えて自分の大型バイクで首都高速道路を走行中、本線 が渋滞(約20～30km/h)していたため路肩を走行中に、路肩走行防止用 ポールに接触転倒し並走していた大型トラックの下に体を投げ出されて後 輪にひかれた。	231	17	～ 9999	1000
2001	9	13 ～ 14	客先に向うため片側2車線道路を横断中、右方向から走行してきたワゴン 車にはねられた。	231	17	50～ 99	
2001	12	0 ～ 1	送電線の障害木を伐採するため測量作業で、同僚の指示でポールを持って 移動していたときに、50度以上の斜面を約21m転落した。	711	1	30～ 49	
2001	12	4 ～ 5	料金所の出口ブースでの業務中に入口の発券枚数の確認のため、入口ブー スのところへ行こうとしたときに、入口から出ようと逆走してきた軽自動 車にひかれた。	231	17	50～ 99	
2001	11	10 ～ 11	地滑り現場に調査に行くため車で走行中、信号のない交差点で右折したと きに大型トラックと出会い頭に衝突した。	231	17	～ 299	100
2001	12	4 ～ 5	運転代行の仕事を終え会社の普通乗用車を会社の駐車場に運ぶ途中、道路 脇の案内板の支柱に激突した。	231	17	1～9	
			5名が前後に移動する舞台ステージの下部の転落防止装置を点検するため				

2001	12	14	迫りに乗りに昇しているときに、通常舞台ステージの下方1.5mの位置で	391	7	10～
		15	リミット装置が作動感知し、減速、自動停止する構造であったのに減速リ			29
			ミット装置は作動したものの、停止リミット装置が作動しなかつたため、舞			
			台ステージと迫りとの間に挟まれ2名が死亡した。			
2001	12	14	5名が前後に移動する舞台ステージの下部の転落防止装置を点検するため	391	7	10～
		15	迫りに乗りに昇しているときに、通常舞台ステージの下方1.5mの位置で			29
			リミット装置が作動感知し、減速、自動停止する構造であったのに減速リ			
			ミット装置は作動したものの、停止リミット装置が作動しなかつたため、舞			
			台ステージと迫りとの間に挟まれ2名が死亡した。			
2001	12	16	土木工事現場の土質試験終了後ワゴン車で国道を走行中、右折のため減速	221	17	10～
		17	していた車を避けようとして反対車線にはみ出してきた対向のトラックに			29
			正面衝突された。			
2001	10	15	機械装置の保守点検作業を終了し別の工場へ移動するため横断歩道を自転	221	17	1～9
		16	車で走行中、信号無視のタンクローリーにはねられた。			
2001	12	13	建物2階の窓を拭くため、高さ3.55mの庇にハシゴを掛けた上り、滑り	415	1	10～
		14	止めのため庇上に脚立を寝かせて作業していたところ、脚立が庇から滑り			29
			落ち、同時に地上へ墜落した。			
2001	11	10	駅構内の乗客用エレベーターの定期点検で、定格速度を測定するために搬	214	7	10～
		11	器の上でタコメーターをガイドレールに押し当て、搬器内の操作者に搬器			29
			を上昇させたときに昇降路天井部のC型鋼と搬器との間にはさまれた。			
2001	11	10	高さ約8mの立木の剪定作業で、高さ4.55mの枝に乗ったところ、枝が折	712	1	100
		11	れたため枝とともに通路に墜落した。			～
						299
2001	9	0	測量作業を行っていて、昼休憩のためこう配28度の斜面を降りようとして	711	2	1～9
		1	笹又はつるに足をとられ前のめりに転倒し、町道横に設置してあるコンク			
			リート製側溝角に頭部を打ちつけた。			

2001	9	16 ～ 17	齋場から乗用車で帰るため国道を走行中、交差点で反対車線に飛び出し対向の車と正面衝突した。	231	17	10～ 29
2001	10	9 ～ 10	乗用車で国道を走行中、右側の法面が崩壊し車両が土砂にのみこまれた。	711	5	1～9
2001	10	8 ～ 9	線路近くの民家の測量を線路敷地内に立ち入って行って、測量地点を移動していたときに接近する電車に気付くのが遅れて電車に激突された。	232	18	1～9
2001	10	2 ～ 3	製造されたバスをバス会社に納入するため走行中、国道のカーブを曲がりきれずにセンターラインをはみ出し、対向の大型トラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2001	6	17 ～ 18	営業のため、客先に軽自動車(600ccのトラック)で同僚と訪問し、地下駐車場より出庫するため同僚の運転する車を誘導していたところ、車と壁の間にはさまれた。	231	7	1～9
2001	8	15 ～ 16	マンションの機械駐車場のピット内にあるポンプの設備点検を行っていたときに他の作業者が誤って駐車場の操作盤を操作したためピット上にあった車のパレットが下降し、パレットとピットの床との間で押しつぶされた。	391	7	300 ～
2001	8	19 ～ 20	公演の舞台設営で地上約15m上方に設置された舞台照明の調整作業を行うため、縄梯子を登っていて地上約13m付近のところから地上に墜落した。	371	1	1～9
2001	9	11 ～ 12	玄米が入った紙袋(1袋約30kg)のはい付け作業中に約5mのはいが崩れたので、片付けていたときに崩壊せずに残っていた高さ約5mのはいが崩壊し、下敷きになった。	611	5	30～ 49
2001	9	13 ～	収穫されたナスを選別するため建屋の1階でプラスチック製のケースに入れ荷揚げ装置により2階に上げる作業を行っていたところ、ケースがひっ	229	7	30～

		14	くりかえってナスがこぼれ落ちたので落ちたナスを拾おうと荷上げ装置の中に入って荷上げ装置のバーと鉄骨との間に挟まれた。			49
2001	8	10 ～ 11	シロアリ駆除の出張作業のため社有車で国道を走行中、対向車線にはみ出しタンクローリー車(最大積載量11t)と正面衝突した。	231	17	10～ 29
2001	8	15 ～ 16	パチンコホールでのメンテナンス作業を終了し社有車で走行中、高速道路でガードレールに衝突した。	231	17	1～9
2001	7	0 ～ 1	山中において送電線鉄塔化のための測量作業を行っていて、昼食休憩のために斜面(約60度)を移動していたときに足を踏み外して約40m滑落したのち道路脇に激突した。	711	1	1～9
2001	8	18 ～ 19	作業員2人で川幅30mの横断測量を行うため、川の中に立てる目印を持って泳ぎながら移動していて溺れた。	713	10	10～ 29
2001	7	23 ～ 24	運転代行業務が終了し代行車で県道を走行中、前走行の車を片道一車線のカーブで追い越そうと中央線を越えたときに、対向の乗用車と正面衝突した。	231	17	30～ 49
2001	8	14 ～ 15	ライトバンで電報配達事務所での仕事を終え県道を走行中、ゆるい左カーブで対向車線にはみ出し、対向の大型ダンプカーと正面衝突した。	231	17	1～9
2001	7	11 ～ 12	高等学校の消防用設備等の点検作業で講堂内の消火器の点検のためコンクリート床面から吊天井に乗り移ったときに天井材を踏み抜き高さ11m下の1階床面へ墜落した。	418	1	10～ 29
2001	4	7 ～ 8	事務所の階段を上がっていたとき階段から足を踏み外し、1. 17m下の1階フロアに仰向けで転落した。	413	1	1～9
		8	国土調査に使用する杭をリュックで背負って山中を移動中、足を滑らせて			100

2001	7	～ 9	約12m下のコンクリート道路に転落した。	711	1	～ 299
2001	6	15 ～ 16	建築廃材の入った小コンテナ(約500Kg)を積載型小型移動式クレーンで吊り上げ荷台の大コンテナへ積み替え撤去する作業で、荷台上でリモコン操作により小コンテナの廃材を大コンテナに空けているときに、立てていた小コンテナが倒れ小コンテナと大コンテナとの間に挟まれた。	212	7	1～9
2001	6	7 ～ 8	イカ釣り漁船からイカの荷受け作業をしたのち、タコの荷積作業を開始することになっていたが姿を見せなかったので付近を捜していたところ、テトラブロックの間で溺死体となっていた。	418	1	50～ 99
2001	6	14 ～ 15	山林に通じる道周辺の草刈りを行い刈取った枯草等を集めて焼いていたところ、火が付近の枯草に燃え移り山林に延焼したので山林内に入り消火中に火煙に包まれ焼死した。	911	16	30～ 49
2001	5	17 ～ 18	ライトバンで米の配達を終え、国道を走行中、センターラインを越えたため対向の中型バスと正面衝突した。	231	17	30～ 49
2001	5	6 ～ 7	ビル屋上に設置された変圧器の年次点検で、点検が終了したのち停電して清掃していたところ、責任者が清掃作業が先に終了した変圧器に通電しようとして誤って作業中の変圧器に通電させたため感電した。	352	13	1～9
2001	5	18 ～ 19	道路において、故障車両にけん引台車を装着しているときに、走行してきた車両に追突され、さらに左後輪で頭部をひかれた。	221	17	1～9
2001	4	22 ～ 23	ピット内において配管部品等の定期整備を行っていて、休憩のため既設タラップを使用して昇っていたときにピット内に墜落した。	418	1	10～ 29
2001	4	16 ～ 17	集金業務を終え普通乗用車で直線道路を走行中、センターラインを越え対向の普通乗用車と正面衝突した。	231	17	10～ 29

2001	4	11 ～ 12	フォークリフトを育苗用床土の入っている袋(重さ0.9t)を運搬するため、2段積みされている袋の上(高さ185cm)に上がり、フォークにロープを掛ける作業をしていたときに転落し、停止していたフォークリフトのフォーク部分に激突したのち床面に落下した。	611	1	10～ 29
2001	3	8 ～ 9	建物1階のドライエリア(地下への機材搬入のためのスペース)を覆っていたグレイチング上に乗ったときに、仮置きグレイチング1枚(約90cm×90cm、重さ約22.6kg)とともに約5m下の地下1階床部分に墜落した。	419	1	1～9
2001	3	23 ～ 24	代行車で走行中、雪が降ったため車から降りて路面の状況を確認していたときにワゴン車にはねられた。	231	17	1～9
2001	1	7 ～ 8	自宅から社用車で個人宅へ在宅介護をするため走行中、緩いカーブで曲がりきれずに反対車線にはみ出し対向のトラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2001	3	1 ～ 2	客の自動車の運転を代行して国道を走行中、対向の大型保冷車が中央線をはみ出してきたため正面衝突した。	221	17	10～ 29
2001	2	19 ～ 20	社用トラックを会社戻すために走行中、下り坂の雪の残っている場所でスリップして反対車線側の電柱に激突した。	221	17	10～ 29
2001	1	11 ～ 12	軽自動車個人向け食材を配達のため町道を走行中、緩やかな左カーブを誤って直進してしまい進行方向右側(反対側)のコンクリート製電柱に衝突した。	221	17	100 ～ 299
2000	10	18 ～ 19	マイクロバスで走行中、県道と町道が交差する交差点で県道を走行してきた10tトラックと出会い頭に衝突した。	231	17	1～9
		10	ダム支水路脇の土手で草刈り機を使用して除草作業を行っていて、土手を			10～

2000	10	～	移動中に水路に転落して流され約1時間後に約300m下流のダムで発見された。	713	10	29
2000	4	～	8 漁協ドックにおいて、船を海中に降ろすため船台下のレールなどの点検作業中に、突然船台に乗っていた船が倒れ、コンクリートの床面と船との間に上半身を挟まれた。	239	5	1～9
2000	9	～	17 山中での地籍調査を終えて林の中を下山している途中でオオスズメバチに襲われた。右側頭部など全身9箇所を刺された。	719	90	100～ 299
2000	6	～	14 橋の増幅工事に先行して現場の水深を測量するため箱尺(長さ5m、重さ1.8kg)を持って橋脚に向かい川(水深約3m)を泳いでいて行方不明となり、約1時間30分後に約5m下流の川底で水死体となって発見された。	713	10	1～9
2000	8	～	9 テルハの電源コード(200V)の断線を修理のため、移動はしご上で電源コードの芯線を加工中に感電し、墜落した。	211	13	1～9
2000	1	～	16 定置網の被害調査で潜水作業を行っているときに、水深約15m付近で潜水していた者の異状に気付いて引き上げたが酸欠状態となっていた。	391	10	1～9
2000	6	～	12 代行運転のため車に2人乗り走行中、同僚が運転を誤ってガードレールに激突したため助手席に乗っていて死亡した。	231	17	10～ 29
2000	9	～	11 ブロイラーを出荷したのち鶏舎を清掃し、ショベルローダに鶏糞を積載してバックで鶏舎から集積倉庫へ私道を走行中、右側の約2m下の小川へ	225	1	100～ 299
			12 ショベルローダとともに転落した。			
2000	11	～	3 木材埠頭において、文化財収蔵庫に使用する木材の燻蒸を臭化メチル、酸化エチレンを用い行っていて、翌日にシートを一部開放して燻蒸に用いたホース等を車に積み込み濃度測定のため夜を通して車内で待機していたところ、気分が悪くなり病院に運ばれたが急性薬物中毒により死亡した。	514	12	30～ 49

2000	11	16 ～ 17	事務所へ追跡調査用バイクの交換をするため高速道路を走行中、ジャンクションの左カーブで転倒しハンドルで胸を強打した。	231	17	1～9
2000	11	0 ～ 1	残土処理場において、大雨で溜まった水を調整池に排水するため、排水口(内径40cm)の上に付着していたタイヤチューブを2人がかりで取り除いたところ、1人が溜まっていた雨水ごと排水口に吸い込まれ、それを助けようとしたもう1人も相次いで吸い込まれ、調整池まで排水管の中を約60m流され、後から吸い込まれた者が調整池で溺死した。	713	10	1～9
2000	7	0 ～ 1	会社の研修で公園を3周走るように命令されて2周半走破したときに倒れ、全身痙攣を起した。	999	99	100 ～ 299
2000	5	0 ～ 1	新規採用面接会場へ向かうためオートバイで走行中、高速道路トラックが右折してきたため、衝突した。	221	17	30～ 49
2000	3	15 ～ 16	顧客からクレーム処理を終えて軽ワゴン車で国道を走行中、センターラインをはみ出し対向のダンプカーと正面衝突した。	231	17	100 ～ 299
2000	2	11 ～ 12	高速道路料金所ブースの清掃作業終了後、2tダンプで次の作業場へ移動中に側壁に接触し、追い越車線に飛び出して走行中のトラックに衝突した。	221	17	10～ 29
2000	6	8 ～ 9	事務所前の廊下で団体職員が廊下の窓を開けたときに、誤って窓から10m下の路上に転落した。	418	1	10～ 29
2000	11	17 ～ 18	原動機付き自転車で走行中、交差点において右方向から進入してきた軽トラックと出会い頭に衝突した。	231	17	1～9
		8	軽トラックで国道を走行中、交差点で右側より信号無視で進入してきた乗			30～

2000	8	～ 9	用車に激突された。	231	17	49
2000	1	11 ～ 12	営業活動で訪問先へ向かうため、信号機のある交叉点の横断歩道上を歩行していたときに、右折してきた軽貨物自動車にはねられた。	221	17	1～9
2000	12	9 ～ 10	フォークリフトで鉄板を運ぶため鉄板の下に角材を入れていたときに、走行して来たフォークリフトに激突された。	222	6	100 ～ 299
2000	2	11 ～ 12	発電所の発電に使用した水を受ける放水庭(幅約20m、長さ約10m、水深約3.5m)のコンクリート壁等を潜水で点検中、空気を送るホースが外れ溺死した。	713	10	10～ 29
2000	3	10 ～ 11	引込線の漏電検査で、養魚場の分電盤を検査するため石段を降りていたときに水槽のマンホールのベニア板の覆いを踏み抜きマンホール内に転落した。	418	10	1～9
2000	1	10 ～ 11	結婚式場の建物外の鳥の巣(高さ5.9mの換気扇フードに作られたもの)を除去し、アルミ製脚立から降りるときに、バランスを崩し約4.2メートルの高さから墜落した。	371	1	1～9
2000	9	22 ～ 23	同僚等(4名)と関連会社社員の私有車で自動車道を走行中、中央分離帯縁石に接触して反対車線ガードレールに激突し、最後部座席に乗車していた後部ガラスを突き破り車外に投げ出された。	231	17	30～ 49
2000	12	2 ～ 3	運転代行を行って事務所へ戻る途中、交差点で黄色の点滅信号で徐行せずに入ったときに、赤の点滅信号で一旦停止せずに交差点に入った乗用車と衝突し、助手席にいた者が死亡した。	231	17	10～ 29
2000	1	3 ～ 4	高速道路で発生した事故処理作業において、路肩規制内で後方の警戒を行っていたところへ普通乗用車が突入してきて停車していた巡回車に激突し、さらに警戒していた者に衝突した。	231	17	10～ 29
		13	3階建物に付設した荷取りステージにフォークリフトで運び込んだ荷を地			50～

2000	12	～	上から3階荷取りステージに取り込むため、テルハクレーンの準備をして	418	1	
		14	いるときに荷取り込み口から7.35m下に墜落した。			99
2000	9	6	健康器具等の訪問販売を終えてワゴン車で走行中、緩やかなカーブで対向	231	17	30～
		7	車線に進入し、対向の4tトラックと正面衝突した。			49
2000	8	15	出張先で電気炉制御盤の点検作業中に、制御盤の充電部分に接触して感電	352	13	50～
		16	した。			99
2000	5	19	各現場の打合せと鉄骨建て方の見学に行きオートバイで帰社途中、高速道	231	17	10～
		20	路の出口付近のゼブラゾーンに入ったところで前の車を追い抜こうとして			29
			転倒した。			
2000	5	6	物件の下調べのため社有車で走行中、追い越しのため対向車線に出たとき	231	17	1～9
		7	に対向車と正面衝突し、さらに同様に追い越しをかけてきた車にも追突さ			
			れた。			
2000	3	2	貸し金庫の警備会社の警報機が作動したので駆けつけたところ管理してい	911	90	1～9
		3	た者が顔と両足を粘着テープでぐるぐる巻きにされ、後ろ手に手錠を掛け			
			られ窒息死していた。			
2000	9	16	木造2階建建築工事現場において外壁板の防腐処理作業をいったところ、	351	13	1～9
		17	仮設の配線の絶縁被覆が破けて足場に通电していたため、被災者が足場に			
			接触したときに感電した。			
2000	3	9	工場のストックヤードにおいて、吊り上げ荷重7.2tの床上操作式門形ク	211	6	1～9
		10	レーンでPC板を降ろしクレーンを格納しているときに、他のPC板に取り			
			付けられた金物を計測している者にクレーンのサドルが激突した。			
2000	3	11	水道メーター検針のため軽乗用車で走行中、カーブで運転操作を誤って反	231	17	30～
		12	対車線の側路肩に乗り上げ電柱に衝突した。			49
		14	自動販売機を積んだ2tトラックに同乗して走行中、停車中の10tトラック			

2000	9	～ 15	に追突したため、助手席で胸部損傷を受けた。	221	17	1～9
2000	8	8 ～ 9	船から降ろされた木材の検数作業中、船上の木材を降ろす移動式クレーンのグラップルを運搬していたフォークローダーにひかれた。	141	7	10～ 29
2000	8	8 ～ 9	ケースコンベヤの防火ダンパー6ヶ所が閉じたので、その復旧作業中に、天井内部の蛍光灯器具に触れ感電した。	359	13	1～9
2000	10	17 ～ 18	役場へ業務打ち合せに行くために車で走行中、畑の取り付け道路から、大型トラックがバックで出てきたため、車は避けることができずに大型トラックの荷台後部の下に潜り込む形で衝突した。	221	17	10～ 29
2000	4	19 ～ 20	河川の水位等の調査のため車で出発した2人が予定時刻になっても帰社しなかったため、関係機関等において捜索したところ2人が水死体で発見された。	713	10	10～ 29
2000	4	19 ～ 20	河川の水位等の調査のため車で出発した2人が予定時刻になっても帰社しなかったため、関係機関等において捜索したところ2人が水死体で発見された。	713	10	10～ 29
1999	6	0 ～ 1	同僚の運転する会社の乗用車で組合員の指定圃場の巡回調査(水稲の生育状況調査)を行っていたが、町道上の交差点で他の乗用車と衝突したため、助手席で全身を強打した。	231	17	50～ 99
1999	12	18 ～ 19	測量等の作業が終了し軽トラックで走行中、路面が凍結していたため対向車線にはみ出し、対向の4tトラックと正面衝突した。	231	17	1～9
1999	12	10 ～ 11	仕事の打合せのため本社に向けて乗用車で走行中、運転操作を誤りワゴン車と衝突した。	231	17	1～9
		10				300

1999	12	～ 11	喫煙のため、8階の喫煙室に行き誤って窓から転落した。	418	1	～ 499
1999	10	～ 16	乗用車で走行中、橋脚に正面衝突した。	231	17	50～ 99
1999	12	～ 10	社用のライトバンで自動車道を走行中、前方の車に追突したので(車3台の追突事故)路上に降りて相手方と話し合いをしていたときに、保冷車に追突された停車中のライトバンが動いてきて激突された。	221	17	1～9
1999	9	～ 8	ふすま2枚を運搬するため事業場のトラックで県道を走行中、直進してきた乗用車と衝突し、さらに水田に転落した。	221	17	1～9
1999	12	～ 17	りんご農家より依頼のあった肥料(フレキシブルコンテナ、重さ約800kg)を積載型トラッククレーン(つり上げ荷重2.52t)で降ろす下ろす作業中、トラッククレーンが畑に転落し、その下敷きになった。	212	1	1～9
1999	6	～ 15	会社へ帰るため乗用車で走行中、駐車場から右折してきた車に右後部をぶつけられ、そのはずみで対向車線にはみ出し対向の車と衝突した。	231	17	1～9
1999	3	～ 8	トラックで顧客先へ商品を届る途中、国道交差点で信号待ちをしていた大型トラックに追突した。	221	17	30～ 49
1999	12	～ 17	自転車に乗り信号のない市道の交差点を渡っていたところ、走行してきた軽ワンボックス車と衝突した。	231	17	1～9
1999	10	～ 24	23 自家用車で出張中に、移動中に運転操作を誤り事故を起こした。	231	17	10～ 29
		0	マンションの10階屋上で基準点の測定を終了し、両手に器材(アルミ梯子			

1999	11	1	約9. 8Kgと測量器約8Kg)を持ち1階へ降りるときに、最短距離を通ろうと屋上のパラペット外側の底を通ったためバランスを崩し、10階屋上から地上へ墜落した。	415	1	50～99
1999	8	22～23	会社のトラックで国道を走行中、交差点で信号を無視したため右折していた対向車と衝突した。	221	17	1～9
1999	10	19～20	出張で現地運転者の運転する車で国道を走行中、ハイビームの対向車が来たために運転者の目が眩み、無灯火で路上に駐車していた大型トラックに追突した。	231	17	300～
1999	9	11～12	住宅の修善工事の見積もりのため屋根に登って雨漏りの状況を点検して高さ2. 58メートルの屋根から降りようとしたときに墜落した。	415	1	100～299
1999	10	10～11	事業所内において、トレーラーの荷台上で製品の寸法を計測中に、運転手がトレーラーを前進させたため転落し、トレーラーの後輪に巻き込まれた。	221	7	1000～9999
1999	10	1～2	運転代行業務を終え、同僚労働者の運転する軽乗用車で県道を走行中、対向してきた軽トラックと道路中央線付近で衝突した。	231	17	50～99
1999	8	13～14	依頼先へライトバンで移動中、高速料金所手前80m地点で料金所手前で4tトラックに追突した。	231	17	300～
1999	8	13～14	他社の社員が運転するライトバンに同乗して出張修理に現場へ向かうため高速を走行していたところ、料金所手前約80m地点において前方の4tトラックに追突し運転者と共に死亡した。	231	17	50～99
1999	9	13～14	3番ホール・グリーン脇の大木(高さ約20m、胸高直径56cm)一部がグリーン上にかかって、芝の生育不良の原因となっているため、木に梯子で高さ約9. 5mの枝上に登り、鋸で別の枝の切り落としをしていて、地面(芝生)	712	1	1～9

			に墜落した。			
1999	9	15 ～ 16	大型フォークリフトが前傾したためにはずれたカウンターウエイトに足を挟まれた者を助けるために、フォークリフトでウエイトを移動させようとしたときに、大型フォークリフトにぶつかり、その衝撃で2トンフォークが転倒したため、近くにいた者が2トンフォークの下敷になった。	222	6	1～9
1999	7	10 ～ 11	係船ロープ係として乗船していて、1500立方メートル積み全開式土運船の接岸中、突然海上に墜落した。	713	10	1～9
1999	7	22 ～ 23	運転代行業務を終え片側2車線の信号の無い国道交差点で右折して本線に乗ろうとしたが交通量が多く車線上で待機していたところに、運転席の右横からの乗用車が激突してきた。	231	17	10～ 29
1999	8	9 ～ 10	国道交差点で、1. 7tトラックと14tトラックが衝突し、1.7tトラックの後部座席にいた労働者3名が死亡した。	221	17	10～ 29
1999	8	9 ～ 10	国道交差点で、1. 7tトラックと14tトラックが衝突し、1.7tトラックの後部座席にいた労働者3名が死亡した。	221	17	10～ 29
1999	8	9 ～ 10	国道交差点で、1. 7tトラックと14tトラックが衝突し、1.7tトラックの後部座席にいた労働者3名が死亡した。	221	17	10～ 29
1999	8	17 ～ 18	小麦保管倉庫内において小麦用コンテナバック(重量約1t)が5段高さ約4メートルに積み上げられたところから南側に1. 2メートル離れた箇所でも面にビニールシートを敷く作業をしていたところ、コンテナバックが突然倒れ、下敷きになった。	611	5	50～ 99
1999	7	9 ～ 10	事務所において、るエレベーターを使用せずに階段を昇っていて、5Fから4Fに差しかかったときに階段で転倒し、頭部を打った。	413	1	30～ 49

1999	7	22 ～ 23	在日米軍施設内において、貯油施設の管理の作業についていた作業員が、施設内のセパレーター(施設内から海に流出する雨水から油を除去するためのピット)内に沈んでいるのが発見された。	414	10	50～ 99
1999	6	16 ～ 17	農道をバイクで走行中、農道と市道の交差点で市道を走ってきた軽ワゴン車と出会い頭に衝突した。	231	17	10～ 29
1999	5	5 ～ 6	50ccバイクで走行していて、交差点でゴミ収集トラックと衝突した。	221	17	30～ 49
1999	1	21 ～ 22	ロックバンドのコンサート終了後、ステージと客席の間に設置されたマイククロホン等の片付けていたときに、ステージを油圧ジャッキで持ち上げたために生じた開口部から2.4メートル下に墜落した。	414	1	1～9
1999	6	8 ～ 9	車で県道を走行中、ガードレールの切れ目から崖下に転落した。	231	17	1～9
1999	5	7 ～ 8	潜水技術の習得のため訓練で、マリナー内の片道80mのコースを2往復する予定の2往復目が始まったときに見当たらなくなり、搜索したところ水深約3mの海底に沈んでいた。	713	10	50～ 99
1999	2	2 ～ 3	同僚と二人で客を迎えに行く途中、対向車が車線をはみ出してきて衝突した。	231	17	10～ 29
1999	4	13 ～ 14	軽トラックで走行中、対向のトラックがセンターラインを越えて乗用車に接触正面から衝突してきた。	221	17	10～ 29
1999	4	11 ～ 12	電波障害調査のため、4Fのペントハウス屋上の柵外にあるテレビ機器収納盤にケーブルを接続し、その状態の写真撮影を行っていたときに、高さ約50センチのパラペットを超えて19.5メートル下の地上に墜落した。	418	1	10～ 29

1999	3	13 ～ 14	マンション屋外の3階建て立体駐車場で、2階部分に許容高さを超える軽トラックが駐車して屋根が3階プレートの底部に接触したため、この復旧のため軽トラックの隣にあるプレートに上がるため駐車設備のフレームからプレートに移動中、フレームとプレートの隙間から墜落した。	418	1	10～ 29
1999	3	0 ～ 1	護岸災害復旧工事のための測量を行うため、小形木船に乗船して川の水深を測っていたときに船が転覆した。	239	10	1～9
1999	2	9 ～ 10	国道のトンネル内を乗用車で走行中に、前車を追い越すために反対車線に出たときに、対向の乗用車と正面衝突し、さらに、追い越した軽乗用車に追突された。	231	17	10～ 29
1999	1	13 ～ 14	福祉施設の大会議室の天井の電球が切れたため、天井裏に上がりキャットウォークと呼ばれる通路から鉄骨の梁の上を渡って、約4メートル離れた球切れした電灯まで行ったところで、周囲に敷き詰めてあるグラスウールボードを踏み抜いて約6メートル下に墜落した。	418	1	1～9
1999	1	11 ～ 12	対面するビルの工事に伴う環境測定のため、4階屋上で屋上部分の面積を測定する作業中、メジャーの端を持って後ろ向きに歩いていたため、パラペットを乗り越え地上に墜落した。	418	1	10～ 29
1999	2	15 ～ 16	工事のコンサルタント業務を終了して工事現場内をライトバンに乗って走行中、現場で作業していた45トンダンプトラックがバックしてきて激突され、ライトバンに乗っていた2名は押しつぶされて1名が即死し1名が負傷した。	227	6	1～9
1999	2	19 ～ 20	有料道路の料金収受員が業務を終えて詰所に戻るため道路横断中、料金所を突破しようとした乗用車にはねられた。	231	17	50～ 99
1999	2	10 ～ 11	搾乳手伝いの打合せのため道路を走行中、地吹雪で視界不良であったため道路中央付近に寄って走行していたところ、同様に道路中央付近に寄って走行してきた対向車と衝突した。	231	17	100 ～ 299

1999	1	10 ～ 11	事務所屋上で吹きだまった雪を落とすため、プラスチック製のスコップを持って様子を見に屋上へいったときに、誤って約8m下の地面に墜落した。	418	1	100 ～ 299
1999	1	0 ～ 1	工場内にあるキュービクル式高圧受電設備の点検中、充電部分に触れ感電した。	352	13	100 ～ 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。